

中国における高齢者の生涯学習に関する
公共図書館の役割
—杭州図書館を事例として—

筑波大学
図書館情報メディア研究科

2019 年 3 月

盧 仁吉

目次

1.はじめに	1
1.1 研究背景	1
1.2 研究目的	5
1.3 研究方法	6
1.4 先行研究	6
1.5 論文の構成	7
1.6 用語の定義	8
2.中国の公共図書館における高齢者サービスの現状	13
2.1 中国社会の高齢化と公共図書館	13
2.1.1 中国社会の高齢化の進行と問題点	13
2.1.2 中国における公共図書館の概況	15
2.1.3 公共図書館における高齢者サービスの根拠	20
2.2 中国における公共図書館の高齢者サービスの取り巻く状況	21
2.2.1 高齢者サービスとは	21
2.2.2 中国における公共図書館の高齢者サービスの事例	23
3.中国の生涯教育システムにおける公共図書館	27
3.1 中国における生涯学習に関する概念と高齢化社会における影響	27
3.1.1 生涯学習に関する概念	27
3.1.2 高齢化社会における生涯学習の影響	31
3.2 中国における生涯教育システムの概要と公共図書館の位置付け	34
3.3 中国の生涯教育システムにおける公共図書館の事例	37
4.中国における公共図書館の高齢者サービスの事例—杭州図書館を事例として....	43
4.1 杭州図書館の概況	43
4.1.1 杭州市の概要	43
4.1.2 杭州図書館の概要	43
4.2 2016 年の杭州図書館の高齢者プログラム	45

4.2.1 高齢者を対象として企画された図書館プログラムの概況	45
4.2.2 高齢者を対象として企画された図書館プログラムと児童ヤングアダルトプログラムの比較	48
4.2.3 参加者の多くが高齢者である図書館プログラム	49
4.2.4 高齢者プログラムの開催する場所の分布	53
4.3 杭州図書館の高齢者プログラムに対する考察	54
5. 杭州図書館における高齢者の利用・生涯学習の意識に対する実態調査	57
5.1 調査の概要	57
5.2 図書館利用・生涯学習・協働の実態	60
5.2.1 属性	60
5.2.2 図書館の利用状況と満足度	62
5.2.3 生涯学習の経験や形式	67
5.2.4 図書館との協働	72
5.3 「高齢者が主催する高齢者プログラム」への参加別の生涯学習と協働の比較	76
5.3.1 「高齢者が主催する高齢者プログラム」への参加	76
5.3.2 「高齢者が主催する高齢者プログラム」への参加別の比較	76
5.4 調査結果のまとめ	81
5.4.1 公共図書館の高齢者の利用状況	81
5.4.2 公共図書館における高齢利用者の生涯学習の現状	82
5.4.3 公共図書館における協働の現状	83
5.4.4 「高齢者が主催する高齢者プログラム」への参加別の生涯学習と協働の比較	83
6. 高齢者の生涯学習に着目した公共図書館の役割に関する調査	86
6.1 調査の概要	86
6.2 調査結果	88
6.2.1 調査対象者の業務内容	89
6.2.2 生涯学習	89
6.2.4 高齢利用者の高齢者サービスの利用状況	94
6.3 調査結果のまとめ	99
6.3.1 生涯学習	100
6.3.2 高齢者サービスの提供状況	100

6.3.3 高齢利用者の杭州図書館の利用状況	101
6.3.4 今後の展望	101
6.3.5 生活主題分館の責任者の考え	102
7.利用者として的高齢利用者と公共図書館の協働の事例	104
7.1 調査の概要	104
7.2「時光之旅プログラム」について	105
7.3 調査結果	108
7.3.1 調査対象者について	108
7.3.2 高齢者が主催する高齢者プログラムを始まるきっかけと経緯と理由	109
7.3.3 高齢者が主催する高齢者プログラムの運営の事項および杭州図書館との交渉	110
7.3.4 高齢者が主催する高齢者プログラムに関する生涯学習	111
7.3.5 生活主題分館との協働	112
7.4 調査結果のまとめ	113
7.4.1 調査対象者について	113
7.4.2 高齢者が主催する高齢者プログラムを始まるきっかけと経緯と理由	113
7.4.3 高齢者が主催する高齢者プログラムの運営の事項および杭州図書館との交渉	114
7.4.4 高齢者が主催する高齢者プログラムに関する生涯学習	114
7.4.5 生活主題分館との協働	115
8.中国における高齢者の生涯学習に関する公共図書館の役割	116
8.1 高齢化が進行している中国社会で求められる生涯学習と公共図書館	117
8.1.1 中国における高齢化の現状と課題	117
8.1.2 高齢化と中国社会における生涯学習	118
8.1.3 生涯学習における公共図書館としての現状	119
8.2 中国の公共図書館における高齢者サービス	121
8.2.1 中国の公共図書館における高齢者サービスの提供に関する根拠	121
8.2.2 中国の公共図書館における高齢者サービスの現状と課題	121
8.3 公共図書館における高齢利用者との協働	125
8.3.1 公共図書館における協働と生涯学習	125
8.3.2 公共図書館における協働の現状と課題	127

8.3.3 協働に関する図書館プログラムの事例	127
9.おわりに	135
9.1 まとめ	135
9.2 今後の課題	138
謝辞	139
参考文献.....	140
付録	145

1.はじめに

本章では、本研究における研究背景、研究目的、研究方法、先行研究および、論文の構成について述べる。

1.1 研究背景

中国国家统计局(本研究では、組織や法の正式名称を除き、中華人民共和国を中国とする。)の人口調査¹(中華人民共和国の全国人口普查²:中華人民共和国の全国人口調査、以下、人口調査とする。)のうち、最新の調査である2010年現在の第六回人口調査の結果によると、65歳以上の高齢者の割合は8.9%で、60歳以上の高齢者の割合は13.3%であった。2000年の第五回人口調査の結果と比較すると、65歳以上の人の割合が1.9ポイント、60歳以上の人の割合が2.9ポイント増加している。

WHO(世界保健機構)の基準³によると、65歳以上を「高齢者」と呼ぶ。総人口に対して65歳以上の高齢者の人口が占める割合を高齢化率という。高齢化率が7%を超えると「高齢化社会」、14%を超えると「高齢社会」、21%を超えると「超高齢社会」とされる。2010年現在、WHOの基準において、中国社会はすでに高齢化社会になったと言える。一方で、「中華人民共和国老年人權益保障法」(中华人民共和国老年人权益保护法)⁴の「高齢者」の定義では、60歳以上の人が高齢者と定義づけられている。

中国社会の高齢化の特徴として、65歳以上の人口の絶対数が世界一位であること、高齢化の進行は、他国と比較し、進行速度が速いことが挙げられる。2010年には、65歳以上の人口数が1億人を超え、1.2億人となった⁵。中国社会の高齢化の倍加年数(倍加年数:高齢化率7%からその倍の14%へ達するまでの所要年数⁶)は27年であり、日本の24年より長いものの、フランスが130年、スウェーデンが85年、アメリカとオーストラリアが79年と、他国と比較すると短い。加えて、2051年に中国社会の高齢化はピークを迎え、60歳以上の人口は31%を占めると予測されており⁷、今後も高齢化が急速に進行すると考えられる。

高齢化は、中国の経済、政治、社会、文化などの側面に影響を与え、高齢者に関する老後保障、医療、公共サービスといった面で高齢者のニーズが増加すると考えられる⁸。このような状況を受け、中国政府は高齢化の現状を踏まえ、法律と政策を定めている。1996年には、「中華人民共和国老年人權益保障法」⁹が公布され、高齢者に関する老後保障、公共サービスに関する内容が定められている。同法第4条¹⁰では、「人口高齢化への積極的な対応は国の長期的な戦略任務である。国と社会は、高齢者の權益を保障する各種制度を整備し、高齢者の生活、健康、安全、社会発展への参与を保障する条件を徐々に改善し、高齢になっても生計を立てることができ、医療を

受けることができ、やることがあり、学ぶことがあり、楽しむことがある状態を実現するため、措置を講じなければならない。」と定められており、高齢者の権益を保障する必要性を述べている。ここでは、高齢者の生活、健康、安全だけではなく、やるべきこと、学ぶこと、楽しみといった高齢者の精神的なニーズを重要視している。

この傾向は、「中華人民共和国老年人權益保障法」に留まらず、2012年に、全国老齡工作委員會辦公室が「關於進一步加強老年文化建設¹¹的意見」¹²(关于进一步加强老年文化建设的意见)を公布し、高齢者を対象とした教育、科学、ニュース、出版、図書館、博物館などの事業の策定や、高齢者の日増しに高まる精神的なニーズの重要性を指摘している。具体的に示されている内容は、(1)高齢者向けの教育、科学、ニュース、出版、図書館、博物館などの事業の作り上げる高齢者を対象としているという雰囲気が薄い、(2)公共文化施設が高齢者にサービスを提供する機能を改善すべきであり、高齢者が利用できる基本的な公共文化サービスの質を向上するべきである、(3)高齢者に関する特別な文化的ニーズへの注目・提供が足りないこと、(4)農村の高齢者の文化生活とイベントが実施できる機会が足りなく、封建的迷信などの行為がまだ見受けられること、という4つが挙げられている。

このように、中国では、高齢化を踏まえた法律・政策が定められており、高齢者の精神的なニーズを重視する必要性を強調している。直近では、2017年に國務院が「“十三五”国家老齡事業發展和養老体系建設規劃」を交付しており、「文化生活の豊かさを重視し、高齢者についての教育を發展させ、高齢者に関する文化を發展し、高齢者の精神的なニーズを重視しなければならない」と定めている。高齢化が進行している中国社会において、高齢者の精神的なニーズを今後とも重視しようとする姿勢が見て取れる。この精神的なニーズが何か、中国政府は具体的な言及をしていない。一方で、高齢化の進行とともに浮かび上がった高齢者の精神的な特徴に関する研究から、精神的ニーズが何であるかが推測される。陳によると、高齢者の精神的な特徴として、高齢者の退職・子供の離れ・整理機能の老化などの要因で起こった不安、孤独感、劣等感¹³が挙げられ、この消極的な考えを解消することが高齢者の精神的なニーズであると考えられる。

また、曾は高齢者の学習に関する特徴を「(1)自尊心が強く、学習に関する自信が弱く、落ち込みやすく、孤独感が生まれやすいこと、(2)計算能力といった脳の処理速度が低下し、経験を重ねて得た知性に基づいた思考能力が向上すること、(3)学習の目的は高齢者の生理・精神的なニーズに合わせること」とした¹⁴。このような特徴から、高齢者のニーズに合わせた学習の実施や、自尊心を回復し、孤独感や落ち込みの軽減が可能となるような学習を行うことも、高齢者の精神的なニーズの1つであると考えられる。

ここで挙げられた高齢者の精神的なニーズや学習に関する精神的なニーズはどのような形で満たされるのか。その手段の1つとして、生涯学習が挙げられる。余は、生涯学習の定義について、「人の生涯が学習する過程」を強調し、生涯の各段階によって学習の内容を個人が自由に定められると述べた¹⁵。このような学習環境を整備し、生涯学習の土壌を提供することで、高齢者の学習に関する特徴から派生した精神的なニーズを満たすことができるのではないかと考えられる。また、生涯学習は個人ではなく、集団での学習の実施や集会への参加を通じた学習の実施といった形式もある。先述した高齢者の消極的な考えも、このような集団が携わる形式の学習への参加を通じて緩和することも可能である。これらを踏まえ、生涯学習の実践は、高齢者の精神的なニーズの充足への一助となるのではないかと考えられる。

「中華人民共和国教育法」(中华人民共和国教育法)第19条では、「国家は職業教育制度及び成人教育制度を実施する。各レベルの人民政府、関係行政部門及び企業、非営利事業体は多様な措置を採用し、就職前の公衆が職業学校教育又は各種の形態の労働就職訓練を大いに発展させることを保障しなければならない。国家は多様な形態の成人教育の発展を奨励し、成人労働者が適切な形態の政治、文化、科学、技術、職務に関する教育及び生涯教育を受ける機会を提供することを推奨する」と定めている。加えて、中国の「面向21世紀教育振興行動計画」(面向21世紀教育振兴行动计划)¹⁶では、2010年までに全国で基本的な生涯教育システムを確立するとされ、2018年現在までにほぼ達成したと述べられている。生涯教育を受ける機会が国により推奨されており、生涯教育システムの確立が実施されたことで、中国における生涯学習の土台が構築されつつあると考えられる。

このような生涯学習を実施する場の1つとして、公共図書館が挙げられる。「中華人民共和国教育法」第41条では、生涯教育を提供する施設の1つとして公共図書館を含む教育機関が挙げられている。また、同法第50条では、「図書館、博物館、科学技術館、文化館、美術館、体育館(場)等の社会公共の文化体育施設、及び歴史文化遺跡、革命記念館(地)は、教員、生徒生徒を優待し、教育を受ける者の教育のために便宜を与えなければならない。ラジオ及びテレビ局は教育番組を開設し、教育を受ける者の思想、品性徳性、文化及び科学技術の資質を高めなければならない。」と定められており、公共図書館が公衆に対し、教育機会を提供する必要性について述べられている。また、2017年に定められた「中華人民共和国公共図書館法」(中华人民共和国公共图书馆法)¹⁷第2条では、「この法律において、公共図書館とは、無料で社会公衆の利用に供し、文献・情報を収集し、整理し、保存して、検索や貸出などのサービスを提供し、社会教育を提供する公共文化施設である。ここでいう文献・情報とは、図書資料、デジタル化したデータの記録媒体、フィルム製品、デジタル化資源である。」と定められている。

以上から、中国では、公共図書館が公衆によって無料で利用できる社会教育を提供する施設とされている。無料で誰でも利用が可能であり、文献・情報の提供を主な活動とする公共図書館は、無料で社会公衆にサービスを提供すること、文献と情報を収集、整理、保存すること、その資料と情報を社会公衆に提供することが役割として挙げられており、社会公衆に無料で文献と情報サービスを提供する役割を担うとされている。また、中国政府が提唱する生涯教育システムにおいて、生涯教育の機会を提供する施設の1つとして位置付けられている¹⁸。このように、無料で公衆の誰もが利用可能であり、生涯学習に必要な文献や情報に関する環境が公的に整備されている他、教育の機会を提供する施設の1つとしても位置付けられている公共図書館は、生涯学習に適した施設の1つであると考えられる。

一方で、中国の公共図書館には、高齢者を対象としたサービスを提供する事例が存在する。例えば、河北省滄州市図書館では、高齢者を対象とした読書会を行っている。また、甘肅省北道区図書館では高齢者が描いた絵や書道作品の展覧会を行っている¹⁹。青島市図書館では、高齢利用者のための予算を確保し、寧夏図書館英語では高齢者サービスに関する部署や担当者を配置している²⁰。重慶市涪陵區図書館では、高齢利用者を対象としたプログラムとして、いわゆるブックハンティング²¹として、「図書選択、図書館が払う」というイベントを実施し、高齢利用者が、興味がある図書を選び、図書館がその図書を提供している²²。読書を通じたプログラムや展覧会、ブックハンティングは、文化的な活動であると共に、高齢者が主体的に人間性を高める活動を行っているという点で、生涯学習を実践しているとも考えられる。

呉の生涯学習の定義²³によると、「生涯学習は生涯に必要な知識・技術・学習態度等が開発される過程と運用する過程である。」であり、公共図書館において、高齢利用者が必要な知識・技術を学習するため、公共図書館で書籍を読み、図書館プログラムへの参加など、公共図書館を利用する際の利用形式の一部が生涯学習と考えられる。

このように、高齢化が進行している中国社会において、生涯学習は高齢者の精神的なニーズを充足する1つの手段であり、その実践の場の1つとして公共図書館が考えられる。

さらに、図書館と利用者の関係性の変化に着目すると、一歩進んだ高齢者サービスの姿がみえてくる。呑海²⁴は、図書館と利用者の関係性の変化を4段階で示している。1段階目は、「利用者のニーズについて、良い「資料」を与える未分化」、2段階目は「利用者のニーズに合わせて提供する多様化」、3段階目は「多様化するニーズの中で利用者の側に立ち、利用を促進する曖昧化」、4段階目は「利用者と図書館が相互に影響を与え合いながら、新しいニーズや価値を創出する創出化」としている。中国における4段階目の高齢者サービスの事例として、大連市西岡区図書館の試みをあげることができる。同図書館では、高齢利用者を対象として、「常緑樹」読者組織を立

ち上げ、読書・健康などのテーマの講習会を実施し、「常緑樹」の高齢利用者が図書館のサービスを利用しつつ、担当講師として活躍している²⁵。このように、高齢利用者と図書館が双方向に影響を与え合う「協働」の視点が提唱されており、協働の事例も表れている。肖²⁶は高齢利用者が公共図書館の仕事に参加することの利点を、高齢利用者と公共図書館の双方向から挙げている。高齢者利用者に見込めることとして、(1)人生経験を活用できること、(2)定年退職による社会的役割の喪失を補完できること、(3)プログラムの企画に関する能力の向上の3つを挙げている。また、公共図書館側に見込めることとして、(1)公共図書館運営の予算を節約できること、(2)高齢者サービスを再考する機会を提供できること、(3)高齢利用者の選択権・発言権・参加権を重視できることの3つを挙げている。

これまでの生涯学習では、利用者が公共図書館のサービスを受け、自らの生涯学習を実践してきたが、協働という概念を取り入れることによって、さらに進んだ生涯学習の場を提供することができると考えられる。吞海²⁷は、「高齢者がシニア・サービスの提供者となることによって、高齢者のニーズの直接的・継続的把握が可能となるばかりでなく、シニア・サービスの提供者としての高齢者に社会参加の機会を提供することにもなる」と述べている。また、「図書館を場とした高齢者の知的コミュニティを形成することによって、そのようなコミュニティに魅力を感じる居場所を提供することができる²⁸」と述べている。公共図書館は高齢者向けサービスを提供するだけではなく、高齢者のコミュニティを促進し、活動の参加意欲を高めるような「場」の提供も、公共図書館の高齢者サービスの重要な一側面であると言える。協働は、コミュニティを促進し、活動の参加意欲を高めるような場を提供することが可能であり、今後の高齢者に対するサービスを再考する一助となる概念ではないだろうか。

1.2 研究目的

高齢化する中国社会において生涯学習が高齢者の精神的ニーズを充足させる一助となる可能性を指摘し、その提供の場として公共図書館が挙げられること、公共図書館と利用者の関係性の変化が一部で起きていることについて述べた。これらの背景から、今後、高齢化が進行している中国では公共図書館における生涯学習において、高齢者のコミュニティを促進し、活動の参加意欲を高めるサービスを再考する必要性があり、協働がその一助となるのではないかと考えた。

本研究では、高齢化が進行している中国社会で求められる公共図書館の役割を再考することを目的とする。生涯学習の視点から、今後の利用者として公共図書館との協働および公共図書館における高齢者サービスを検討する。

1.3 研究方法

本研究では、文献調査及び、公共図書館における生涯学習プログラムを対象とした事例調査を行う。

文献調査では、論文、雑誌記事、図書、政府の報告書を調査し、中国社会の高齢化、公共図書館の高齢利用者に対するサービスや生涯学習、協働に関する考え方や現状を明らかにする。事例調査の対象は、優れた高齢者サービスを実施する公共図書館として「敬老文明号」が授与された杭州図書館とする。杭州図書館に関する論文、雑誌記事、図書、内部資料を対象とした調査を行う。特に杭州図書館の2016年1月から12月までの「杭州図書館の活動一覧」を調査することによって、杭州図書館の高齢者サービスの位置付け、高齢者プログラムの内容を明らかにし、調査対象プログラムを定め、事例調査を行う。

同図書館におけるアンケート調査では、杭州図書館の高齢利用者の利用実態、生涯学習に関する意識、図書館との協働の状況を明らかにする。調査対象は、杭州図書館の総館あるいは生活主題分館の高齢利用者である。加えて、杭州図書館の総館と生活主題分館の図書館職員と生活主題分館の主任を対象として、高齢者サービスの実施状況、利用実態、生涯学習に関する意識、図書館との協働の状況、利用者に関する今後の課題を明らかにすることを目的として、インタビュー調査を行う。

さらに、高齢利用者が公共図書館と協働する現状や高齢利用者にとっての協働の意義を明らかにする。これらの目的を達成するために、公共図書館と高齢利用者の協働に関するプログラムを通じた事例調査を実施する。調査対象者は協働に関するプログラムの担当講師である。

1.4 先行研究

呑海²⁹は、利用者と図書館の関係性の変化を、段階ごとに区分し、検討している。主に、図書館の利用者のニーズに着目し、「未分化、多様化、曖昧化の段階を経て、利用者と図書館が相互に影響を与え合いながら、新しいニーズや価値を創出する創出化の段階を迎えている」と論考している。また、公共図書館と利用者との協働に関する今後の展望を述べた。呑海は、これらの内容を踏まえ、図書館における高齢者サービスの変遷と情報ニーズについて、利用者としての高齢者との協働の意義を考察し、エビデンスに基づいた高齢者サービスを展開する必要性について論じた。現在、利用者と図書館の関係性の1つとして協働の事例が表れていると考えられる。これらの事例から得られた関係性を、本研究における高齢利用者と公共図書館との在り方の検討で、援用する。公共図書館と利用者との協働に関する事例研究は実施されていないため、事例研究を通じた協働に関する考察が必要であると考ええる。

湯³⁰は、中国の高齢者教育システムの目的として、高齢者の生活の質の向上に着目している。図書館を利用する際に高齢利用者の精神的なニーズとその特徴を明らかにする必要があると強調し、中国の公共図書館における高齢者教育の可能性について指摘した。また、湯³¹は、公共図書館における高齢者を対象とした生涯学習の可能性や、高齢者が性別により興味がある教育の内容が異なるといった事例から高齢利用者の特徴を明らかにする必要性について言及している。しかし、その中に高齢者との協働に関する考察は含まれていない。

肖³²は、高齢者の閲覧状況に関する要因を分析し、中国の高齢者の読書における特徴・類型・精神的阻害要因を検討している。その結果から、公共図書館が設置すべき制度・サービス・図書館員のスキルを明らかにした。そして、公共図書館へ的高齢利用者の参与を推進している。肖は、中国の公共図書館の現状を踏まえ、統計的なデータに基づいた分析・検討を実施している。また、高齢利用者が公共図書館の日常業務へ参加することから、どのようなことが見込めるかについて検討した。しかし、これらは具体的な事例に基づいた調査・研究は実施されておらず、公共図書館で高齢利用者がどのように日常業務へ参加しているかといった現状を踏まえた考察を加える。

以上から、公共図書館における高齢者教育・高齢者サービスに関する研究はあるものの、事例に基づいた調査を実施し、中国の実情に基づいた協働に着目した研究は、管見の限り存在しない。よって本研究では、杭州図書館を事例とし、高齢者の生涯学習の視点から、公共図書館における高齢者サービスと利用者との協働に着目し、中国の高齢者に対する公共図書館の役割を明らかにすることを目的とする。さらに、高齢利用者が公共図書館と協働する事例を調査し、高齢利用者が公共図書館と協働することで得られるものについて明らかにする。

1.5 論文の構成

本研究では、9章で構成する。

第1章では、研究背景、研究目的、研究方法、先行研究および論文の構成について述べる。

第2章では、中国の公共図書館における高齢者サービスを概観する。中国社会の高齢化と公共図書館における高齢者サービス現状から、中国社会における公共図書館の役割や、高齢者サービスの提供に関する状況を明らかにする。

第3章では、中国の生涯教育システムにおける公共図書館と中国社会における生涯学習の現状について述べる。まず、生涯学習の概念を明らかにし、また、高齢化社会における生涯学習の影響を検討し、中国における生涯教育システムの概要、中国の生涯教育システムにおける公共図書館の実践の事例を述べる。これらを通じて、中国の生涯教育システムにおける公共図書館の位置付けを明らかにする。

第4章では、杭州図書館における高齢者プログラムを分析し、中国における公共図書館の高齢者サービスの現状と課題を明らかにする。

第5章では、杭州図書館における高齢者の利用実態、生涯学習の意識と協働に関する現状を明らかにするために、杭州図書館を調査対象として、高齢利用者の公共図書館の利用状況、高齢利用者の生涯学習に関する意識、図書館との協働の状況に関する調査を行い、調査結果をまとめる。

第6章では、杭州図書館側から、高齢者サービス・高齢者プログラムの提供状況、高齢利用者の杭州図書館の利用状況、図書館員及び高齢利用者の生涯学習に関する認識、高齢利用者との協働について、半構造化インタビュー調査を実施し、その結果をまとめる。

第7章では、利用者として的高齢者と公共図書館の協働の事例と課題について述べる。杭州図書館との協働に関する高齢者プログラムに関するインタビュー調査の概要と結果を考察し、高齢者と公共図書館の協働の実態と課題の調査結果をまとめる。

第8章では、生涯学習の観点から、今後の利用者として公共図書館との協働および公共図書館における高齢者サービスを検討し、中国における高齢者の生涯学習に対する公共図書館の役割を再考する。

第9章では、本研究のまとめと今後の課題について述べる。

1.6 用語の定義

本論文では、高齢者、協働、生涯学習をそれぞれ、下記のように定義する。

① 高齢者

本研究における「高齢者」は、「中華人民共和国老年人權益保障法」³³における「高齢者」の定義である60歳以上の人と定義する。また、「中国政府報告書：中国における都市と農村の高齢者の生活状況に関する報告書(2018)」³⁴(以下、「高齢者の生活状況に関する中国政府報告書」とする)³⁵では、高齢者の分類が年齢によって、三つに分けられており、60歳から69歳までの人を低齢高齢者、70歳から79歳までの人を中齢高齢者、80歳以上の人を高齢高齢者としている。本研究においても同じ分類を用い、高齢者を低齢高齢者、中齢高齢者、高齢高齢者に分ける。

② 協働

『現代社会学事典』によると、社会学において、「協同」はたとえば「協同組合」などの相互扶助的な組織や行為について使われるが、行為に重点がおかれる場合「協働」が同様に使用される例

もある。経営組織においては、バーナード・C が企業経営における目的意識の共有、相互の意思疎通、貢献意志の統合を“cooperative system”としたが、これは「協働システム」と訳された³⁷。また、近年の日本では地域社会で行政とNPOとの協力体制を「協働」と呼び概念化しつつある³⁸。

また、行政とNPOとの協力体制の視点から荒木「は「協働」が「地域住民が活動する「場」や「機会」の整備をはじめとして、住民対応の施策をさまざまな分野に渡って講じていかなければならなくなった」と述べた³⁹。同時に、「そうした施策の形成過程には住民の日常的な生活感覚に基づいたアイデアや、あるいは彼らが経済成長のプラス効果の恩恵で身につけてきた多様な専門的知識や技術、そして、彼らの自己実現のための欲求構造の高まりや自発的な社会的活動意欲を導入していかざるを得ない必要性もでてきたのである。」⁴⁰と、住民と自治体のインタラクションの観点から述べた。

伊藤⁴¹による行政とNPOを始めとした市民活動が相互の特徴が活かしながら連携・協働を行っていくためには、一定のルールが必要となってくる。例えば、横浜市で1999年に市民活動と行政が共同して公共的課題の解決にあたるため、協働関係を築く上での基本的な事項として、「横浜市における市民活動との協働に関する基本方針(横浜コード)」を定めており、その中で、①対等の原則、②自主性尊重の原則、③自立化の原則、④相互理解の原則、⑤目的共有の原則、⑥公開の原則の6つを協働の原則として定めている。

これらのように、協働において目的意識の共有、相互扶助・意思疎通の意思が使われ、地域社会で行政とNPOとの協力体制を協働と呼び概念化にする傾向が見られる。さらに、協働関係を築く上での基本的な事項である6つの協働の原則から、異なる立場でも、①同じ目的の共有が必要とすること、②平等・対等のこと、③理解しあって、協力することの3つが協働の要素の共通項であると考えられる。

また、荒木が地域住民に関わる協働を実施する際に、彼らの日常的な生活感覚や専門知識や技術、社会的活動意欲を導入することを論じた。高齢利用者と公共図書館の協働に対しても、彼らが持っている知識や技術を活用していること、社会参加の意欲が重要となることが考えられる。

これらを踏まえ、本研究では協働を「高齢利用者と公共図書館が同じ目的意識を共有し、共に協力して働くこと」と定義する。この定義を満たすために必要な3つの条件として、①利用者と公共図書館が同じ目的意識を共有すること、②「共に」の立場で行動をすること、③協力して働くことが挙げられる。

③生涯学習

本研究では、呉の生涯学習の定義⁴²の「生涯学習は生涯に必要な知識・技術・学習態度等が開発される過程と運用する過程である。」を採用する。

¹中華人民共和国国家統計局. “2010 年第六次全国人口普查主要数据公報(第1号)”. 2011-4-28, 中華人民共和国国家統計局のウェブペー

ジ.http://www.stats.gov.cn/tjsj/tjgb/rkpcgb/qgrkpcgb/201104/t20110428_30327.html (参照 2018-5-7)

²中華人民共和国の全国人口調査は、政府主導で 1953 年から実施されている大規模調査である。1953 年、1964 年、1982 年、1990 年、2000 年に実施されている。中華人民共和国の全国人口調査第六次全国人口調査の対象は、2010 年 11 月 1 日時点で、中華人民共和国の税関関境(一国の税関法が実施している領土)内にいる自然人及び中華人民共和国の税関関境外にいる定住していない中国公衆である。また、中華人民共和国の税関関境内に短期滞在の香港・マカオ・台湾の住民は含まれてない。中華人民共和国国家統計局. “2010 年第六次全国人口普查主要数据公報(第1号)”. 2011-4-28, 中華人民共和国国家統計局のウェブペー

ジ.http://www.stats.gov.cn/tjsj/tjgb/rkpcgb/qgrkpcgb/201104/t20110428_30327.html (参照 2018-5-7)

³United Nations. The aging of populations and its economic and social implications. United Nations, Journal of the Royal Statistical Society. Series A (General) Vol. 121, No. 2 (1958), pp. 253-254.

⁴全国老齡工作委员会辦公室. “中華人民共和国老年人權益保障法”. 2015 年.<http://www.cncaprc.gov.cn/contents/12/174717.html> (参照 2016-5-4)

⁵中華人民共和国国家統計局. “2010 年第六次全国人口普查主要数据公報(第1号)”. 2011-4-28, 中華人民共和国国家統計局のウェブページ.

http://www.stats.gov.cn/tjsj/tjgb/rkpcgb/qgrkpcgb/201104/t20110428_30327.html (参照 2018-5-7)

⁶厚生労働省. 平成 28 年版厚生労働白書—人口高齢化を乗り越える社会モデルを考える—. <https://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kousei/16/backdata/01-01-01-06.html> (参照 2018-12-3)

⁷全国老齡工作委员会辦公室. 中国人口老齡化發展趨勢予測研究報告.<http://www.cncaprc.gov.cn/contents/16/11224.html> (参照 2018-4-5)

⁸全国老齡工作委员会辦公室. 中国人口老齡化發展趨勢予測研究報告.<http://www.cncaprc.gov.cn/contents/16/11224.html> (参照 2018-4-5)

⁹全国老齡工作委员会辦公室. “中華人民共和国老年人權益保障法”. 2015 年.<http://www.cncaprc.gov.cn/contents/12/174717.html> (参照 2016-7-7)

¹⁰全国老齡工作委员会辦公室. “中華人民共和国老年人權益保障法”. 2015 年.<http://www.cncaprc.gov.cn/contents/12/174717.html> (参照 2016-7-7)

¹¹文化建設: 中国における教育、科学、ニュース、出版、図書館、博物館などの事業の計画・実施のことである。(全国老齡工作委员会辦公室. 關於進一步加強老年文化建設的意見. 2012 年.http://home.saic.gov.cn/lbt/zcfg/fgxwj/201510/t20151015_233736.html (参照 2018-8-6))

¹²全国老齡工作委员会辦公室. 關於進一步加強老年文化建設的意見. 2012 年.http://home.saic.gov.cn/lbt/zcfg/fgxwj/201510/t20151015_233736.html (参照 2018-8-6)

¹³陳剛. 基于老年人行為心理需要的公共図書館適老化研究始探. 天津大学建築学院. 2016. 修士論文.

-
- ¹⁴曾穎.終身學習与図書館老年讀者服務.科技情報与經濟.2009,p.90-92.
- ¹⁵余燕芳.終身學習平台構建研究.經濟科学出版社.第一版.2014.9,p.25.
- ¹⁶中華人民共和國教育部.面向 21 世紀教育振興行動計畫. 1998.http://old.moe.gov.cn/publicfiles/business/htmlfiles/moe/moe_177/200407/2487.html. (参照 2017-11-8)
- ¹⁷中国人大網.中華人民共和國公共図書館法.2017 年(2017 年 11 月 4 日第 12 期全国人民代表大會常務委員會第 13 回會議修正通過),http://www.gov.cn/gongbao/content/2004/content_62714.htm(参照 2017-11-20)
- ¹⁸郝克明.經濟全球化与中国終身學習体系的构建.北京大学教育評論.2003,1,p.31-36.
- ¹⁹肖雪 王子舟.公共図書館服務与老年人閱讀現状及調查.圖書情報知識.2009,p.25-42.
- ²⁰肖雪 周静.老齡化背景下我国公共図書館老年服務狀況的調查与分析.圖書館情報知識.2013,p.16-27.
- ²¹ブックハンティング:利用者たちが自分で読みたい本を直接書店で選び、図書館に所蔵することが出来るイベントである。(柴尾晋.和泉図書館ブックハンティング実施報告,一生徒が選書に参加することについて考える一, 圖書の譜:明治大学図書館紀要.2012,3,p.207-230.)
- ²²齊秀蘭.談談區級図書館如何為老年讀者服務.基層図書館.2002.2,p.55
- ²³吳遵民.終身教育的基本概念.江蘇開放大學學報.2016,27,p.75-79.
- Bertrand Schwartz.生涯教育-21 世紀的教育改革.岸本幸次郎ほか訳.明治図書出版株式会社.1980.3,p.59.
- ²⁴吞海沙織.溶ける境界線 利用者と図書館の間.情報管理.2010,10,p.618-621.
- ²⁵肖雪.促進老年人閱讀的公共図書館創新研究.周建巍.天津大学出版社.2010,306p.
- ²⁶肖雪.促進老年人閱讀的公共図書館創新研究.周建巍.天津大学出版社.2010,306p.
- ²⁷吞海沙織.“公共図書館における高齢者サービスーシニア・サービスにむけて”.高齢社会につなぐ図書館の役割:高齢者の知的欲求と余暇を受け入れる試み.溝上智恵子,吞海沙織ほか編.田中千津子.2012,p.25-45.
- ²⁸吞海沙織.“公共図書館における高齢者サービスーシニア・サービスにむけて”.高齢社会につなぐ図書館の役割:高齢者の知的欲求と余暇を受け入れる試み.溝上智恵子,吞海沙織ほか編.田中千津子.2012,p.25-45.
- ²⁹吞海沙織.溶ける境界線 利用者と図書館の間.情報管理.2010,10,p.618-621.
- ³⁰湯更生 全根先ほか.公共図書館与中国老年教育.国家図書館出版社.第 1 版.2015.8,243p.
- ³¹湯更生 全根先ほか.公共図書館与中国老年教育.国家図書館出版社.第 1 版.2015.8,243p.
- ³²肖雪.促進老年人閱讀的公共図書館創新研究.周建巍.天津大学出版社.2010,306p.
- ³³全国老齡工作委員會辦公室.“中華人民共和國老年人權益保障法”.2015 年.<http://www.cncaprc.gov.cn/contents/12/174717.html>, (参照 2016-5-4)
- ³⁴中国政府報告書:中国における都市と農村の高齢者の生活状況に関する報告書は、政府内にて高齢者に関する調査・政策づくりを実施している全国老齡工作委員會が、中国の都市と農村における高齢者の生活状況を把握するために実施している調査である。2000 年から、5年に 1 回、サンプリング調査を行っており、現在まで、4 回実施されている。2018 年の報告書における調査について述べる。第 4 回中国の都市と農村における高齢者の生活状況のサンプリング調査では、2015 年 8 月 1 日に実施された。調査対象地域は、中華人民共和國における省、自治区、直轄市を含む 31 の行政区であり、調査対象者は、中華人民共和國在住の公衆かつ高齢者である。層化

抽出法を用いており、抽出率は 0.1%であった。配布数が 22.37 万であり、そのうち回収数が 22.27 万で、回収率は 98.8%である。

(党必武.中国政府報告書:中国における都市と農村の高齢者の生活状況に関する報告書(2018).総報告.2018,p.21.)

³⁵党必武.中国政府報告書:中国における都市と農村の高齢者の生活状況に関する報告書(2018).総報告.2018,p.21.

³⁷大澤真幸ほか.現代社会学事典.第二版.弘文堂.2012,p.284

³⁸大澤真幸ほか.現代社会学事典.第二版.弘文堂.2012,p.284

³⁹荒木昭次郎.自治行政における公衆協働論—参加論の発展形態として—.東海大学政治経済学部紀要.第 28 号.1996,p.1-11.

⁴⁰荒木昭次郎.自治行政における公衆協働論—参加論の発展形態として—.東海大学政治経済学部紀要.第 28 号.1996,p.1-11.

⁴¹社会教育行政研究会.社会教育行政読本—「協働」時代の道しるべ—.第一法規株式会社.初版.2013.6.30,p.119.

⁴²吳遵民.終身教育的基本概念.江蘇開放大学学报.2016.1,p.75-79.

2. 中国の公共図書館における高齢者サービスの現状

本章では、高齢化が進行している中国社会における公共図書館の位置付けを明らかにする。そのために、中国社会における高齢化について、現状と今後の展望を述べる。更に、中国の公共図書館の現状を概観し、高齢化という社会背景から、公共図書館が公共文化施設としてどのように位置付けられているか、公共図書館における高齢者サービスの現状と事例を通じて明らかにする。

2.1 中国社会の高齢化と公共図書館

本節では、高齢化が進行している中国社会の現状と今後の予想について述べ、高齢化の進行が中国社会に与える負の影響及び齎す課題について論じる。更に、中国の公共図書館の現状を概観し、中国社会における高齢化が公共文化施設としての公共図書館へ及ぼす影響について述べる。

2.1.1 中国社会の高齢化の進行と問題点

中国国家统计局の最新の人口調査¹である 2010 年現在の第六回人口調査によると、65 歳以上の人口の割合は 8.9%で、60 歳以上の人口の割合は 13.3%であり、中国は高齢化社会である。

また、中国社会における高齢化の特徴として、高齢化の進行速度が速いことが挙げられる。例えば、上海は、最も早く「高齢化社会」になった都市であり、1979 年に上海市の 65 歳の人口の割合が 7%を超えた。一方で、中国の西北部に位置する自治区である寧夏市が「高齢化社会」となるのは 2012 年であると予想された。更に、中国社会では農村の高齢化率が都市より高い。2040 年までに、農村の高齢化率が都市より高いと予測された。

このような特徴の中でも、中国社会においては高齢化の進行が社会の発展より速いことによる影響が懸念されている。中国の一人当たりの GDP が他の先進国より低いにも関わらず、急速に高齢化社会となったため、経済的な影響や社会の発展に対し影響を及ぼす状態であったと指摘されている²。

このような傾向が見られ始める前、1996 年には、「中華人民共和国老年人權益保障法」³が公布された。この法律では、高齢者に関する老後保障、公共サービスに関する内容が定められている。同法第 4 条⁴では、「人口高齢化への積極的な対応は国の長期的な戦略任務である。国と社会は、高齢者の權益を保障する各種制度を整備し、高齢者の生活、健康、安全、社会発展への参与を保障する条件を徐々に改善し、高齢になっても生計を立てることができ、医療を受けることができ、することがあり、学ぶことがあり、楽しむことがある状態を実現するため、措置を講じなければならない。」と定めており、高齢者の權益を保障する必要性を述べている。ここでは、高齢者の生活、

健康、安全だけではなく、やるべきこと、学ぶこと、楽しみといった高齢者の精神的なニーズを重要視している。

また、高齢化が顕著となった 2010 年以降の 2012 年には、全国老齡工作委员会辦公室が公布した「關於進一步加強老年文化建設的意見」(关于进一步加强老年文化建设的意见)⁵において、高齢者に関する文化建設に関する課題として以下の 4 点が指摘されている。

- (1) 高齢者向けの教育、科学、文学芸術、ニュース、出版、図書館、博物館などの事業が行う社会活動の雰囲気づくりを必要とすること
- (2) 公共文化施設が高齢者にサービスを提供する機能を改善し、高齢者が利用できる基本的な公共文化サービスの質を向上すること
- (3) 高齢者に関する特別な文化的ニーズへの注目・提供が足りないこと
- (4) 農村の高齢者の文化生活とイベントを実施する機会が不足しており、封建時代に残った合理的な根拠を欠いている行為がまだ見受けられること

直近では、2017 年に国务院が「“十三五”国家老齡事業發展和養老体系建設規劃」(“十三五”国家老齡委和养老体系建设规划)を公布しており、「文化生活の豊かさを重視し、高齢者に関する教育事業を發展させ、高齢者に関する文化事業を發展させ、高齢者の精神的なニーズを重視しなければならない」と定めている。このように、中国では高齢化を踏まえ、高齢者の老後保障や公共サービスに関する法律・政策を定めている。その中でも高齢者の精神的なニーズを重視する必要性を述べており、高齢者の精神的なニーズを今後とも重視しようとする姿勢が見て取れる。

このように、中国政府は高齢者の精神的なニーズという言葉を度々用いている。しかし、中国政府は精神的なニーズについて定義を定められておらず、精神的なニーズがどのようなものであるのかといった言及をしていない。一方で、高齢化の進行とともに浮かび上がった高齢者の精神的な特徴に関する研究から、精神的ニーズが何であるかが推測される。陳は、①生理機能の衰え・子供の離れなどがあるため、不安を感じる、②退職・引越し・子供の離れなどがあるため、孤独を感じる可能性が高くなり、帰属感を重視すること、③高齢者の生理機能の老化などがあるため、行ける範囲と社会参加の範囲が狭くなり、より便利性を重視すること、④退職などの理由で、劣等感と消極的な考えが増え、より生きがいと尊厳を重視すること⁶の 4 点を高齢利用者の精神的な特徴として挙げている。このような特徴から、高齢者の精神的なニーズは高齢者の退職・子供の離れ・生理機能の衰えなどの要因で起こった不安、孤独感、劣等感が高齢者の精神的な特徴であり、この消極的な考えを解消することが高齢者の精神的なニーズであると考えられる。

また、高齢化は、中国サービスシステム⁷の施設にも影響を及ぼしている。特に、中国サービスシステムのうち、中国政府が社会公衆に文化サービスを提供するシステムである公共文化サービス

システムは、高齢者のニーズを満たすサービスを提供する必要性があると指摘されており、高齢者の実情を踏まえたサービスの提供が推奨されている。このような公共文化サービスシステムを行う施設としては、図書館、博物館、美術館、文化館、芸術館、映画館などが挙げられている⁸。

さらに、公共文化サービスの目標は、公衆の基本的な文化権益を保障することである⁹。その為、公共図書館も公共文化サービスシステムの一つの施設として、高齢化の進行に直面した際、高齢者のニーズを満たすサービスを行い、高齢者の文化権益を保障する必要があると考えられる。

2.1.2 中国における公共図書館の概況

中国の公共図書館のレベルは、行政階層によって、国家レベル・省級レベル・地級レベル・県級レベルの図書館に分けられている¹⁰。2017 年 11 月公布された「中華人民共和国公共図書館法」¹¹の第 1 章の第 5 条によると、中国国務院¹²が中国の公共図書館を管理することが定められている。また、県級レベル以上の公共図書館は、各レベルの人民政府に管理されることが定められている。

中国の行政区分は、省級、地級、県級、郷級の 4 つのレベルに分けられている。全国に 23 省、4 直轄市、5 自治区、2 特別行政区が設置されている。省、自治区には自治州、県、自治県、市が置かれて、県、自治県には郷、民族郷、鎮が置かれている¹³。また、直轄市と比較的大きい市には区、県が置かれ、自治州には県、自治県、市が置かれている。自治区、自治州、自治県は何れも民族自治区域である¹⁴。

中国における唯一の国家レベルの公共図書館は中国国家図書館である。「中華人民共和国公共図書館法」¹⁵第 22 条によると、「中国国家図書館に対しても、同法が定めた公共図書館の役割と同等の役割」が定められたため、中国国家図書館も中国の公共図書館であると言える。

以上から、中国の公共図書館は、このような地方行政によって国家レベル、省級レベル、地級レベル、県級レベルの公共図書館に分けられている。県レベル以下の図書館も存在するが、本論文では対象としない。

次に、中国の公共図書館の現状について述べる。

表 2-1 2016 年中国各級レベルの公共図書館設置率(%)

	館数	行政区画の数	設置率(%)
国家レベル	1	1	100
省級レベル	39	39	100
地級レベル	369	34	100
県級レベル	2,744	2,851	96.2

(出典: 2017 年公開の中華人民共和国統計局の国家データより作成¹⁶⁾)

表 2-1 は、2016 年中国各級レベルの公共図書館の設置率を示す表である。国家レベル、省級レベル、地級レベルの公共図書館の設置率が 100%で、 県級レベルの公共図書館の設置率が 96.2%である。

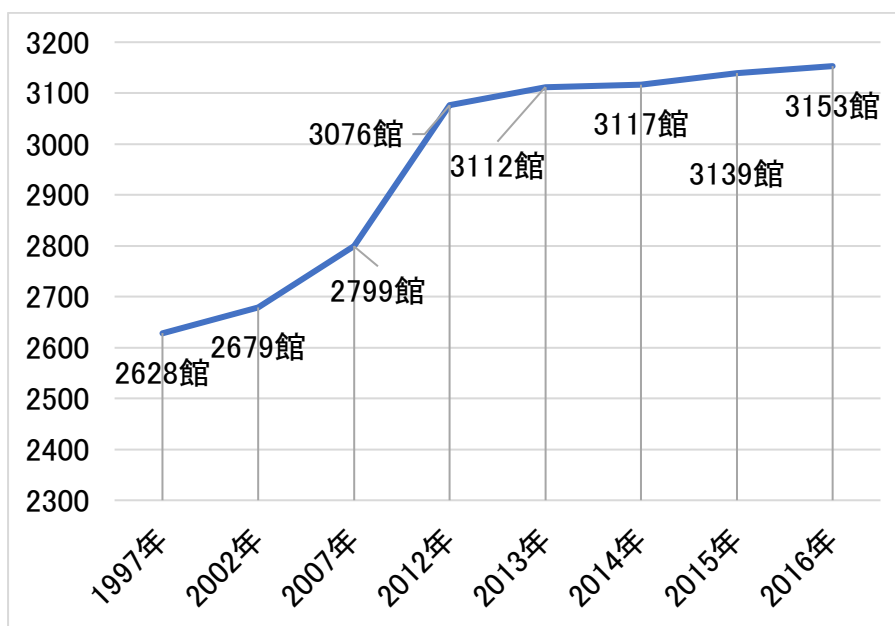


図 2-1 1997 年－2016 年県級レベル以上の公共図書館の館数推移

(出典: 2017 年公開の中華人民共和国統計局の国家データより作成¹⁷⁾)

図 2-1 は、中国の公共図書館の 1997 年から 2016 年までの県級レベル以上の公共図書館の館数の推移である。2016 年現在の中国の県級レベル以上の公共図書館の館数は 1997 年より、20%増加した。また、2012 年以降公共図書館の館数は年々増加しているものの、増加するスピードが緩やかである。

表 2-2 2014 年-2016 年公共図書館数の推移

	2014 年	2015 年	2016 年
国家レベル	1	1	1
省級レベル	39	39	39
地級レベル	361	365	369
県級レベル	2,716	2,734	2,744
合計	3,117	3,139	3,153

(出典: 2017 年公開の中華人民共和国統計局の国家データより作成¹⁸⁾)

表 2-2 は、2014 年から 2016 年まで公共図書館数の推移である。国家レベルと省級レベルの館数が安定している。地級レベルと県級レベルの公共図書館数が緩やかなスピードで増加している。

表 2-3 2007 年-2016 年県級レベル以上の公共図書館の利用現状¹⁹⁾

	2007 年	2014 年	2015 年	2016 年
貸し出し者延べ人数(万人)	2,6103	5,3036	5,8892	6,6037
蔵書数(万冊)	5,2053	7,9092	8,3844	9,0163
人当たりの蔵書冊数(冊)	—	0.6	0.6	0.7
講習会の開催回数(回)	—	5,4939	5,9562	6,9308
講習会参加延べ人数(万人)	—	974	934	1057
展示会の開催回数(回)	—	1,8124	2,0481	2,6588
展示会参加延べ人数(万人)	—	3821	4722	5783

(出典: 2017 年公開の中華人民共和国統計局の国家データより作成²⁰⁾)

表 2-3 は、2007 年から 2016 年までの県級レベル以上の公共図書館の利用現状である。2016 年の公共図書館の貸し出し者延べ人数は 2007 年の約 2.5 倍である。また、2016 年の公共図書館の蔵書数は 2007 年より 3 億 8,110 万冊増加し、1.73 倍である。さらに、2015 年と比べると、公衆一人当たりの蔵書冊数は 0.6 冊から 0.7 冊になった。講習会の開催回数について、2015 年は 2014 年より約 5,000 回増加し、2016 年は 2015 年より約 1 万回増加した。一方、講習会に参加した延べ人数について、2015 年は 2014 年より約 40 万人減少したが、2016 年は 2015 年より約 120 万人増加した。講習会の開催回数の大幅な増加により、参加した延べ人数も増えたと考えられる。

また、公共図書館の展示会の開催回数も年々増加しており、2015 年が約 2,000 回、2016 年が約 6,000 回増加した。2016 年の公共図書館の展示会の開催回数は 2014 年の約 1.47 倍である。公共図書館の展示会に参加した延べ人数も、展示会の開催回数の増加に伴い増加しており、2016 年の公共図書館の展示会に参加した延べ人数は 2014 年の約 1.51 倍である。

次に、中国の公共図書館の役割について述べる。

2017 年に定められた「中華人民共和国公共図書館法」²¹第 2 条では、公共図書館は「無料で社会公衆の利用に供し、資料・情報を収集し、整理し、保存し、貸出などのサービスを提供し、社会教育を提供する公共文化施設である。ここで資料・情報とは、図書資料、デジタル化したデータの記録媒体、フィルム製品、デジタル化資源である。」と定められている。

また、中国社会における公共図書館の基本的な役割として、

- (1)無料で社会公衆にサービスを提供すること
- (2)文献と情報を収集、整理、保存すること
- (3)その資料・情報を社会公衆に提供すること

が挙げられており、社会公衆に無料で文献と情報サービスを提供する役割を担うとされている。

また、同法第 3 条²²によると、「公共図書館は、社会主義公共文化サービスシステムの重要な構成要素として、公衆の閲読を導いて服務することを主な任務としなければならない。公共図書館が社会主義における先進文化の前進を堅持するとともに、人民を中心とし、社会主義核心価値観を堅持し、中華の優秀な伝統文化を伝承・発展させ、革命文化を受け継ぎ、社会主義先進文化を発展させる。」と定められている。

第 3 条によると、公共図書館は、「社会主義公共文化サービスシステムの重要な構成要素」と述べられており、公共図書館が人民の文化権益を守るために、公衆の閲読を導いて服務し、中華の伝統文化を伝承・発展し、革命文化を受け継ぎ、社会主義先進文化を発展させる必要性が指摘されている。

また、柯²³は下記の通り、中国の公共図書館の社会的な役割は主に 9 つあると述べている。

(1)文化センター機能

①5,000 年の歴史がある中国の文化を保存すること、②先進的な文化を宣伝すること、③公衆の豊かな生活の実現のため、文化類プログラムを開催することの 3 つである。

(2)社会教育機能

①基礎知識を普及させること、②自主学習機会を提供すること、③学校教育を支援すること、④通信教育の機会を提供すること、⑤児童の啓蒙教育を提供し、創造的考え方を育つこと、⑥審美能力を向上できる機会を提供することの 6 つが挙げられる。

(3)情報サービスセンター機能

①公共図書館の所在地の地理・歴史・文化および今現在の経済・文化・政治・教育などの情報を提供すること、②日常生活の各方面における課題を解決するため、医療・就職・就学などの情報を提供すること、③公共図書館の所在地の公衆・政府・企業・社会団体などに情報サービスの提供することと個人の研究に必要な情報サービスの提供・企業の発展に必要な地方社会の情報の提供することの3つが挙げられる。

(4)情報リテラシー教育機能

①公衆にコンピューターなどの端末の基礎的な使い方の教育を提供すること、②入手した情報への判断・利用能力の向上すること、の2つが挙げられる。

(5)読書推進機能

国民が社会情勢に即し読書するように推進し、公衆の素質を高め、社会発展を推進することである。

(6)レジャー・娯楽センター機能

社会の進歩によって、公衆の仕事・学校・日常生活の一部として、ストレスも貯まり続け、精神的なニーズもますます重要になった。そのニーズを満たすため、公共図書館もリラックスできる環境・交流ができる機会・情操を高める図書館プログラムを提供する機能が挙げられる。

(7)「社会調和」の推進機能

①非識字者のリテラシーを向上させ、異なる年齢層の非識字者への支援を提供すること、②社会公衆が平等の文化サービスを受けられることを保障すること、③社会における突発的な出来事へ対応できるように心がけることの3つが挙げられる。

(8)コミュニティセンター機能

①コミュニティで文化サービス・情報サービスなどを提供するため、プログラムを開催すること、②コミュニティの公衆に情報サービスを提供することの2つが挙げられる。

(9)学術研究機能

①個人・団体など研究への支援を提供すること、②公共図書館も社会問題などの研究を展開することの2つが挙げられる。

これらより、中国における公共図書館は、図書館として、基本的な文献・情報・サービスを提供するだけでなく、公衆が教育を受けることが可能であり、交流ができ、多様な活動ができる場としてとらえられていることがわかる。

2.1.3 公共図書館における高齢者サービスの根拠

中国社会の高齢化の進行に直面し、公共文化サービスシステムの施設の 1 つとして、公共図書館も高齢者に対するサービスを実施する必要があることを 2.1.1 で述べた。本項では、公共図書館として、高齢者サービスを提供する根拠について述べる。

公共文化施設である公共図書館が高齢者サービスを実施する根拠として、まず、「中華人民共和国老年人權益保障法」²⁴が挙げられる。同法第五章の社会的優遇の第 58 条によると「博物館、美術館、科学技術館、記念館、公共図書館、文化館、映画館、体育場・体育館、公園、観光地等の場所は、高齢者に無料又は優待価格で開放しなければならない」と定められている。ここで公共図書館も高齢者に優遇措置を取るべきであると述べられている。

また、「中華人民共和国老年人權益保障法」だけでなく、「中華人民共和国憲法」(中华人民共和国憲法)²⁵の第 1 章の第 22 条では、「国家は人民に奉仕する事業や社会主義に奉仕する事業、ニュース・ラジオ・テレビ事業や出版発行事業、図書館・博物館・文化館と他の文化事業を繰り広げて、大衆的な文化活動を発展させる」と定めている。

加えて、「中華人民共和国公共図書館法」公布前に、中国文化部が発布した「公共図書館服務規範」(公共图书馆服务规范)²⁶では、公共図書館の利用者は全ての公衆を指している。また、同規範では、「公共図書館の服務対象はすべての公衆である。少年児童向け読書習慣の育成に力を入れるべきであり、障害者・高齢者・出稼ぎ労働者・農村と僻地の公衆の特別なニーズを満たすべきである。」と定めている。「中華人民共和国公共図書館法」が公布される前から、高齢者のニーズを満たすことが推奨されており、高齢者サービスを行う根拠となっていた。

2017 年に、「中華人民共和国公共図書館法」²⁷が公布されており、同法第 34 条では、「政府によって設立された公共図書館は、児童閲覧空間を設置し、少年児童がある特徴に関するニーズを応えるために、少年児童に関する専門の職員を配置し、少年児童向け読書指導・社会教育におけるイベントを行い、学校の課外活動の展開を支援しなければならない。条例が定める地域に、少年児童図書館を設立することが望ましい。政府に設立された公共図書館は、高齢者・障害者などの特徴を踏まえ、積極的に環境を整えて、適切な文献情報・バリアフリー施設とサービスを提供しなければならない。」と定められている。「中華人民共和国公共図書館法」でも、公共図書館が高齢者の特徴を踏まえ、サービスを提供する必要性が唱えられている。

このように、中国社会における公共図書館は、公共文化施設として高齢者に優遇措置を取るべき施設であると定められている。また、「公共図書館服務規範」や「中華人民共和国老年人權益保障法」、「中華人民共和国公共図書館法」においても高齢者は特定のサービスを実施する対象となっており、高齢者の特徴を踏まえたサービスを実施する必要性が強調されている。

2.2 中国における公共図書館の高齢者サービスの取り巻く状況

本節では、中国における公共図書館の高齢者サービスを取り巻く状況を明らかにするため、高齢者サービスの定義や、中国における公共図書館の高齢者サービスの現状と事例を述べる。

2.2.1 高齢者サービスとは

1970 年代、米国図書館協会(American Library Association: ALA)は、高齢者の図書館サービスを定義する必要性を指摘し²⁸、1999 年に、55 歳以上を対象とした「高齢者における図書館サービスのガイドライン」(Library Services to Older Adults Guidelines)を公開した。その後、2005 年、2008 年「Guidelines for Library and Information Services to older Adults」と改訂されている。また、2017 年に、最新版の「60 歳以上の利用者向けの図書館サービスのガイドライン: ベストプラクティス」²⁹ (Guidelines for Library Services with 60+ Audience: Best Practices)が発表された。2017 年に公開されたガイドラインは、「職員の訓練」(Staff Training)・「情報サービスとコレクション」(Information Services and Collections)・「プログラミング」(Programming)・「技術」(Technology)・「アウトリーチとパートナーシップ」(Outreach and Partnerships)・「ホームバウンド(身体障害や認知障害がある在宅の利用者を指す)と特別な利用者へのサービス」(Services to the Homebound and Special Populations)・「施設」(Facilities)・「助成・予算」(Funding and Budgeting)の 8 章で構成されている。また、同書では、初めて「高齢者」という言葉ではなく、「60 歳以上の利用者」という表現を用いている。さらに、「高齢者」に留まらず、「成人として、年齢によって仕事、家族、健康、創作に関するニーズと関心も異なっている」ことを重視している³⁰。

「図書館情報学用語辞典」³¹の第 4 版によると、高齢者サービスは「公共図書館が高齢者の身体機能や情報サービスの特性を考慮に入れながら、その情報要求や読書要求に応えるために実施するサービス。成人サービスとしての側面と障害者サービスとしての側面を持つ」と定められている。ここでは、高齢者サービスは、成人サービスや障害者サービスのように、具体的なサービスの内容や事例があるサービスとして見られていないものの、独立した図書館サービスに関する用語として掲載されている。

日本の公共図書館サービスでは、利用者層に応じてサービス³²が区分されている。主に、「児童サービス・ヤングアダルトサービス・成人サービス・高齢者サービス・多文化サービス・特別な支援を必要とする者へのサービス・アウトリーチサービス」に分けられている。しかし、「中華人民共和国公共図書館法」³³では、公共図書館における高齢者サービスの定義が明確に定められていない。同法における高齢者に関する部分は、第 34 条の「政府によって設立された公共図書館は児童閲覧

区間を設置し、少年児童の特徴に応じた専門家を配置し、少年児童向け閲読指導・社会教育におけるイベントを行い、学校の課外活動の展開を支援しなければならない。条件を満たす(条例が定める)地域に、少年児童図書館を設立することが望ましい。政府に設立された公共図書館は、高齢者・障害者の方などの特徴を踏まえ、積極的に環境を整えて、適切な文献情報・バリアフリー施設とサービスを提供しなければならない。」という記述に留まっている。

また、2008年に公布された「公共図書館服務規範」³⁴第4条によると、「公共図書館の服務対象はすべての公衆である。少年児童向け読書習慣の育成に力を入れるべきであり、障害者・高齢者・出稼ぎ労働者・農村と僻地の公衆の特別なニーズを満たすべきである。」としている。ここでは、高齢者を特別な利用者として捉えておらず、「高齢者サービス」の定義も明確に定められていない。また、肖³⁵は、中国の公共図書館では高齢者サービスに関する「制度と体制が整備されておらず、高齢者サービスに関する内容が漠然としており、高齢者サービスを提供する際に参照できる評価標準がない」ことを指摘している。このように、中国では高齢者の特徴やニーズを踏まえたサービスをどのように行うべきかといった、高齢者サービスの具体的な内容に踏み込んだガイドラインや指針が作成されていない状態にある。

湯によると、中国の公共図書館の高齢者サービスの研究は、1980年代から始まっている³⁶。1983年に、陳は初めて、「高齢者により良いサービスを提供するべきである」と提唱し、「高齢者図書館・閲覧室・専用席を設置、高齢者向けのアウトリーチサービスを実施、高齢利用者のニーズと特徴を把握するために交流会を開催、高齢利用者の特徴を把握した上に資料を勧め、図書館員の管理」の側面から提案している³⁷。

さらに、陳は、公共図書館における高齢者サービスについて、「高齢者の生理的な特徴と精神的な特徴」³⁸を考える必要があると指摘している。高齢者の生理的な特徴とは、体の特徴と感覚の特徴を指す。例えば、年をとることで、生理機能が衰えることが挙げられる。体力や運動能力も低下し、足・背中・腕などの筋力と反応力も落ちる。感覚についても、高齢者の視力・聴力・嗅力などの五感の低下によって、光の感覚も弱くなり、低周波の音への感覚も鈍くなることが挙げられる。

また、精神的な特徴として、下記の4つを挙げている。

- (1)不安を感じる。生理機能の衰え・子供離れなどがあるため、高齢者が不安を感じるが多くなる。
- (2)帰属感を重視すること。退職・引越し・子供離れなどがあるため、高齢者が孤独感を感じる可能性が高くなる。
- (3)利便性を重視すること。高齢者の生理機能の衰えなどがあるため、行ける範囲と社会参加の範囲が狭くなり、もっと利便性を重視する。

(4)尊厳を重視すること。退職などの理由で、劣等感と消極的な考えが増加し、更に生きがいを重視する⁴⁰。

陳は、このような特徴を踏まえた高齢者サービスを実施する必要性を指摘している。

なお、肖⁴¹は、中国における公共図書館の高齢者サービスは、下記4つの項目に関するサービスが必要であると論じている。

- (1)施設と設備:身体的なニーズに応えられる施設と設備を提供すること
- (2)資料の提供:読書の特徴と情報ニーズを基にした資料を提供すること
- (3)予算と管理組織:①高齢者サービスに関する予算の配分、②高齢者サービス担当の図書館員を配置、③来館できない高齢利用者に対してサービスを提供すること
- (4)高齢者プログラムを提供すること

2.2.2 中国における公共図書館の高齢者サービスの事例

中国の公共図書館における高齢者サービスの事例について述べる。

河北省滄州市図書館では、高齢者を対象とした読書会を実施している。これは、高齢者の読書・鑑賞・創作などの能力を向上させ、高齢者の豊かな生活を実現するため、高齢者を対象として、定期的に行われている文学作品の鑑賞と創作に関するプログラムである。また、甘肅省北道区図書館では、中国の「敬老の日」にあたる重陽節に敬老を目的として、高齢者が描いた絵や書道作品の展覧会を行っている⁴²。青島市図書館は、高齢利用者のための予算を確保し、2012年、高齢利用者の割合の増加によって、高齢利用者に関する予算が総予算の1.5%から3.4%になった。寧夏図書館は高齢者サービスに関する部署や担当者を配置している⁴³。重慶市涪陵区図書館は、高齢利用者を対象としたプログラムとして、高齢利用者たちが自分で読みたい本を直接書店で選び、図書館に所蔵するブックハンティング、「図書選択、図書館が払う」を実施し、高齢利用者が興味のある図書を選び、図書館がその図書を提供している⁴⁴。このプログラムでは、読書を通じたプログラムや展覧会、ブックハンティングは、文化的な活動であると共に、高齢者が主体的に人間性を高める活動を実施している。

本章では、高齢化が進行している中国社会における公共図書館の位置付けを明らかにするため、中国社会における高齢化の現状や特徴、中国社会の経済、政治、社会、文化などの側面に与える負の影響について述べた。公共図書館は、公共文化サービスシステムの一つの施設として、高齢者のニーズを満たし、高齢者の文化権益を保障する役割を担っている。なお、公共図書館はいかにして高齢者の文化権益を保障できるかについて論じ、公共図書館における高齢者サ

ービスの事例を概観した。これらを踏まえ、先行研究における公共図書館での高齢者サービスについて、中国では、公共図書館における「高齢者サービス」に関する具体的なガイドラインや指針がないといった現状について述べた。その後、中国における公共図書館の高齢者サービスの事例を挙げた。このように本章では、高齢化に対する公共図書館の中国の公共文化サービスシステムとしての位置付け、公共図書館における高齢者サービスの現状を明らかにした。

¹中華人民共和国国家統計局. “2010 年第六次全国人口普查主要数据公報(第1号)”. 2011-4-28, 中華人民共和国国家統計局のウェブペー

ジ.http://www.stats.gov.cn/tjsj/tjgb/rkpcgb/qgrkpcgb/201104/t20110428_30327.html (参照 2018-5-7)

²全国老齡工作委员会辦公室. 中国人口老齡化發展趨勢予測研究報

告.<http://www.cncaprc.gov.cn/contents/16/11224.html> (参照 2018-4-5)

³全国老齡工作委员会辦公室. “中華人民共和国老年人權益保障法”. 2015

年.<http://www.cncaprc.gov.cn/contents/12/174717.html> (参照 2016-7-7)

⁴全国老齡工作委员会辦公室. “中華人民共和国老年人權益保障法”. 2015

年.<http://www.cncaprc.gov.cn/contents/12/174717.html> (参照 2016-7-7)

⁵全国老齡工作委员会辦公室. 关于进一步加强老年文化建设的意見. 2012

年.http://home.saic.gov.cn/ltb/zcfg/fgxwj/201510/t20151015_233736.html (参照 2018-8-6)

⁶陳剛. 基于老年人行爲心理需要的公共圖書館適老化研究始探. 天津大学建築学院. 2016. 修士論文.

⁷中国サービスシステム: 公衆の基本的なサービスの権利の提供と保障するため、中国政府が主導している制度である。

⁸柯平. 公共図書館の文化功能—在社会公共文化服務体系中的作用. 第一版. 上海交通大学出版社. 2010.7, p.49-50.

⁹柯平. 公共図書館の文化功能—在社会公共文化服務体系中的作用. 第一版. 上海交通大学出版社. 2010.7, p.51.

¹⁰胡凱麗. 中国の公共図書館における課題解決支援サービス—上海図書館のビジネス支援サービスの実態—. 筑波大学. 2015, 修士論文.

¹¹中国人大網. 中華人民共和国公共図書館法. 2017 (2017 年 11 月 4 日第 12 期全国人民代表大会常務委員会第 13 回會議修正通過)

年, http://www.gov.cn/gongbao/content/2004/content_62714.htm (参照 2017-11-20)

¹²中華人民共和国国务院とは中華人民共和国の最高国家行政機関である。

¹³中華人民共和国中央人民政府. 中華人民共和国行政区画. http://www.gov.cn/test/2005-06/15/content_18253.htm. (参照 2018-10-1)

¹⁴中華人民共和国統計局. 国家数据. 年度数据. 綜合指標. 行政区画.

<http://data.stats.gov.cn/easyquery.htm?cn=C01>. (参照 2018-9-30)

¹⁵中国人大網. 中華人民共和国公共図書館法. 2017 (2017 年 11 月 4 日第 12 期全国人民代表大会常務委員会第 13 回會議修正通過)

年, http://www.gov.cn/gongbao/content/2004/content_62714.htm (参照 2017-11-20)

-
- ¹⁶中華人民共和國統計局.国家数据.年度数据.文化.公共圖書館.
<http://data.stats.gov.cn/easyquery.htm?cn=C01>.(参照 2018-9-30)
- ¹⁷中華人民共和國統計局.国家数据.年度数据.文化.公共圖書館.
<http://data.stats.gov.cn/easyquery.htm?cn=C01>.(参照 2018-9-30)
- ¹⁸中華人民共和國統計局.国家数据.年度数据.文化.公共圖書館.
<http://data.stats.gov.cn/easyquery.htm?cn=C01>.(参照 2018-9-30)
- ¹⁹中華人民共和國統計局.国家数据.年度数据.文化.公共圖書館.
<http://data.stats.gov.cn/easyquery.htm?cn=C01>.(参照 2018-9-30)
- ²⁰中華人民共和國統計局.国家数据.年度数据.文化.公共圖書館.
<http://data.stats.gov.cn/easyquery.htm?cn=C01>.(参照 2018-9-30)
- ²¹中國人大網.中華人民共和國公共圖書館法.2017(2017 年 11 月 4 日第 12 期全國人民代表大會常務委員會第 13 回會議修正通過)
年,http://www.gov.cn/gongbao/content/2004/content_62714.htm(参照 2017-11-20)
- ²²中國人大網.中華人民共和國公共圖書館法.2017(2017 年 11 月 4 日第 12 期全國人民代表大會常務委員會第 13 回會議修正通過)
年,http://www.gov.cn/gongbao/content/2004/content_62714.htm(参照 2017-11-20)
- ²³柯平.公共圖書館の文化功能—在社会公共文化服務体系中的作用.第一版.上海交通大學出版社.2010.7,p.49-50.
- ²⁴全國老齡工作委員會辦公室. 中華人民共和國老年人權益保障法”. 2015
年.<http://www.cncaprc.gov.cn/contents/12/174717.html>.(参照 2018-5-4)
- ²⁵中華人民共和國中央人民政府.中華人民共和國憲法.2004 年,(2004 年 3 月 14 日第 10 期全國人民代表大會第 2 回會議修正通過)
http://www.gov.cn/gongbao/content/2004/content_62714.htm(参照 2017-11-5)
- ²⁶中華人民共和國文化部.公共圖書館服務規範.2011
年,<http://183.63.187.8/crowd/doc/fwgf.pdf>(参照 2017-11-5)
- ²⁷中國人大網.中華人民共和國公共圖書館法.2017(2017 年 11 月 4 日第 12 期全國人民代表大會常務委員會第 13 回會議修正通過)
年,http://www.gov.cn/gongbao/content/2004/content_62714.htm(参照 2017-11-20)
- ²⁸Library Services to Older Adults Guidelines. 1996,
<http://www.ala.org/Template.cfm?Section=adultlibrary&template=/ContentManagement/ContentDisplay.cfm&ContentID=26943>(参照 2018-9-1)
- ²⁹ALA.Guidelines for Library and Information Services to older Adults.2008,
<https://journals.ala.org/index.php/rusq/article/viewFile/3692/4026>.(参照 2018-9-1)
- ³⁰ALA.Guidelines for Library and Information Services to older Adults.2008,
<https://journals.ala.org/index.php/rusq/article/viewFile/3692/4026>.(参照 2018-9-1)
- ³¹日本圖書館情報學會用語辭典編集委員.會圖書館情報學用語辭典.第 4 版.丸善出版社.2013.p.105.
- ³²大串夏身 常世田良.圖書館概論.第 2 版.學文社.2014.4,p.16.
- ³³中國人大網.中華人民共和國公共圖書館法.2017(2017 年 11 月 4 日第 12 期全國人民代表大會常務委員會第 13 回會議修正通過)
年,http://www.gov.cn/gongbao/content/2004/content_62714.htm(参照 2017-11-20)

-
- ³⁴中華人民共和國文化部.公共圖書館服務規範.2011
年,<http://183.63.187.8/crowd/doc/fwgf.pdf>(參照 2017-11-5)
- ³⁵肖雪 王子舟.公共圖書館服務與老年人閱讀現狀及調查.圖書情報知識.2009,p.25-42.
- ³⁶湯更生 全根先ほか.公共圖書館與中國老年教育.國家圖書館出版社.第1版.2015.8, p107.
- ³⁷陳英.圖書館工作中的新課題.圖書館學研究.1983.3,p.128-129.
- ³⁸陳剛.基於老年人行為心理需要的公共圖書館適老化研究始探.天津大學建築學院.2016.碩士論文.
- ⁴⁰陳剛.基於老年人行為心理需要的公共圖書館適老化研究始探.天津大學建築學院.2016.碩士論文.
- ⁴¹肖雪 周靜.老齡化背景下我國公共圖書館老年服務狀況的調查與分析.圖書館情報知識.2013,p.16-27.
- ⁴²肖雪 王子舟.公共圖書館服務與老年人閱讀現狀及調查.圖書情報知識.2009,p.25-42.
- ⁴³肖雪 周靜.老齡化背景下我國公共圖書館老年服務狀況的調查與分析.圖書館情報知識.2013,p.16-27.
- ⁴⁴齊秀蘭.談談區級圖書館如何為老年讀者服務.基層圖書館.2002.2,p.55

3.中国の生涯教育システムにおける公共図書館

本章では、まず、中国の社会背景に基づいて生涯学習の概念を述べ、中国における生涯教育システムを概観する。本研究では「生涯教育」を、時代の特徴に合わせ、生涯に渡って、教育を受けたいタイミングに適切な各種の教育を受け続ける過程とし、「生涯学習」を、生涯学習は生涯に必要な知識・技術・学習態度等が開発される過程と運用する過程とする。次に、中国の生涯教育システムにおける公共図書館の位置付けを検討し、さらに、中国の公共図書館における生涯学習の実践事例を取り上げる。

3.1 中国における生涯学習に関する概念と高齢化社会における影響

本節では、中国における生涯学習に関する概念を説明し、また、高齢化社会における影響について述べる。

3.1.1 生涯学習に関する概念

1965 年 12 月にパリでユネスコが主催した「成人教育推進国際委員会(International Committee For The Advancement Of Adult Education)」で、ポール・ラングラン(Paul Lengrand)は、初めて生涯教育という用語を用いた。当時、フランス語で「l'éducation permanente」と提唱したが、後の会議のレポートにおいて「lifelong education」と英語に翻訳された¹。これらの日本では「生涯教育」と訳され、中国「終身教育」と翻訳された。

山本によれば、「生涯教育」にかわって「生涯学習」という語が使われたのは、1996 年、「学習：秘められた宝」という報告書である。同書では、労働を学習に喩え、これからの教育政策の取り組みにおいては、誰もがその内に持っている未知の可能性という宝物を発見するために、生涯学習(lifelong learning)の推進を強化すべきであるとされた²。

この日本における「生涯学習」は、中国では「終身学習」と訳される。本研究では、中国社会における生涯学習に着目している。「終身」「生涯」の用語については、中国語と日本語で「終身」と「生涯」は同様の意味を有する。また、「学習」の用語について、中国語における「学習」の単語も同一の意味に訳される。そこで、日本語で執筆を行うことを考慮し、「生涯学習」を本研究のキーワードの一つとする。また、それと関連している「終身教育」を「生涯教育」と同様の意味を有する用語とし、「生涯教育」を用いる。

次に、中国における「生涯教育」及び「生涯学習」の概念について述べる。古代中国では、荀子の「勸学篇」に「君子曰、学不可以已。」という文章がある。これは、「君子曰く、学問は途中でやめ

てはいけないである(人は「学び続けなければいけない」との考えを表したものである。この文章のように、中国は古代から「学問の学習を続けることが大事である」と考えられていた。

中国政府が「生涯学習」と「生涯教育」を提唱し始めたのは 1993 年である。同年の、「中国教育改革与発展綱要」(中国教育改革与发展纲要)³の中で、成人教育を説明する際に、「成人教育が伝統的な学校教育から生涯教育への発展する 1 つの新しい教育制度であり、それは公衆の素質を向上し続け、経済と社会の進行に対して重要な役割を担っている」と述べている。この要綱で、初めて「生涯教育」という概念が使われた。1995 年の「中華人民共和国教育法」⁴では、生涯教育システムを設置し、整えるべきであると定められた。1998 年に中国国務院は「面向 21 世紀教育振興行動計画」⁵の中で、「2010 年までに、全国で基本的な生涯教育システムを確立する」という目標が定められた。これに伴い、1999 年には、「中共中央国務院關於深化教育改革全面推進素質教育的決定」において、生涯教育システムを整えることが決定された⁶。近年では、2007 年の「胡錦濤在中国共产党第十七次全国代表大会上的報告(全文)」(胡锦涛在中国共产党第十七次全国代表大会上的報告(全文))⁷において、遠隔教育と継続教育を発展させ、公衆学習・生涯学習における学習型社会を形成することが決定された。これらより、中国政府が 1990 年代から、公衆に対し「生涯教育」を受ける機会の提供や、「生涯学習」を实践する機会の提供を重視し、その基盤を構築する姿勢が見て取れる。

一方で、中国政府側による生涯教育・生涯学習に関する用語の定義は未だに確立されていない。呉によると、1995 年の「中華人民共和国教育法」では、「生涯教育システムを設置すること」が定められたものの、混同しやすい「成人教育」、「生涯学習」、「老年教育」、「継続教育」⁸などの言葉が使われており、公衆も専門家も、言葉の違いを区別し辛いと述べている⁹。また、「生涯教育」と「生涯学習」の言葉の曖昧さは、1998 年に中国国務院は「面向 21 世紀教育振興行動計画」¹⁰にも現れている。また、2017 年の「国家教育事業発展“十三五”规划纲要的通知」¹¹でも、「生涯教育システム」と同様の意味を持つ用語として「生涯教育制度」と「生涯学習公共サービスシステム」を用いている。

さらに、以上述べた通り混同されている用語は「生涯学習」と「生涯教育」の 2 つだけではなく、呉は、教育法に関して、「成人教育」、「生涯学習」、「老年教育」、「継続教育」、「生涯教育」の 5 つの言葉が区別のしにくいことについて言及している。一方で、中国政府はこれら言葉を用いて法律・政策を打ち出しており、これらの言葉の定義について述べた先行研究も存在する。法律・政策に関する報告書又は先行研究で用いられている言葉の定義について、それぞれ述べる。

まず、「成人教育」について、中華人民共和国教育部によると「成人教育」とは、成人を対象として、各レベル各種類の学校教育、非識字者教育¹²が含まれている¹³。また、「継続教育」について、

「国家中長期教育改革和發展規画綱要 2010-2020 年」の第 8 章では、「学校教育の続き、社会全員向けの教育活動である。」と定義している。

「老年教育」の定義について、管見の限り、政府の法律、政策や報告書で「老年教育」に関する定義が明確ではなかった。一方、いくつかの先行研究では、「高齢者を対象とした教育」として論じられている。例えば、湯¹⁴は、「老年教育システム」を「生涯教育の理念により指導が行われ、成人教育の基本的な規律に従い、高齢者自身の特徴に合わせ、公衆の生涯学習を推進し・高齢者の生活の質を向上させ、社会の協和をさせることを目標とし、老年教育に関する理論と実践を結合しているシステム」と定義している。ここでは老年教育が含まれているものの、成人教育の基本的な理念に、高齢者の特徴を加えたものと解釈されている。また、老年教育の形式について、「公私立老年大学で教育を受ける、公共文化サービス施設で教育を受ける、近くのコミュニティで教育を受ける、家庭教育など」¹⁵の種類があると述べた。これらを踏まえ、教育の形式の側面に、老年教育と成人教育が「学校教育」の教育形式を有し、また、学校教育の続きとしての継続教育も老年教育の形式と重複している部分があると考えられる。

法律及び政策における「生涯学習」、「生涯教育」といった用語の混同は、中国における「生涯学習」、「生涯教育」に関する研究にも影響を与えていると考えられる。2016 年呉は「生涯学習」に関する定義は曖昧になっている状態で、現在まではっきりした定義がない」と指摘している¹⁶。そのほか、葉¹⁷は、中国における生涯学習に関する研究について「①生涯学習における教育提案、学習方法などの問題に関する研究が少ない、②中国の現状を無視し、簡単に諸外国の定義を参考し、提案している、③一部の研究がその地域の実情を調査し、研究を行っているものの、研究が体系的になっていない」と述べた。一方、中国の「生涯教育」に関する研究について、劉¹⁸は 2012 年に、「中国が生涯教育の研究を始めたのは 1970 年代末から 1980 年代初頭である。国際社会よりも 10 年、20 年程度遅れている。」と述べた。このように、中国における「生涯学習」と「生涯教育」の研究に関する歴史が諸外国と比較して浅いこと、「生涯学習」のようなキーワードの明確な定義が定められていないこと、中国における「生涯学習」と「生涯教育」の研究が不足していることが指摘されている。

このように、中国における「生涯学習」と「生涯教育」に関する定義が法律や関連研究において、曖昧な状態になっている。本研究では、文献調査により、中国における既存の「生涯学習」と「生涯教育」に関する定義を検討する。まず、中国の国語辞書の『現代漢語規範詞典』¹⁹では、生涯学習という言葉が収録されていない。生涯教育については、「現代的な教育観念と教育体制の一種である。教育を受ける過程が、生涯に通じて続ける。個人が時代の変化に追われる社会は、一人一人が教育を受けたいタイミングに適切な教育を提供するべきである」と定められている。また、『現

代漢語詞典(第5版)』²⁰では、生涯学習という言葉が収録されていない。生涯教育については、「生涯にわたって、人が受けてきた教育である。就学前の教育・学校教育・大学を卒業してからの各形式の成人教育を指す」とされている。よって本研究では、「生涯教育」を、時代の特徴に合わせ、生涯に渡って、教育を受けたいタイミングに適切な各種の教育を受け続ける過程であると考え

る。

次に、生涯学習の定義について述べる。前述したように、葉²¹によると、中国における生涯学習に関する研究では「現実を無視し、簡単に諸外国の経験を参考し、提案する」状況になっている。一方、中国教育発展戦略学会終身教育工作委員会準主任の呉遵民²²は、生涯学習について、「生涯学習は生涯に必要な知識・技術・学習態度等が開発される過程と活用する過程である。」と定義した。その特徴²³として、下記の5つを掲げた。

(1)生涯学習の本質において、学習活動は個人の生涯の権利と責任、生涯学習を実践することが個人の権利と義務である。また、生涯教育の主体と異なり個人の自発性を強調する。

(2)生涯学習の過程において、学習活動が生涯を通じる過程に一貫して実施されていることである。

(3)生涯学習の範囲において、学校教育、成人教育が含まれている。

(4)生涯学習の制度において、教育制度の多様性と学習形式の開放性を重視し、個人が自由に、自主的に学習したい内容とルートが選ばれる。

(5)生涯学習の実践方案において、個人の当時の目的による学習を重視しながら、また、個人が生涯の各段階に好きな時間・場所・方法で学習することが有効的に行われる。

中国社会における「生涯学習」と「生涯教育」についての概念が混同している現状であるため、ここでこれらの2つのそれぞれの特徴を整理する。まず、ラングランは『生涯教育入門』²⁴によって、「諸変化の加速・人口の増大・科学的知識及び技術体系の進歩・政治的挑戦・情報・余暇活動・生活モデルや諸人間関係の危機・肉体・イデオロギーの危機」に関する社会・歴史の背景から、統合的な教育理念である「生涯教育」を提唱した。ラングランによれば、生涯教育の基本的な考え方²⁵として、下記4つをあげている。

(1)生涯教育は、人間発達の総合的な統一性という視点から、さまざまな教育訓練の相異なる予想を同調協和させようとするものである

(2)生涯教育は、教育の体系化を図ろうとする努力であり、したがって学校教育、社会教育の分野にかたる教育の計画化を要請する

(3)生涯教育の推進のためには、労働日の調整、文化休暇等の助長措置が必要になる

(4)小・中等学校及び大学はいわゆる地域社会学校 (community school) の役割を果たさなければならない

また、劉²⁶は「生涯教育」とは「生涯にわたって社会の各方面に広げ、社会全ての公衆が長期に亘って全面的に発展できる教育理念・教育原則・教育制度・教育システムである」と定義した。ラングランと劉の生涯教育の定義によると、双方とも「教育時間」・「教育内容」・「教育形式」について言及している。

余²⁷は「生涯学習」と「生涯教育」の相違点と共通点について論じている。まず、相違点として、「生涯学習」と「生涯教育」の両方の相違点は主に立場であると述べた。生涯教育は「社会」の立場から、公衆の教育を受ける権利を強調し、平等に教育を受ける理念を表し、教育権の生涯に亘って保証している。一方、生涯学習は「個人」の立場で、学習権利を強調し、学習者を中心として、学習者の現状と多様な学習ニーズを注目している。

また、共通点として、下記 4 つを挙げている。

(1)生涯教育が受ける対象がすべての公衆であり、生涯学習を実践する主体もすべての公衆である。両者とも、すべての公衆の文化素質の向上に役立つ

(2)生涯学習と生涯教育は、「生涯」の過程を重視する

(3)時代の変遷と共に進歩することを重視し、生涯教育が教育の機会を平等に提供し、公衆が生涯学習を融通して実践する

(4)「生涯学習」と「生涯教育」の目的は同じである。公衆の知識と素質を向上させる為に、生涯学習と生涯教育のどちらにもかわらず、公衆は、社会の発展に応じて生涯にわたって継続的に学習し、教育を受ける。同時に、社会の進歩にも役に立つ。

これらを踏まえ、本研究では、高齢利用者の生涯学習に着目するため、「個人」の立場を重視し、自ら学習の目的や学習内容を決定する「生涯学習」の概念に着目し、生涯学習の視点から公共図書館における高齢者サービスと公共図書館の利用者としての協働の検討を行う。

3.1.2 高齢化社会における生涯学習の影響

前節で「生涯教育」と「生涯学習」の区別を述べた際に、余²⁸は生涯教育が「教育の機会を平等に提供し、公衆が生涯学習を融通して実践すること」「教育権の生涯に亘って保証している」ことを強調した。生涯に亘って平等の学習機会を提供し、学習者の学習実践を促進するためには、生涯学習に関する啓発に留まらず、生涯教育を通じた生涯学習の支援を実施していく必要がある。このような支援を実施するにあたり、生涯教育は生涯学習にどのような影響を与えるか、特に中国社会における生涯教育システムについて検討する必要があると考えられる。バートランド・シュヴァ

ルツは、生涯教育は、「教育の新しい目的であるというよりは、むしろそれらの教育目的を達成するためにさまざまな手段を用いる全体的な(したがってかなり最新の)教育計画である。ここで、われわれは生涯教育を次のように定義する。すなわち、生涯教育は、空間的・時間的な連続性の中で、教育のすべての面の統合を可能にするような一連の手段(教育機関や人的・物的条件)を整備・充実することによって、この統合を行っていく過程である」と主張した²⁹。

また、ラングランは、生涯教育の意義として、「自分の生活の種々異なった経験を通じて、身につけることである。具体的には、その人の生涯にわたって、滞りなく教育を続けて受けられる条件と方法を整える。また、異なった形の教育により、自己開発を最大限にし、常に自分なりの教育手段を利用する。」と論じている。ここでは、生涯教育の意義が人間の自己教育の助けとなることにあり、個人の自己の固有の主体と手段になることを言及している³⁰。

余³¹は「生涯学習」と「生涯教育」の相違点について論じる際に、「生涯教育は「社会」の立場から、公衆の教育を受ける権利を強調し、平等に教育を受ける理念を表し、教育権を生涯に亘って保証している」と述べている。余は教育を受ける権利と教育権の生涯に亘る保証を強調し、全ての公衆の生涯学習を实践できる権利を強調した。

これらの文献調査の結果から、生涯学習の实践にあたり、教育を受ける権利を提供するという形で生涯教育が实践されており、恒久的な教育に関する権利が保障され、生涯学習に関する効果として、自己開発を最大限にすることという指摘がされている。

これらを踏まえ本研究では、研究目的を、高齢化が進行している中国社会で求められる公共図書館の役割を再考することとしている。特に、生涯学習の視点から、今後の利用者として公共図書館との協働および公共図書館における高齢者サービスを検討する。したがって、本研究は、学習者の立場を中心として研究を行う。呉³²によると「生涯学習は生涯教育の主体と異なり個人の自発性を強調する。」また、余³³は「生涯学習は「個人」の立場で、学習権利を強調し、学習者を中心として、学習者の現状と多様な学習ニーズを注目している。」と述べている。そのため、「個人」の立場と自発性を強調するため、生涯教育ではなく、生涯学習という用語を用いる。また、本研究における生涯学習の定義は、中国において「生涯学習」「生涯教育」に関する法律・政策に携わる中国教育発展戦略学会終身教育工作委员会の準主任の呉遵民が述べた、「生涯に必要な知識・技術・学習態度等が開発される過程と活用する過程である」³⁴を採用する。

このように定められた生涯学習の定義に基づき、高齢者による生涯学習の实践への影響について述べる。白石によると、学習活動が高齢者の生活の充実や自己実現に果たす効果がある。それ

は、①「学習が高齢者にいかに生活の満足を与えるかという点に注目するものである。例に挙げると、踊り、園芸、文芸などの興味や娯楽の技術の習得などに見られるものであり、それ自身が楽しい事柄である。これらの学習を通じて「老年文化」が生み出され、多彩なものとなっていく。また、学習活動を通じての仲間との交流も楽しいことである。」、②「高齢者自身の意識と行動の変容に注目するものである。高齢者自身の意識の変容、健康管理や自立生活の維持への貢献などが含まれる。こうした学習では、生活の向上や社会適応のための手段的な価値が重視され、その成果は生活の様々な側面で生かされることになる」³⁵の2点であると述べている。

これを踏まえ、高齢者が生涯学習を実践することにより、定年後の状態から、仕事に関するスキルを身につけることに留まらず、退職する前の仕事に関する経験のまとめおよび再就職に関する情報の入手などに役にたつ。また、高齢者の能力の向上や生活の質を向上させ、不安や孤独感を解消できる。このように、高齢者の精神的な特徴から生じる精神的なニーズを満たすことが、高齢者における生涯教育システムの利点として考えられる。また、白石が述べたように、学習活動が高齢者の生活の充実や自己実現に果たす効果があると考ええる。

さらに、第2章に述べたように、高齢者の精神的な特徴は4つあり、「①子離れや老化から不安を感じる、②退職や子離れから生じる孤立感から、帰属感を重視すること、③生理機能の衰えをきっかけとして利便性を重視すること、④尊厳や生きがいを重視すること」³⁶である。これらを踏まえ、高齢利用者が生涯学習に関する活動を実践する場合、学習の団体に参加し、仲間との交流を創造することで、社会との結びつきが生じ、退職・引越し・子供離れを原因として生じる不安と孤独感がある程度解消でき、帰属感が生まれると考える。また、健康に関する知識を身につけることで、健康管理や自立生活の維持に効果を齎し、健康状態を管理し、生理機能の衰えからの不安がある程度軽減できるといった高齢者自身の意識の変容を齎す可能性もあると考える。さらに、学習者の学習欲求に沿った環境や学習ツールを提供することで、高齢者へ生活の満足感を与え、生活の質を向上させる可能性もあると考える。加えて、生涯にわたって、いつでもどこでも学習することができ、利便性を重視している高齢者の体調を踏まえ、多種類の形式で生涯学習を実践できる機会や実践の場を提供することで、社会とのつながりが増加し、生活の質も向上するのではないだろうか。

3.2 中国における生涯教育システムの概要と公共図書館の位置付け

前節では、「生涯学習」という言葉を定義した。本節では、中国社会における生涯学習に関する公共図書館の位置づけを明らかにするため、中国において生涯学習の実践を支えるシステムである「生涯教育システム」について述べる。賀により、生涯教育システムとは、「ある程度教育機構、終身教育制度、終身教育活動及びそれらの相互関係から構成されたシステム」³⁷である。

前節に述べた文献調査の結果によると、生涯学習の実践にあたり、生涯教育が教育機関や人的・物的条件・教育を受ける権利と機会を提供していることが明らかになった。

ここで、中国における生涯教育システムがどのように学習者の学習の実践を支援していることと生涯教育システムに所属している公共図書館の位置付けを述べる。

まず、生涯教育システムが提唱された過程について述べる。中国における「生涯学習」と「生涯教育」に関する用語を説明した際に、1998年に中国国務院は「面向 21 世紀教育振興行動計画」³⁸に「生涯教育システム」という用語が用いられている。ここでは、成人教育継続教育を述べる際に「コミュニティ教育の進行と生涯教育システムの完備をさせ、すべての公衆の素質を向上するために勤める」と述べられた。中国では、「生涯学習」と「生涯教育」の以外に、個人の学習の実践を推進させ、教育の権利と機会を保障するためのシステムとして、「生涯教育システム」という概念がある。

中国における生涯教育システムに関する政策は、1990年代から、中国の重要な教育課題の一つとして実施され始めた。その際、以下の 5 つが生涯教育に関する目標として挙げられている。

①1998年に中国国務院は「面向 21 世紀教育振興行動計画」³⁹で、「2010年までに、全国で基本的な生涯教育システムを確立する」と目標を定めている。

②1999年、「中共中央国務院關於深化教育改革全面推進素質教育的決定」(中共中央国務院關於深化教育改革全面推進素質教育的決定)⁴⁰において、生涯教育システムを整えることが決定された。

③2001年の「国家教育事業發展“十一五”規劃綱要的通知」(国家教育事业發展“十一五”規劃綱要的通知)⁴¹によると、「現代化教育システムを速めて確立して、学習型社会の建設を推進する」と述べた。具体的に、「生涯教育システムを整える内容:各レベルと各種類の教育関係を調整して、普通教育と職業教育・研修教育と継続教育・学歴教育と非学歴教育・組織学習と独学が

お互いに補足する。各レベルと各種類の教育関係のお互いに結びつく教育を確立する」と定めている。

④2007年の「胡錦濤在中国共产党第十七次全国代表大会上的報告(全文)」⁴³において、通信教育と継続教育を発展させ、公衆を対象とした学習・生涯学習における学習型社会を形成させると決定した。

⑤2010年、「国家中長期教育改革和發展規画綱要(2010-2020年)」(国家中长期教育改革和發展规划綱要(2010-2020年))⁴⁵では、「柔軟でオープンな生涯教育システムを構築する。教育と訓練サービスを開発し標準化し、継続的な教育リソースの拡大を調整する。」と述べている。

このように、1998年から生涯教育システムの整備が行われ、公衆に対する教育の機会を提供する基盤が構築され始めた。その後、学習型の社会を築くことを目的としたシステムの運用や、段階やレベルに応じた教育の実施や各種類の教育同士の結びつきを推進している。これらを踏まえた教育やその訓練に関するサービスの開発や標準化のための要綱として、生涯教育システムが構築されていると考えられる。また、システムに関する用語として「生涯学習システム」と「生涯教育システム」の2つの用語が両方使われているものの、中国政府の政策から、生涯教育システムを多く使われている傾向が見られる。

ここまで、中国における生涯教育に関する法律・政策について述べた。しかしながら、「生涯学習」と「生涯教育」の定義と同じ、法律・政策では、中国における生涯教育システムの定義について、具体的に明記されていない。実際、2017年の「国家教育事業發展“十三五”规划綱要の通知」⁴⁶でも、前に提唱されている「生涯教育システム」と同様の意味を持つ用語として「生涯教育制度」と「生涯学習公共サービスシステム」を用いている。先述した生涯教育システムを始めとした用語が混同されており、基準が明確化されないまま用語が用いられている可能性がある。

中国政府の法律や政策において、明確な生涯教育システムの定義や制度が定められていない。文献調査で賀により、生涯教育システムは、「ある程度の教育機構、終身教育制度、終身教育活動及びそれらの相互関係から構成されたシステム」とされている。そのうち、教育機構は終身教育研究組織、終身教育管理組織、終身教育の教育組織などを指す。また、終身教育制度が学校教育制度、教育評価制度、教育管理制度など構成され、終身教育活動が個人学習、集合学習、教授活動である。このシステムは全ての施設、機構、各種の教育資源を統合し、人の生涯にわた

って各段階の教育に保障を提供し、いつでもどこでも必要がある教育に関するニーズを満足させるものであるとされている⁴⁷。

生涯教育システムについて議論したほかの先行研究に関して、賀は中国社会において、俞が1993年に初めて生涯教育システムを提唱しており、「生涯教育システムは中国の将来の教育体制が基礎教育、成人教育、職場内教育が均衡的に発展しているシステムである」と述べた⁴⁸。一方で、この3つの種類の教育の関係性に関する言及はなされておらず、3つの教育の関係性は曖昧であると考えられる。また、劉は生涯教育システムを「ある国・地域が、生涯教育の考えを持ち、社会と教育の発展によって、ある程度の教育目標を達成するため、各レベル各種類の総合教育システムである」と定義した⁴⁹。呉は生涯教育システムを「社会にある各種類の教育資源を整合し、各種類の教育活動を結ぶシステムである」と定義した⁵⁰。そのうち、劉は、生涯教育システムを自らの定義に基づいて区分している。例として、教育を受ける対象によって、学齢前の子供向けの学齢前教育・児童と少年向けの学校教育・成人公衆向けの成人教育・高齢者を対象とした老年教育である。また、空間で学校・職場・家・コミュニティ・社会機関などに分けている⁵¹。

このように、先行研究では、生涯教育システムの概念について、生涯の各段階、教育機構、教育活動に着目して定義を定めている。そのうち、2013年に賀は、「現在、よく使われているのは、郝克明が定めた定義」⁵²と述べた。

中国教育発展戦略研究会・中国教育戦略学会と国家教育発展研究センターの創始者である郝克明は、「生涯教育システムが社会公衆の多様な生涯学習のニーズを満たす」と述べている⁵³。賀も郝克明の生涯教育システムが「教育機構と教育の方法から表現した」⁵⁴と論じた。郝克明による生涯教育を表す教育システムは図3-1のとおりである⁵⁵。ここでは、生涯教育システムは、「学校教育システム」、「通信教育システム」、「企業教育システム」、「社会教育システム」から構成されている。そのうち、公共図書館が「社会教育システム」の中に位置付けられている。

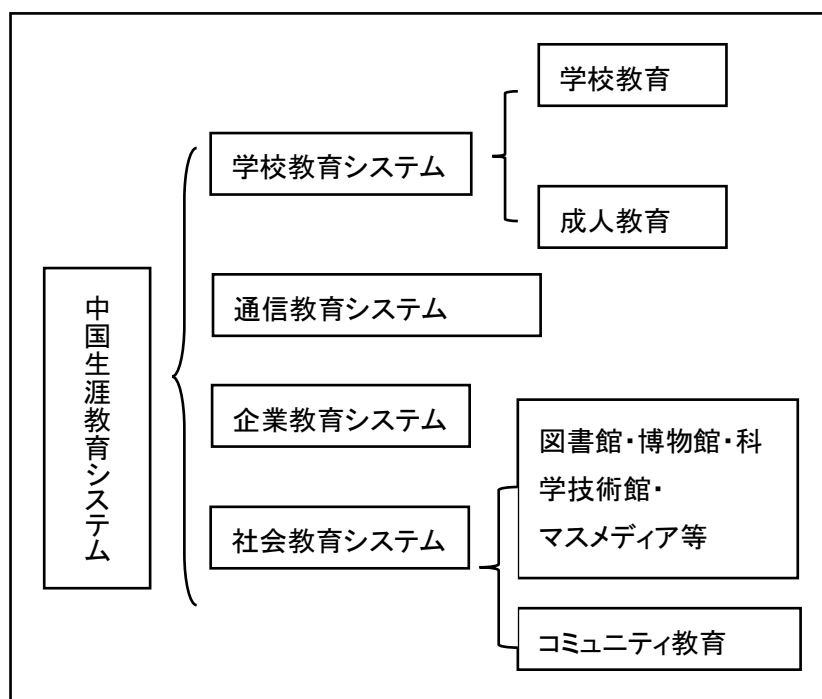


図 3-1 生涯教育を表す教育システムの構想⁵⁶

中国政府により、生涯教育システムが提唱される理由として、社会に対して「現代化教育システムを早めに確立し、学習型社会の建設を推進する」のためである。また、個人の学習者に対して「人の生涯にわたって各段階の教育に保障を提供するため」とのことであった。そのほか、生涯教育システムを進行させ、個人の学習機会を保障できる利点について、賀は「①能力の向上である。長期的に資料で知識を学び、活用し、また復習する過程を繰り返すことで、得た自習学習能力、コミュニケーション能力、社会参加能力などの能力である。②仕事に関するスキルを身につける。③生活の質を向上させ、精神的なニーズを満たす」⁵⁷と述べた。ただし、以上のように述べたのは個人に対し、中国では教育機関や人的・物的条件・教育を受ける権利を提供する生涯教育システムの利点であり、これらの学習の支援を行う教育に関する機関や概念が体系化されたものが生涯教育システムであると考えられる。

3.3 中国の生涯教育システムにおける公共図書館の事例

前節では、中国で生涯学習の実践を支えるシステムである「生涯教育システム」について述べた。そのうち、公共図書館は、生涯教育システムにおける「社会教育システム」に、公共文化サービスシステムの一つの施設として位置付けられている。第2章で述べたように、中国において、公共

図書館は公衆は無料で利用できる、社会教育を提供する施設とされており、生涯学習を実施する場の1つとして挙げられている。

生涯教育システムにおいて公共図書館は、社会公衆に教育を受ける場所と機会を提供し、社会公衆の生涯学習を実現できる場の1つであると考えられる。管見の限り、中国の生涯教育システムにおける公共図書館の事例研究は、上海図書館における生涯学習の実践の例⁵⁸のみであるため、本節では上海図書館を事例とした「生涯学習に関する利用者調査」の結果を取りあげる。

まず、上海図書館の概要を述べる。上海図書館は上海市を代表する公共図書館である。上海図書館が利用者に知識・スキルを与えるため⁵⁹、生涯学習に関するプログラム(以下、生涯学習プログラムとする)を提供している。本事例調査が実施された2003年の1年間、上海図書館への来館延べ人数は約210万人であった。また、上海図書館に公開された最新の統計データから、2016年の1年間に、上海図書館へ来館した延べ人数は約1,443万人であった⁶⁰。

1978年から2003年までの間に、上海図書館における利用者の生涯学習プログラムは政治・経済・時事などをテーマとし、800回以上の「大型マクロ情報講座」などのプログラムが不定期に実施されており、参加延べ人数は73万人以上であった。例えば、「著名な作家による名著の解説」という図書館プログラムは、名著の概要や登場人物の関係性といった内容の解説を通じて、市民に名著の内容をより深く知ってもらうというプログラムである。2004年5月29日には、顧紹文という中国作家協会の成員が「水滸伝」の内容を解説する講座が実施された⁶¹。

このように、上海図書館は長期に亘り、生涯学習プログラムを市民に提供し、教育を受ける機会を提供している。2018年は、上海図書館の講座が開始されてから40年目であった⁶²。40年間の間に、上海図書館の講座が3,000回以上行われ、上海図書館で文化活動を利用した利用者の延べ人数が140万人を超えた⁶³。また、2016年の1年間で、上海図書館に行われていた講座、展示会、図書館プログラムなどの図書館文化活動に参加した利用者の延べ人数が約50万人であった⁶⁴。

「生涯学習に関する利用者調査」は、2003年12月29日から2004年11月5日まで、公共図書館における生涯学習に関する利用者のニーズを明らかにするために実施され、上海図書館は利用者を対象としたアンケート調査が行われた。アンケート調査の項目は上海図書館の利用状況、利用者ニーズ、上海図書館の生涯学習プログラムの効果についてであった。配布数が3,000で、そのうち回収数が1,702で、回収率が57%で有効回答数が1,657であった⁶⁵。アンケート調査から得られた結果⁶⁶として、以下が挙げられている。

- ・生涯学習プログラムを知っている回答者の割合が58%である
- ・知識を得られる講座が人気である

- ・週末と祝日に生涯学習プログラムの講座を受けたいと回答した割合は 74%である
- ・上海図書館が提供している講座が、自身の生活と仕事に役を立つと感じる回答者の割合が 98.7%である

以上の上海図書館における利用者生涯学習の実践に関するアンケート調査から、①半数以上の利用者が、上海図書館における生涯学習プログラムの存在を知っていた。また、②知識を得られる講座に興味があることで同調査の対象者が学習者として学習の欲求があることが見られた。更に、③上海図書館に提供されていた生涯学習プログラムへの参加を通じて、余暇生活に学習できる機会を提供し利用者の生活・仕事において役立つことを実感していることが明らかにされた。

前述の通り、2016 年の1年間に、上海図書館の来館延べ人数が 13 年前の 2003 年の約 7 倍となっている。上海図書館で提供されている生涯学習プログラムの機会やそのプログラムの利用人数が増加している要因として、プログラムの評価が高いからではなく、図書館の利用者が増加したことのみの影響である可能性がある。しかし、調査から 15 年経過しており、利用者層の生涯学習の意識や生涯学習に関するプログラムの評価に変化が生じている可能性もある。中国では公共図書館における生涯学習に関する調査が殆ど実施されていない。一方で、公共図書館も、生涯教育システムや中国社会における学習の需要を反映した学習の機会を提供する必要がある。その為、このような事例調査や諸外国の生涯学習に関する実態調査を通じて、公共図書館内で実施される生涯学習に関するプログラムの見直しを図る必要があると考える。

本章では、中国の社会背景に基づいて生涯学習の概念を述べ、本研究における「生涯学習」という言葉を、呉遵民が述べた、「生涯に必要な知識・技術・学習態度等が開発される過程と活用する過程である」⁶⁷を定義とした。また、中国社会における生涯学習の実践を支えている生涯教育システムの位置づけと概念を明らかにし、高齢者の精神的な特徴に対して、生涯学習の利点を述べた。更に、中国の生涯教育システムにおける公共図書館で生涯学習の実践の事例として、上海図書館における利用者生涯学習の調査について述べた。その結果、生涯教育システムの 1 つの施設として、公共図書館は生涯学習を実践できる場として機能していたものの、挙げられた事例調査が 15 年前であるため、現在の生涯教育システムや中国社会の世論を反映した学習支援や生涯学習の機会を提供する必要性を指摘した。

¹座談会.生涯教育の考え方とその展望.文部時報.1969,5,p.2-26.

²山本恒夫,浅井経子ほか.生涯学習論,山本恒夫,浅井経子ほか編.第一版,東京,文憲堂株式会社,2007,p.18.

-
- ³中華人民共和國國務院. 中國教育改革與發展綱要.
http://old.moe.gov.cn/publicfiles/business/htmlfiles/moe/moe_177/200407/2484.html(參照 2018.6.16)
- ⁴中華人民共和國教育部. 中華人民共和國教育法. 2015
年.http://www.moe.edu.cn/s78/A02/zfs_left/s5911/moe_619/201512/t20151228_226193.html,
(參照 2018-7-7)
- ⁵中華人民共和國教育部. 面向 21 世紀教育振興行動計畫.
1998.http://old.moe.gov.cn/publicfiles/business/htmlfiles/moe/moe_177/200407/2487.html.
(參照 2017-11-8)
- ⁶胡秀英. 終身學習政策的比較研究及對我國的啟示. 成人教育. 2009.3, p.24-28.
尹新源. 終身學習與圖書館. 學術探討・工作研究. 2003, p.18-19.
- ⁷中國共產黨新聞網. 胡錦濤在中國共產黨第十七次全國代表大會上的報告(全文).
<http://cpc.people.com.cn/GB/104019/104099/6429414.html>(參照 2018-8-23)
- ⁸中華人民共和國中央人民政府. 國家中長期教育改革和發展規畫綱要(2010-2020 年). 2010.
http://www.gov.cn/jrzq/2010-07/29/content_1667143.htm. (參照 2018-9-23)
- ⁹吳遵民. 我國終身教育政策的回顧與分析. 教育發展研究. 2012.9, p.53-58.
- ¹⁰中華人民共和國教育部. 面向 21 世紀教育振興行動計畫.
1998.http://old.moe.gov.cn/publicfiles/business/htmlfiles/moe/moe_177/200407/2487.html.
(參照 2017-11-8)
- ¹¹中華人民共和國中央人民政府. 國家中長期教育改革和發展規畫綱要. 2010.
http://www.gov.cn/jrzq/2010-07/29/content_1667143.htm. (參照 2018-9-23)
- ¹²非識字者教育とは實際の生活における問題を解決するため必要な知識とスキルに関する教育である。基礎課程の内容は三つの部分があり、①漢字の使い方、②基礎的な数学の知識、③日常生活に必要な知識とスキルである。(中華人民共和國教育部. 教育部關於印發《掃文教育課程設置及教學材料編寫指導綱要》的通知. 2011.
http://www.moe.gov.cn/srcsite/A06/s3321/201104/t20110425_120118.html(參照 2018-10-8)
- ¹³中華人民共和國教育部. 中國教育發展概況. 2015.6.http://old.moe.gov.cn/publicfiles/business/htmlfiles/moe/moe_163/200408/2692.html(參照 2018-10-8)
- ¹⁴湯更生 全根先ほか. 公共圖書館與中國老年教育. 國家圖書館出版社. 第 1 版. 2015.8, 243p.
- ¹⁵湯更生 全根先ほか. 公共圖書館與中國老年教育. 國家圖書館出版社. 第 1 版. 2015.8, 243p.
- ¹⁶吳遵民. 我國終身教育政策的回顧與分析. 教育發展研究. 2012.9, p.53-58.
- ¹⁷葉青 安川林ほか. 關與終身學習研究機制和方法的探索. 情報雜誌. 2011.12, p.238-242.
- ¹⁸劉漢輝. 我國終身教育體系研究－可持續發展視角的分析. 第一版. 人民出版社. 2012, p.15.
- ¹⁹李行健. 現代漢語規範詞典. 北京外語教學與研究出版社. 第 3 版. 2014.5, p.1708.
- ²⁰中國社會科學院語言研究所詞典編輯室. 現代漢語詞典(第 5 版). 北京商務印書館. 2008.4, p.1767.
- ²¹葉青 安川林ほか. 關與終身學習研究機制和方法的探索. 情報雜誌. 2011.12, p.238-242.
- ²²吳遵民. 終身教育的基本概念. 江蘇開放大學學報. 2016, 27, p.75-79.
- ²³吳遵民. 終身教育的基本概念. 江蘇開放大學學報. 2016, 27, p.75-79.
- ²⁴ラングラン. P. 生涯教育入門. 第一版. 波多野完治訳. 日本青年館. 1973, p.110.

-
- ²⁵天城 奥田ほか編.現代教育用語辞典.十二版.第一法規出版社株式会社.1980,p.272-273.
- ²⁶劉漢輝.我国終身教育体系研究—可持續發展視角的分析.第一版.人民出版社.2012,p.34.
- ²⁷余燕芳.終身學習平台構建研究.北京經濟科学出版社.第1版.2014.9,p.25.
- ²⁸余燕芳.終身學習平台構建研究.北京經濟科学出版社.第1版.2014.9,p.25.
- ²⁹Bertrand Schwartz.生涯教育-21世紀的教育改革.岸本幸次郎ほか訳.明治図書出版株式会社.1980.3,p.59.
- ³⁰ラングラン.P.生涯教育入門.第一版.波多野完治訳.日本青年館.1973,p.49.
- ³¹余燕芳.終身學習平台構建研究.北京經濟科学出版社.第1版.2014.9,p.25.
- ³²吳遵民.終身教育的基本概念.江蘇開放大学学报.2016,27,p.75-79.
- ³³余燕芳.終身學習平台構建研究.北京經濟科学出版社.第1版.2014.9,p.25.
- ³⁴吳遵民.終身教育的基本概念.江蘇開放大学学报.2016.1,p.75-79.
- ³⁵白石克己 黒河内敏正ほか.生涯各期の教育.第3版.実務教育出版.1990.6,p.134-135.
- ³⁶陳剛.基于老年人行爲心理需要的公共図書館適老化研究始探.天津大学建築学院.2016.修士論文.
- ³⁷賀宏志.我国終身教育体系及其推進策略研究.第11版.首都師範大学出版社.2013,p.45-72.
- ³⁸中華人民共和國教育部.面向21世紀教育振興行動計畫.1998.http://old.moe.gov.cn/publicfiles/business/htmlfiles/moe/moe_177/200407/2487.html. (参照 2017-11-8)
- ³⁹中華人民共和國教育部.面向21世紀教育振興行動計畫.1998.http://old.moe.gov.cn/publicfiles/business/htmlfiles/moe/moe_177/200407/2487.html. (参照 2017-11-8)
- ⁴⁰中華人民共和國國務院.中共中央國務院關於深化教育改革全面推進素質教育的決定.1999.http://old.moe.gov.cn/publicfiles/business/htmlfiles/moe/moe_177/200407/2478.html (参照 2018-9-24)
- ⁴¹中華人民共和國國務院.国家教育事業發展“十一五”規劃綱要的通知.http://www.gov.cn/zhengce/content/2016-09/23/content_5111148.htm(参照 2018-12-3)
- ⁴³中国共産党新聞網.胡錦濤在中国共産党第十七次全国代表大会上的報告(全文).<http://cpc.people.com.cn/GB/104019/104099/6429414.html>(参照 2018-8-23)
- ⁴⁵中華人民共和國人民政府.国家中長期教育改革和發展規畫綱要 2010.http://www.gov.cn/jrzq/2010-07/29/content_1667143.htm. (参照 2018-9-23)
- ⁴⁶中華人民共和國中央人民政府.国家中長期教育改革和發展規畫綱要.2010.http://www.gov.cn/jrzq/2010-07/29/content_1667143.htm. (参照 2018-9-23)
- ⁴⁷賀宏志.我国終身教育体系及其推進策略研究.第11版.首都師範大学出版社.2013,p.45-72.
- ⁴⁸賀宏志.我国終身教育体系及其推進策略研究.第11版.首都師範大学出版社.2013,p.45-72.
- ⁴⁹劉傑.終身教育体系下我国成人教育改革与發展研究.修士論文.大連理工大学,2009.
- ⁵⁰吳遵民.關於完善現代公衆教育体系和構建教育体系的研究.中国教育学刊.2004.1,p.39-41.
- ⁵¹劉漢輝.我国終身教育体系研究—可持續發展視角的分析.第一版.人民出版社.2012,p.61.
- ⁵²劉傑.終身教育体系下我国成人教育改革与發展研究.修士論文.大連理工大学,2009.
- ⁵³郝克明.跨進學習社会—建設終身學習体系和学习型社会的研究.第一版.北京高等教育出版社.2006,p.23-24.
- ⁵⁴賀宏志.我国終身教育体系及其推進策略研究.第11版.首都師範大学出版社.2013,p.45-72.

-
- ⁵⁵郝克明.經濟全球化与中国終身学习体系的の構建.北京大学教育評論.2003,1,p.31-36.
- ⁵⁶郝克明.經濟全球化与中国終身学习体系的の構建.北京大学教育評論.2003,1,p.31-36.
- ⁵⁷賀宏志.我国終身教育体系及其推進策略研究.第 11 版.首都師範大学出版社.2013,p.45-72.
- ⁵⁸金紅亜 周慧林.図書館と終身教育:上海図書館読者教育実践. Lifelong education and libraries.2005,5,p.97-102.
- ⁵⁹金紅亜 周慧林.図書館と終身教育:上海図書館読者教育実践. Lifelong education and libraries.2005,5,p.97-102.
- ⁶⁰上海図書館.2016 年年報.<http://www.library.sh.cn/dzyd/rdsm/images/2016%E5%B9%B4%E5%B9%B4%E6%8A%A5.pdf>/(参照 2019-11-7)
- ⁶¹上海図書館.“東方之声”名家解讀名著——我讀《水滸》.2004.<http://www.library.sh.cn/news/list.asp?id=1111211>. (参照 2018-10-10)
- ⁶²上海図書館.上図講座 40 周年.上海図書館ホームページ. <http://www.jiangzuo.org/>/(参照 2019-1-7)
- ⁶³上海図書館.上図講座 40 周年.上海図書館ホームページ. <http://www.jiangzuo.org/>/(参照 2019-1-7)
- ⁶⁴上海図書館.2016 年年報.<http://www.library.sh.cn/dzyd/rdsm/images/2016%E5%B9%B4%E5%B9%B4%E6%8A%A5.pdf>/(参照 2019-1-7)
- ⁶⁵金紅亜 周慧林.図書館と終身教育:上海図書館読者教育実践. Lifelong education and libraries.2005,5,p.97-102.
- ⁶⁶金紅亜 周慧林.図書館と終身教育:上海図書館読者教育実践. Lifelong education and libraries.2005,5,p.97-102.
- ⁶⁷吳遵民.終身教育的基本概念. 江蘇開放大学学報.2016.1,p.75-79.

4. 中国における公共図書館の高齢者サービスの事例—杭州図書館を事例として

本章では、2016 年に実施された杭州図書館における高齢者プログラムを概観する。その結果を一つの事例として、中国における公共図書館の高齢者サービスの現状と課題を明らかにする。

4.1 杭州図書館の概況

本研究では、杭州図書館を事例調査の対象とする。まず、杭州図書館が位置する杭州市と、調査対象館である杭州図書館の総館（以降、総館とする）と生活主題分館（以降、生活主題分館とする）の概要について述べる。

4.1.1 杭州市の概要

華東地区¹の中心都市の一つである浙江省の副省級市の杭州市は、浙江省の最も広い都市であり、浙江省の政治、文化、金融、交通、文化の中心都市であり²、9 つの行政区・2 つの県級市・2 つの県から構成されている。杭州市は、高齢化が進行しており、2016 年までに 60 歳以上の人口の割合が 21.6%を占めている³。その中でも特に、西湖区・上城区・下城区の高齢化率は 2016 年末までに、31.82%、30.2%と 26.11%に達した⁴。そのうち、高齢化率が 30.2%である上城区には調査対象館である生活主題分館が設置されている。

4.1.2 杭州図書館の概要

杭州図書館は 1958 年初めに杭州市の青年路に設立された。1986 年には杭州市の浣紗路へ移転し、2008 年 10 月には、杭州市の錢江新城に杭州図書館の新館が開館した。杭州図書館は中国の国家一級館⁵、国際図書館連盟の会員館、OCLC の管理会員館である。2017 年現在、蔵書 564 万 120 点、職員 197 名を有し、敷地面積 4.38 万平方メートルで、地上 4 階から地下一階まで、2300 席以上の閲覧席を設置している。閲覧室、展覧室、多目的ホール、交流空間、音楽鑑賞室などが設置されている。また、図書自動貸出装置やパソコンも利用者に提供している。2017 年の来館者は延べ 5,142,926 人、貸出資料数 313 万 4,204 点で、デジタル資料のダウンロード数は 128 万回で、イベントが 1,762 回実施されており、経費が約 13 億 2,566 万円（7,954 万人民币元）である¹。

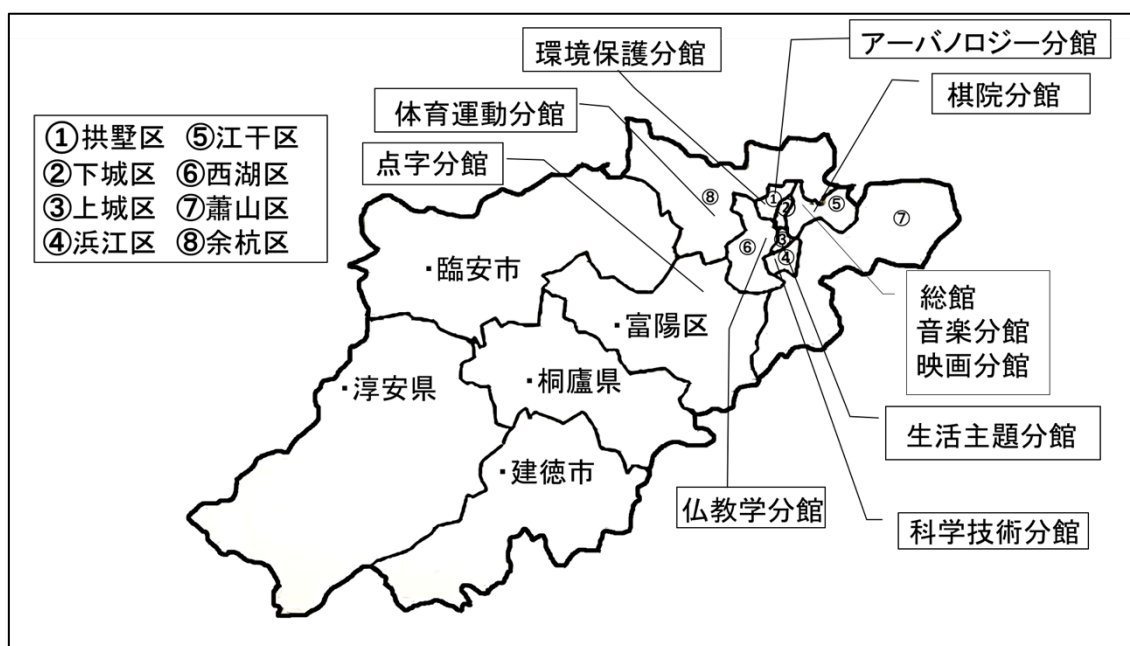


図4-1 杭州図書館の総館と分館の分布
(出所: 杭州図書館ホームページを参考に作成⁶⁾)

図4-1は、杭州図書館の総館と分館の分布である。2018年現在、杭州図書館は総館と10つの分館から構成されており、総館と分館で杭州市にある13個の区県(市)内に位置している。分館は、生活主題分館(生活主題分館)、仏教学分館(仏学分館)、体育運動分館(運動分館)、映画分館(電影分館)、科学技術分館(科技分館)、音楽分館、点字分館(盲文分館)、棋院分館⁷、環境保護分館(環保分館)、アーバノロジー分館(城市学分館⁸)から構成されている。

調査対象館である生活主題分館⁹は、建築面積が 5,528 平方メートルで、蔵書は約 45 万冊である。「生活の芸術、芸術の生活」の理念を重視している。また、利用者が生活理念と生活形式を理解し、分かち合えるよう、「生活」の特性に基づいたサービスと体験式のサービスを重視し、提供している。その際、利用者が生活理念と生活形式を理解し、分かち合えるような工夫がなされている。

総館・生活主題分館が提供している主なサービスは、資料貸出(Browsing and Loans)、レファレンスサービス(Reference and Consultation)、デジタル資料サービス(Digital Resource Service)、地域文献の開発と利用(Local Literature)、古籍(Ancient Books)、教育と訓練(Academic and Training Courses)、文化活動(Cultural Activities)、WIFI サービス(WIFI Service)の 8 つである

¹⁰。

2013 年 10 月に、杭州図書館は先進的な高齢者サービスを提供している公共図書館として、「敬老文明号」という称号が授与された¹¹。また、杭州市は、高齢化が進行しており、2010 年 12 月時点の 60 歳以上の人口が 17.1%である¹²。この割合は、全国の 60 歳以上の人口より多く、全国と比較すると、より深刻な高齢化に直面していることが見て取れる。

これらの理由から、杭州図書館を研究対象として選定した。

4.2 2016 年の杭州図書館の高齢者プログラム

本調査では、高齢者サービスに関する事例調査を実施するため、杭州図書館にて、2016 年に行われた高齢者プログラムについて述べ、高齢者サービスの現状と課題を明らかにする。高齢者プログラムに関する文献調査の対象として、杭州図書館の 2016 年 1 月から 12 月までの「杭州図書館の活動一覧」を用いる。その際、主に以下の 3 つの事項について調査を行う。

- (1) 高齢者を対象として企画された図書館プログラムのプログラムの内容、実施回数
- (2) 一年間の図書館プログラムにおける各種別のプログラムの割合と、「児童ヤングアダルトプログラム」の回数と比較した、杭州図書館の高齢者プログラムの位置付け
- (3) 参加者の多くが高齢者である図書館プログラムと、それぞれのプログラムの内容、実施回数

4.2.1 高齢者を対象として企画された図書館プログラムの概況

本節では、2016 年に杭州図書館が実施したプログラムにおける高齢者を対象として企画されたプログラムの位置付けを明らかにする。まず、高齢者を対象として企画された図書館プログラムの種類・開催回数などの概況を明らかにする。

2016 年に杭州図書館が実施したプログラムにおける「高齢者を対象として企画された図書館プログラム」は 3 種類ある。「時光之旅」「医師のお話を聞こう」「生活で偶々得た知恵」プログラムである。

表 4-1 高齢者を対象として企画された図書館プログラムの回数と内容(2016)

プログラム		回数	例
文化体験 プログラム	時光之旅	45	5 月 20 日、「シーンの中の色彩」 のテーマの講習会
	医師のお話を 聞こう	10	10 月 12 日、「糖尿病と血栓に関 する病気の予防」の講習会
	生活で偶々得 た知恵	10	5 月 22 日、「スマホのショッピング アプリの使い方」の講習会

表 4-1 では、2016 年に杭州図書館が行った、高齢者を対象として企画されたプログラムの回数と内容である。ここで、それぞれの高齢者を対象として企画された図書館プログラムを説明する。

(1)「時光之旅プログラム」:「時光之旅」は、2011 年 5 月に結成された高齢者による撮影の同好会の「時光之旅」老年撮影隊である。「時光之旅プログラム」では、杭州図書館である担当講師が、高齢者に撮影スキルを教えながら撮影の経験をシェアする、といった内容の講習会を行っている。時光之旅の受講生は、2013 年現在、55 歳から 83 歳の約 40 名である。2013 年までの間に 6 回の作品の展覧会を行っている。また、2013 年までに 30 回以上の屋外撮影を行い、4,500 枚以上の写真が集まっており、プログラムの開始時から 2013 年までの参加者は延べ 8,000 人に達している¹³。

(2)「医師のお話を聞こうプログラム」は、高齢者に関する一般的な病気を予防するために、杭州市にある病院と連携して行っている健康に関する講習会である。

(3)「生活で偶々得た知恵プログラム」は、近年のスマホの普及を反映し、高齢者にスマホのアプリの使い方を紹介するためのプログラムである。

2016 年の 1 年間に限ると、「時光之旅プログラム」は 45 回実施されており、「医師のお話を聞こう」と「生活で偶々得た知恵」をそれぞれ 10 回実施されている。以上の 3 つのプログラムは定期的な頻度で開催されている。

次に、2016 年 1 月から 12 月までに杭州図書館が実施したプログラムにおける高齢者を対象として企画された図書館プログラムの位置付けを明らかにする。

2016 年に、杭州図書館が実施したプログラムの回数の状況は表 4-2 の通りである。

表 4-2 2016 年行われていた図書館プログラム

プログラム名	合計(回数)
1.文化体験プログラム(文化体験)	463
2.杭州図書館展覧会(杭州展覧)	83
3.講座・サロン(講座沙龍)	198
4.児童を対象として企画された図書館プログラム(少児活動)	141
5.夏休みの特別なプログラム ¹⁴ (暑期特別活動)	68
6.G20 に関するプログラム ¹⁵ (G20 主題活動)	64
7.「敬老の月」プログラム ¹⁶ (敬老月主題活動)	19
8.「科学普及」の週プログラム ¹⁷ (科普週特別活動)	8
9.浙江省公共図書館の公衆閲読プログラム ¹⁸ 「図書館イブ」 (浙江省公共図書館公衆閲読節“図書館之夜” 主題活動)	1
10.新年に関するプログラム(喜慶迎新年)	55
11.「建国記念日」プログラム ¹⁹ (心系祖国 情滿杭州 国慶節主題活動)	34
12.「中秋節」プログラム ²⁰ (中秋特別活動)	4
合計	1,138

表 4-2 では、2016 年 1 月から 12 月までの「杭州図書館の活動一覧」に記載にあった各プログラムとその実施状況を示している。2016 年、杭州図書館が実施したプログラムは、12 種類あり、1 年間にを行ったプログラムの回数は 1,138 回である。実施回数が最も多いプログラムは「文化体験プログラム」の 463 回である。

このうち「高齢者を対象として企画された図書館プログラム」は 3 種類で、「時光之旅」「医師のお話を聞こう」「生活で偶々得た知恵」である。これらは主に文化体験プログラムに属する。10 月に、高齢者に関する「敬老の月プログラム」を開催した際に、これらのプログラムは「敬老の月プログラム」に区分された。

これらから、下記のことがいえる。

(1)杭州図書館が実施したプログラムにおける「高齢者を対象として企画された図書館プログラム」は 3 種類あり、「時光之旅」「医師のお話を聞こう」「生活で偶々得た知恵」プログラムである。

(2)杭州図書館が2016年に行ったプログラム1,138回のうち、高齢者を対象として企画された図書館プログラムは65回で、すべてのプログラムの5.7%である。

4.2.2 高齢者を対象として企画された図書館プログラムと児童ヤングアダルトプログラムの比較

高齢者を対象として企画された図書館プログラムが65回であり、すべてのプログラムの5.7%であった。「高齢者を対象として企画された図書館プログラム」が少ないか否かを判断するため、高齢者を対象として企画された図書館プログラムと児童ヤングアダルトプログラムの比較を行う。

2016年に実施された杭州図書館の児童ヤングアダルトプログラムは3つに分けることができる。1つ目は児童とヤングアダルトを対象として企画された図書館プログラムである。2つ目は、7月と8月に実施される「夏休みの特別なプログラム」で、長期休暇中の児童と生徒のために設けたプログラムである。もう一つは、「新年に関するプログラム」に属した児童とヤングアダルトに関するプログラムである。本研究では、以上の三つのプログラムを総括して「児童ヤングアダルトプログラム」という。

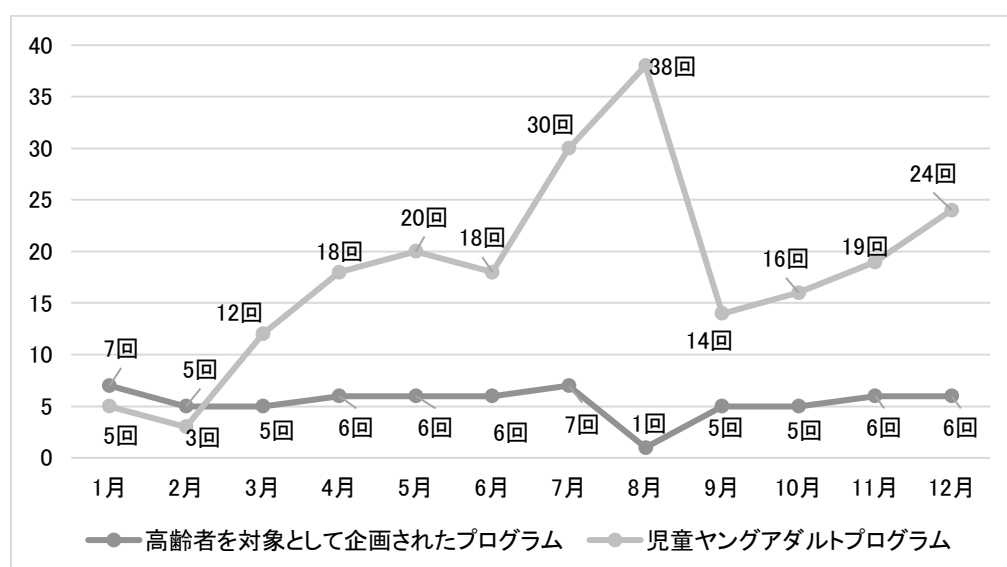


図 4-2 月毎の高齢者を対象として企画された図書館プログラムと児童ヤングアダルトプログラムの比較(2016)

図 4-2 は、2016 年毎月の高齢者を対象として企画された図書館プログラムと児童ヤングアダルトプログラムの開催回数の比較である。

高齢者を対象として企画された図書館プログラムと児童ヤングアダルトプログラムの 2 つの種類
のプログラムが毎月ごとに実施されている。高齢者を対象として企画された図書館プログラムの回

数は同じような回数で実施されていた。7月と8月に「夏休みの特別なプログラム」があるため、児童ヤングアダルトプログラムは実施した回数が30回を超えていた。1月と2月に高齢者を対象として企画された図書館プログラムの回数は、児童ヤングアダルトプログラムより多かった。

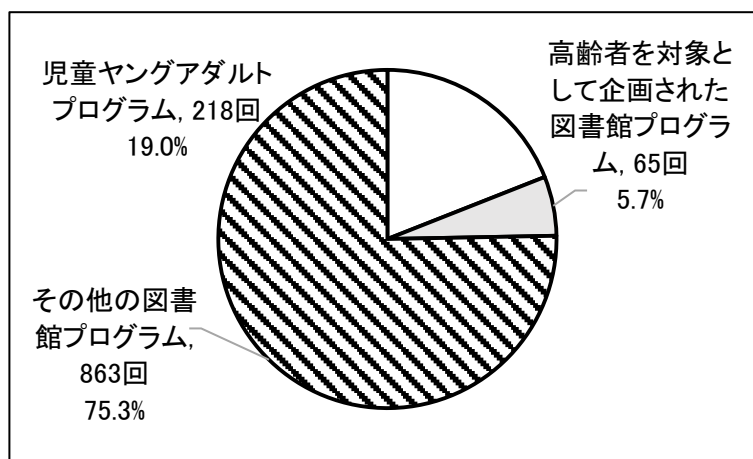


図 4-3 児童ヤングアダルトプログラムと高齢者を対象として企画された図書館プログラムの比較 (2016)

図 4-3 は、2016 年に杭州図書館で実施された、高齢者を対象として企画された図書館プログラムと児童ヤングアダルトプログラムの割合の比較を表したグラフである。高齢者を対象として企画された図書館プログラムの割合は全体のプログラムの 5.7%、児童ヤングアダルトプログラムは 19.0%であった。

1月と2月以外の月は、毎月実施されている児童ヤングアダルトプログラムの回数は、高齢者を対象として企画された図書館プログラムの回数より多かった。また、2016年に杭州図書館で行ったプログラムの回数と比べ、高齢者を対象として企画された図書館プログラムの割合は全体のプログラムの 5.7%であり、児童ヤングアダルトプログラムより 13.3 ポイント少なかった。以上から、高齢者を対象として企画された図書館プログラムの回数が、児童ヤングアダルトサービスと比較すると少ないといえる。

4.2.3 参加者の多くが高齢者である図書館プログラム

2016 年に杭州図書館が行った図書館プログラムの中に、高齢者を対象として企画された図書館プログラムは「時光之旅」「医師のお話を聞こう」「生活で偶々得た知恵」である。一方、この高齢者を対象として企画されたプログラムの他に、高齢者を対象として企画されたプログラムではないものの、参加者の多くが高齢者である図書館プログラムもある。

2013 年 10 月には優れた高齢者サービスを提供している唯一の副省級レベルの公共図書館として「敬老文明号」という称号を授与されている。その際、杭州図書館が「敬老文明号」の称号を申請した際の書類の「杭州図書館敬老服務概況」²¹から、「参加者の多くが高齢者である図書館プログラム」を取り出した。

表 4-3 参加者の多くが高齢者である図書館プログラムの回数と内容(2016)

プログラム		回数
サロン・講座	癒される読書	20
	中国国学と民俗の講座	24
文化体験 プログラム	音楽鑑賞	39
	料理教室	13
	歴史の講習会	4
	健康の講習会	28
	生け花の体験教室	6
	中国芝居と映画鑑賞	5
展覧会	中国伝統芸能の展示会	1
	中国書道・水墨画の展示会	18
	写真の展示会	2
	篆刻の展示会	2
合計		162

表 4-3 は、それぞれの参加者の多くが高齢者である図書館プログラムの種類と回数をまとめた表である。

まず、各プログラムについて簡潔に説明する。

(1)癒される読書プログラム: 図書の閲覧を通じて、体の免疫力を向上させる方法と心が癒される方法を紹介する講座である。

(2)中国国学と民俗の講座プログラム: 国学とは、中国古代の伝統的な哲学思想である。例えば、孔子の儒家思想ある。中国国学と民俗の講座プログラムは、中国古代の伝統的な哲学思想と中国民俗に関する内容を公衆に提供しているプログラムである。

(3)健康の講習会プログラム:養生は生活に留意して健康の増進を図ることである。養生プログラムは、市民の健康を守るために提供しているプログラムである。精神の健康と身体に関する講習会や講座を行っており、一部では運動の体験機会も提供している。

(4)中国伝統芸能の展示会プログラム:中国の国粹とは、中国固有の文化の精華である。「四大国粹」とは、中国の書道、漢方医学、武術と京劇である。中国伝統芸能の展示会プログラムは、中国固有の文化の精華に関するプログラムである。

参加者の多くが高齢者である図書館プログラムの形式は、講座・文化体験プログラム・展覧会の三つの形式がある。表 4-3 の通り、具体的には、国学に関するサロンと講座、音楽鑑賞・料理教室・歴史・生け花・芝居などに関する文化体験プログラム、国粹・書道・水墨画などに関する展覧会である。

その中に、10月の「敬老の月プログラム」も含まれている。「敬老の月プログラム」は、中国の全国老齡工作委员会办公室の政府機構の提唱によって実施されているプログラムである。具体的な内容は「時光之旅」、「医師のお話を聞こう」、「生活で偶々得た知恵」の高齢者を対象として企画された図書館プログラムの他、文化体験プログラムの料理教室、音楽鑑賞などの参加者の多くが高齢者である図書館プログラムもあることが明らかになった。その為、「敬老の月プログラム」から、高齢者を対象として企画された図書館プログラムを除き、残りのプログラムを「参加者の多くが高齢者である図書館プログラム」とした。

本研究では、「高齢者を対象として企画された図書館プログラム」と「参加者の多くが高齢者である図書館プログラム」をあわせて「高齢者プログラム」という。

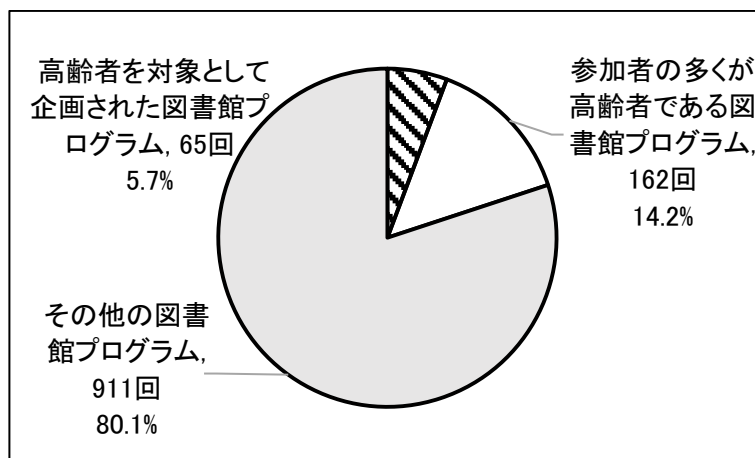


図 4-4 すべてのプログラムに占める高齢者プログラムの割合

図 4-4 は、2016 年に杭州図書館で行われた高齢者プログラムの割合である。その中に、「参加者の多くが高齢者である図書館プログラム」の割合は 14.2%を占めており、「高齢者を対象として企画された図書館プログラム」の割合の 2.5 倍である。また、「高齢者を対象として企画された図書館プログラム」を加えたところ、高齢者プログラムの回数が全体のプログラムの 19.9%を占めた。

4.2.4 高齢者プログラムの開催する場所の分布

高齢者プログラムの開催回数などの概況を把握した上に、高齢者プログラムの実施場所の分布を示す。

表 4-4 高齢者プログラムの開催する場所

	総館	生活主題分館	音楽分館	科学技術分館	仏教学分館
プログラム (回数)	中国芝居と 映画鑑賞(5)	時光之旅(45)	音楽鑑賞 (22)	健康の講習会 (3)	篆刻の 展示会(2)
	歴史の講習会(4)	先生のお話聞こう (10)			
	中国書道・水墨画 の展示会(18)	生活で偶々得た 知恵(10)			
	中国国学と 民俗の講座(24)	生け花の体験教室 (6)			
	癒される読書(20)	料理教室(13)			
	健康の講習会(25)	写真の展示会(1)			
	写真の展示会(1)				
	中国伝統芸能の 展示会(1)				
	音楽鑑賞(17)				
回数	115	85	22	3	2

表 4-4 では、高齢者プログラムの「高齢者を対象として企画された図書館プログラム」と「参加者の多くが高齢者である図書館プログラム」が開催された場所を示している。そのうち、総館では、参加者の多くが高齢者である図書館プログラムの「中国芝居と映画鑑賞」、「音楽鑑賞」、「中国伝統芸能の展示会」、「歴史の講習会」、「中国書道・水墨画の展示会」、「中国国学と民俗の講座」、「癒される読書」、「健康の講習会」、「写真の展示会」を開催していた。また、生活主題分館では、高齢者を対象として企画された図書館プログラムの「時光之旅」、「先生のお話聞こう」、「生活に偶々得たこと」と、参加者の多くが高齢者である図書館プログラムの「料理教室」、「生け花の体験教室」、「写真の展示会」を開催していた。その他の場所としては、音楽分館の「音楽鑑賞」、科学技術分館の「健康の講習会」と仏教学分館の「篆刻の展示会」が開催された。

2016 年に実施された合計 227 回の高齢者プログラムのうち、115 回が総館で開催され、また、85 回の高齢者プログラムが生活主題分館で開催された。高齢者プログラムの 88.1%が総館あるいは生活主題分館で実施されており、高齢者プログラムが主に総館と生活主題分館に集中していることが明らかになった。そのうち、高齢者を対象として企画された図書館プログラムは全て生活主題分館で実施されていることも明らかになった。

4.3 杭州図書館の高齢者プログラムに対する考察

以上の調査結果から、2016 年に杭州市図書館では 1,138 回のプログラムが実施されており、文化体験プログラム、講座、展示会などの 12 種類のプログラムを提供している。高齢者を対象として企画された図書館プログラムは文化体験プログラムに属しており、3 種類の「時光之旅」「医師のお話を聞こう」と「生活で偶々得た知恵」のみであった。また、高齢者を対象として企画された図書館プログラムが 65 回で、すべてのプログラムの 5.7%しか占めてないことが明らかになった。

一方、杭州市の杭州市統計局によると、2016 年末までに 18 歳以下の人口の割合が 16.0%で²²、高齢化率が 21.7%である。高齢者の人数は、18 歳以下の人の人数の約 1.4 倍で、18 歳以下の人の人口より 41 万人多い。高齢者を対象として企画された図書館プログラムと児童ヤングアダルトプログラムの回数と比較すると、児童ヤングアダルトプログラムの回数が高齢者を対象として企画された図書館プログラムの回数の約 3 倍である。杭州図書館の児童ヤングアダルトプログラムの対象年齢に関するデータはないものの、児童一人当たりのプログラムの回数と比較すると、高齢者の一人当たりのプログラムの回数が少ないといえる。

その上、2016 年までに杭州市の 60 歳以上の人口の割合が総人口の 21.7%を占めている²³ものの、杭州図書館における高齢者を対象として企画された図書館プログラムが 65 回であり、すべてのプログラムの 5.7%のみであった。また、参加者の多くが高齢者である図書館プログラムと高齢者を対象として企画された図書館プログラムを加えると、合計 227 回であり、全体のプログラムの 20%を占めている。

また、高齢者プログラムが主に総館と生活主題分館に集中していること、高齢者を対象として企画された図書館プログラムが全て生活主題分館で実施されていることが明らかになった。生活主題分館は高齢化率が 30.2%の杭州市上城区に位置することも踏まえ、今後も高齢者プログラムの開催していく必要があるのではないかと考える。杭州市上城区の高齢者人口数は杭州市の高齢者人口数の 6.2%²⁴しか占めてないこともあり、高齢者プログラムの開催場所がもっと広がるべきであると考えられる。

本章では、中国における公共図書館の高齢者サービスの現状と課題を明らかにするために、2016年に実施された杭州図書館における高齢者プログラムの結果を一つの事例として、概観した。その結果、高齢者を対象として企画された図書館プログラムの回数が、児童ヤングアダルトサービスと比較すると少ないこと、高齢者プログラムが主に総館と生活主題分館に集中していることが明らかになった。これらを踏まえ、第5章では主に総館と生活主題分館に着目し、公共図書館における高齢者サービスの現状と公共図書館との利用者としての協働を検討する。

¹華東地区：中華人民共和国の上海市と山東、江蘇、安徽、浙江、江西、福建、台湾の7省を指す。(中華人民共和国中央人民政府. 中華人民共和国行政区画. http://www.gov.cn/test/2005-06/15/content_18253.htm.(参照 2018-10-1))

²中共杭州市委 杭州市人民政府. 杭州概況. “中国杭州”政府門戸網站. http://www.hangzhou.gov.cn/art/2015/12/16/art_1085336_346424.html(参照 2018-7-8)

³杭州人民政府地方辦公室. 杭州年鑑 2017. 方志出版社. 第1版, 2017.10, p.469.

⁴杭州人民政府地方辦公室. 杭州年鑑 2017. 方志出版社. 第1版, 2017.10, p.469.

⁵国家一級館：2005年、中華人民共和国文化と旅遊部が公布した『文化部關於命名一、二、三級図書館的決定』によると、建築面積が6,000平方メートル以上、年間経費が80万人民元以上、貸出資料数が20万件以上の図書館に対し、国家一級館、国家二級館、国家三級館の称号を付与する。2013年には、中華人民共和国文化と旅遊部が第5回の見直しを行い、中国における国家一級館には、首都図書館をはじめとした859館、国家二級館には天津市河西区図書館をはじめとした640館、国家三級館には天津市河北区図書館をはじめとした731館を認定した。(中華人民共和国文化と旅遊部. 文化部關於命名一、二、三級図書館的決定. <http://www.cppl.cn/law7302.shtml>(参照 2018-6-25))

⁶筆者が杭州図書館ホームページを参考に作成した。杭州図書館. アクセス. <http://www.hzlib.net/dzfwjzn.htm>(参照 2018-6-18)

⁷棋院分館：2008年に設置された杭州図書館の分館の一つのである。棋院図書館が杭州図書館、中国棋院杭州分院連携して設置した。囲碁と棋文化に関する資料を特徴とし、2008年現在、棋に関する資料を2000冊以上蔵書している。(杭州図書館. 杭州図書館パンフレット. 2018年4月公開.)

⁸城市学分館：2017年に設置された杭州図書館の分館の一つである。中国で初めての「城市学」に関する専門図書館である。「城市と城市学」に関する専門資料に特徴がある。(杭州図書館. 杭州図書館パンフレット. 2018年4月公開.)

⁹杭州図書館. 杭州図書館生活主題分館. <http://www.hzlib.net/fwwd/404.htm>(参照 2018-4-30)

¹⁰杭州図書館. 杭州図書館パンフレット. 2018年4月公開.

¹¹杭州図書館. 杭州図書館敬老服務概況(2013年までに、高齢者に関するプログラムのまとめの書類である). 内部資料.(参照 2016-11-6)

¹²杭州人民政府地方辦公室. 杭州年鑑 2017. 方志出版社. 第1版, 2017.10, p.469.

¹³杭州図書館. 杭州図書館敬老服務概況(2013年までに、高齢者に関するプログラムのまとめの書類である). 内部資料.(参照 2016-11-6)

¹⁴夏休みの特別なプログラム(暑期特別活動): 中国の生徒の夏休みは7月と8月の二ヶ月間である。夏休みの特別なプログラムは休み中の児童と生徒のために設けたプログラムである。杭州図書館. 杭州図書館敬老服務概況(2013年までに、高齢者に関するプログラムのまとめの書類). 内部資料. (参照 2016-11-6)

¹⁵G20に関するプログラム(G20 主題活動): G20 は“Group of Twenty”の略で、主要国首脳会議(G7)に参加する7か国(カナダ、フランス、ドイツ、イタリア、日本、英国、米国)、欧州連合(EU)、ロシア連邦、中国、韓国、インド、インドネシア、オーストラリア、トルコ、サウジアラビア、南アフリカ、メキシコ、ブラジル、アルゼンチンの20か国・地域から構成される。2017年9月4日にG20 杭州サミットは中国の杭州市の杭州図書館で行った。G20に関するプログラムは杭州図書館がG20を迎えるために、行ったプログラムである。杭州図書館. 杭州図書館敬老服務概況(2013年までに、高齢者に関するプログラムのまとめの書類). 内部資料. (参照 2016-11-6)

¹⁶敬老の月プログラム(敬老月主題活動): 陰暦9月9日は中国の重陽節という祝日である。2010年から、全国老齡工作委员会办公室の政府機構は全国で「敬老の月」というプログラム(重陽節がある一ヶ月間で行うプログラムである)を提唱した。2016年の重陽節は10月にあった。杭州図書館は10月を「敬老の月」として、「敬老の月プログラム」を行った。杭州図書館. 杭州図書館敬老服務概況(2013年までに、高齢者に関するプログラムのまとめの書類). 内部資料. (参照 2016-11-6)

¹⁷科学普及の週プログラム(科普通特別活動): 市民に科学の知識を普及するために、科学に関するプログラムを行う一週間である。杭州図書館. 杭州図書館敬老服務概況(2013年までに、高齢者に関するプログラムのまとめの書類). 内部資料. (参照 2016-11-6)

¹⁸浙江省公共図書館の公衆閲読プログラム「図書館イブ」(浙江省公共図書館公衆閲読節“図書館之夜”主題活動): 1995年にユネスコは毎年の4月23日を「世界読書・著作権デー」と呼ぶことを設定した。国と地域によって、読書と本に関するプログラムを行っている。杭州図書館は、2016年4月23日の夜に、市民に「図書館イブ」という読書プログラムを提供した。杭州図書館. 杭州図書館敬老服務概況(2013年までに、高齢者に関するプログラムのまとめの書類). 内部資料. (参照 2016-11-6)

¹⁹建国記念日プログラム(心系祖国 情滿杭州 國慶節主題活動): 建国を記念する日である。中国の建国記念の日(毎年の10月1日)は「國慶節」という。「建国記念日プログラム」は10月に、建国のお祝いのプログラムを行った。杭州図書館. 杭州図書館敬老服務概況(2013年までに、高齢者に関するプログラムのまとめの書類). 内部資料. (参照 2016-11-6)

²⁰中秋節プログラム(中秋特別活動): 中秋節とは、陰暦8月15日に、家族と月見をする中国の習俗である。「中秋節のプログラム」は中秋節を記念するために、行ったプログラムである。杭州図書館. 杭州図書館敬老服務概況(2013年までに、高齢者に関するプログラムのまとめの書類). 内部資料. (参照 2016-11-6)

²¹杭州図書館. 杭州図書館敬老服務概況(2013年までに、高齢者に関するプログラムのまとめの書類である). 内部資料. (参照 2016-11-6)

²²杭州市社会經濟調查局. 2017年杭州統計年鑑. 第二篇 人口和就業人員. 2-05 分地区戶籍人口年齡構成(2016年末). <http://tjj.hangzhou.gov.cn/tjnj/nj2017/index.htm> (参照 2018-8-15)

²³杭州市社会經濟調查局. 2017年杭州統計年鑑. 第二篇 人口和就業人員. 2-05 分地区戶籍人口年齡構成(2016年末). <http://tjj.hangzhou.gov.cn/tjnj/nj2017/index.htm> (参照 2018-8-15)

²⁴杭州市社会經濟調查局. 2017年杭州統計年鑑. 第二篇 人口和就業人員. 2-05 分地区戶籍人口年齡構成(2016年末). <http://tjj.hangzhou.gov.cn/tjnj/nj2017/index.htm> (参照 2018-8-15)

5. 杭州図書館における高齢者の利用・生涯学習の意識に対する実態調査

本章では、生涯学習の視点から、公共図書館における高齢者サービスを検討するために、杭州図書館における高齢利用者の高齢利用者の図書館利用の実態と生涯学習の意識を明らかにすることを目的としたアンケート調査について述べる。第1節では、高齢利用者の利用実態と生涯学習に関するアンケート調査の概要を述べる。第2節では、アンケート調査結果、第3節では、アンケート結果に基づいて、「高齢者が主催する高齢者プログラム」への参加の有無により、生涯学習と協働について比較する。第4節では、結果をまとめる。

5.1 調査の概要

本調査は、杭州図書館を調査対象館とする。

杭州市は、中国の中でも特に高齢化が進行している地域である。2010年12月現在の杭州市における60歳以上の人口は17.1%であった。その後、第4章でも述べた通り、杭州市は、2016年の時点で、60歳以上の人口の割合が21.6%を占めている。この割合は、全国の60歳以上の人口の割合である13.3%より多く、全国と比較すると、より深刻な高齢化に直面していることが見て取れる。この状況を受け、杭州図書館は高齢者サービスを提供しており、2013年10月には、先進的な高齢者サービスを提供している公共図書館として、「敬老文明号」という称号が授与された。第4章で述べたように、2016年に杭州図書館で実施された高齢者プログラム227回のうち、115回が総館で、85回が生活主題分館で開催されている。つまり、高齢者プログラムの88.1%が総館あるいは生活主題分館で実施されており、高齢者プログラムが主に総館と生活主題分館に集中している。そこで、杭州図書館のうち、総館と生活主題分館を調査対象館とする。

本調査の概要は、表5-1の通りである。

表5-1 アンケート調査の概要

項目	内容
調査時期	2017年8月31日～2017年9月9日
調査対象者	杭州図書館総館あるいは生活主題分館を利用している高齢者
調査目的	生涯学習の視点から、公共図書館における高齢者サービスを検討するため、高齢利用者側の図書館利用の実態や生涯学習の意識を明らかにするため、アンケート調査を実施する。杭州図書館総館、生活主題分館の高齢利用者の杭州図書館の利用状況・満足度、生涯学習に関する意識、図書館との協働の状況、高齢利用者が杭州図書館と協働し、行われている高齢者プログラムの高齢利用者の利用状況、満足度について調査する。
調査場所	杭州図書館総館と生活主題分館の玄関、閲覧室、カウンター、生活主題分館4階の活動室
調査方法	<p>個別面接調査法、留置調査法：杭州図書館総館と生活主題分館の玄関、閲覧室、カウンターで実施。</p> <p>高齢者がアンケート調査の質問紙を読みにくい場合や理解できない場合は、個別面接調査法を実施。その際に、アンケート調査の目的と注意点を説明し、質問項目を読み上げた。それ以外の場合は、留置調査法を実施。</p> <p>集合調査法：生活主題分館において、高齢者が主催する高齢者プログラムである「時光之旅プログラム」の参加者に対して実施。</p>
調査項目	<p>調査項目の概要は以下に示す5グループ25項目である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 図書館の利用経験と満足度(9項目) 2. 生涯学習について(6項目) 3. 杭州図書館との協働について(4項目) 4. フェイスシート(4項目)

また、本調査の質問紙の回収状況は、表5-2の通りである。

表5-2 杭州図書館におけるアンケート調査の質問紙の回収状況

No	場所	実施方法	配布数	回収数	回収率	有効回答数
A	総館	個別調査法、留置調査法	218	218	100%	198
B	生活主	個別調査法、留置調査法	41	41	100%	37
C	題分館	集合調査法	41	27	65.9%	22
合計			300	286	95.3%	257

本調査では、60歳以上の杭州図書館総館および生活主題分館の利用者を調査対象として、質問紙を配布した。本調査の有効回答は、60歳以上の杭州図書館総館あるいは生活主題分館を利用している高齢者からの回答に限定した。そのため、60歳以下の人の回答を無効回答とした。

本調査では、表5-2で示したとおり、調査A「総館の利用状況の調査」、調査B「生活主題分館の利用状況の調査」、調査C「協働に関する高齢者プログラムの利用状況の調査」の3つの調査を行った。

調査Aは総館で、個別面接調査法と留置調査法によるアンケート調査である。調査対象者と考えられる利用者に対し、杭州図書館総館で、218の質問紙を配布し、上述の処理を行った。その結果、杭州図書館総館の有効回答数は198であった。調査Bは、生活主題分館で個別面接調査法と留置調査法によるアンケート調査であり、41の質問紙を配布した。有効回答数は37であった。調査Cでは、集合調査法を用いて高齢利用者が生活主題分館と協働し、実施されている高齢者プログラムである「時光之旅プログラム」の高齢利用者に質問紙を配布した。「時光之旅プログラム」の参加者全員計41名に質問紙を配布し、うち回収数が27、有効回答数は22であった。調査A、B、Cの結果を合算すると、質問紙の配布数が300で、有効回答数は257であった。

また、「高齢者が主催する高齢者プログラム」の「時光之旅プログラム」への参加により、回答者の生涯学習と協働の実態について比較することを目的として、「時光之旅プログラムの高齢利用者」と「生活主題分館の高齢利用者の中で、過去1年間に、「時光之旅プログラム」を利用したことのない高齢利用者」のグループに分け、生涯学習という言葉の理解、生涯学習の実践場所、公共図書館での生涯学習の経験、協働とボランティア活動の経験について比較する。本研究では、

「高齢者によるプログラム参加経験あり」グループ、後者を「高齢者によるプログラム参加経験なし」グループという。

5.2 図書館利用・生涯学習・協働の実態

本節では、高齢利用者の図書館の利用状況と満足度、生涯学習の経験や形式、図書館との協働について、調査結果を述べる。

5.2.1 属性

(1) 性別

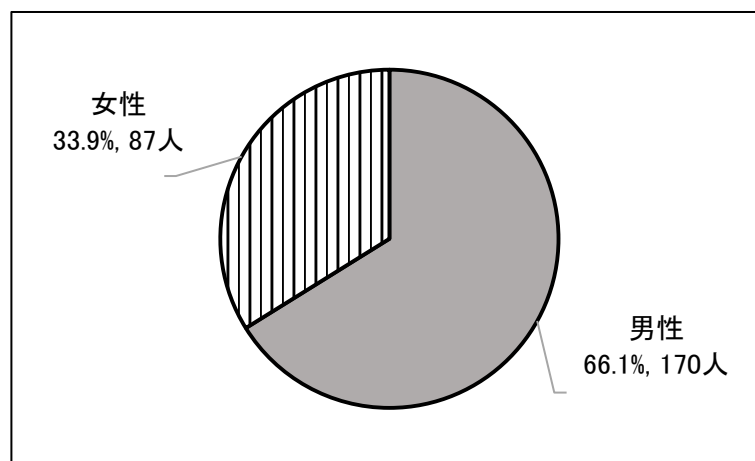


図 5-1 回答者の男女比 (n=257)

図 5-1 は、回答者の男女比の結果である。本調査では、男性は 170 人(66.1%)、女性は 87 人(33.9%)であった。

(2) 年齢

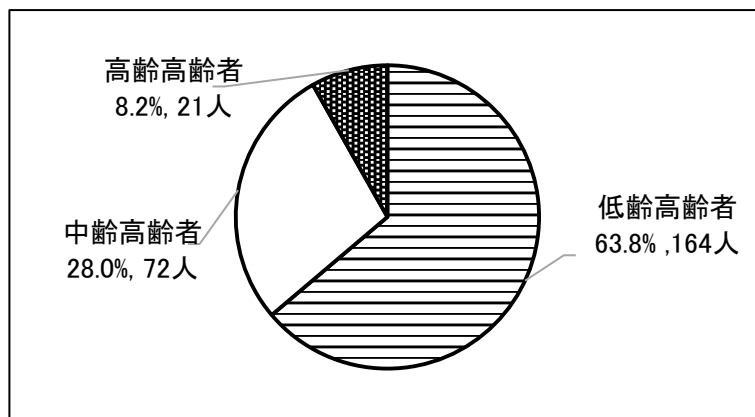


図 5-2 回答者の年齢分布 (n=257)

図 5-2 は、回答者の年齢分布の結果である。年齢層の区分は、「高齢者の生活状況に関する中国政府報告書」¹の区分を用いている。ここでは、高齢者の分類が年齢によって、3 つに分けられている。同報告書を参考にし、60 歳から 69 歳までの人を低齢高齢者、70 歳から 79 歳までの人を中齢高齢者、80 歳以上の人を高齢高齢者としている。本研究も同じ区分を用いて、高齢者を低齢高齢者、中齢高齢者、高齢高齢者に分ける。

本調査では、低齢高齢者 164 人(63.8%)、中齢高齢者 72 人(28.0%)、高齢高齢者 21 人(8.2%)であった。回答者は 60 代の低齢高齢者に集中し、低齢高齢者が半数以上の 164 人(63.8%)で、高齢高齢者の割合が最も少ない。

(3) 最終学歴

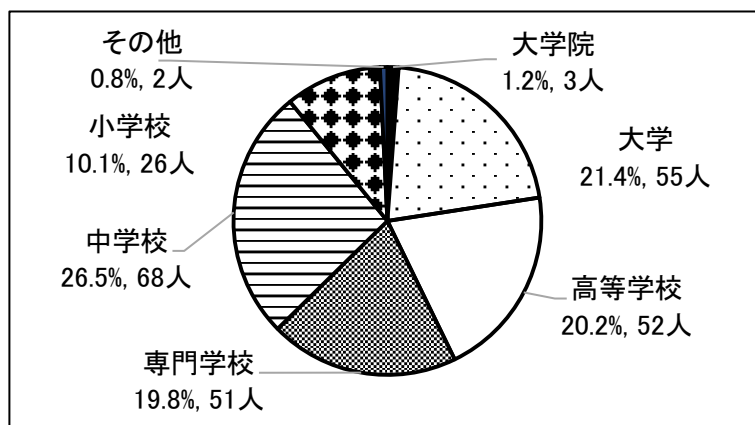


図 5-3 回答者の最終学歴の状況 (n=257)

図 5-3 は、回答者の最終学歴の状況の結果である。257 の有効回答数のうち、最終学歴が「中学校」の回答が最も多く、68 人(26.5%)を占めている。次に、「大学」と「高等学校」の回答が 55 人(21.4%)と 52 人(20.2%)である。また、「専門学校」が 51 人(19.8%)を占めている。また、「小学校」の回答が 26 人(10.1%)で、「大学院」の回答が 3 人(1.2%)を占めている。「学校に通ったことがない」として「その他」と回答した人が 2 人(0.8%)であった。結果として、回答者の学歴の 229 人(89.1%)が中学校以上であった。

5.2.2 図書館の利用状況と満足度

(1)利用頻度

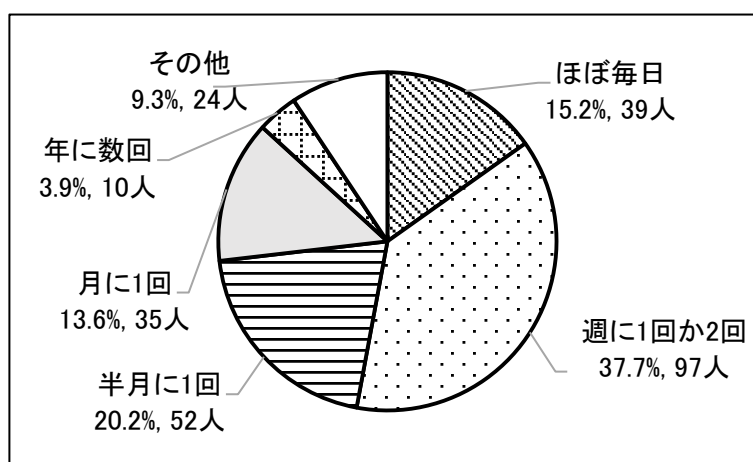


図 5-4 回答者の利用頻度の状況 (n=257)

図 5-4 は、回答者の利用頻度の状況の結果である。そのうち、「週に 1 回か 2 回」が最も高く、97 人(37.7%)を占めている。次は、52 人が(20.2%)「半月に一回」である。続いて、「ほぼ毎日」が 39 人(15.2%)を占めており、「月に 1 回」が 35 人(13.6%)を占めている。「その他」と「年に数回」が 24 人(9.3%)と 10 人(3.9%)を占めている。この結果から、杭州図書館を利用している高齢者のうち、223 人(86.7%)の回答者が、月に 1 回以上、杭州図書館を利用していることがわかる。

(2)利用時間

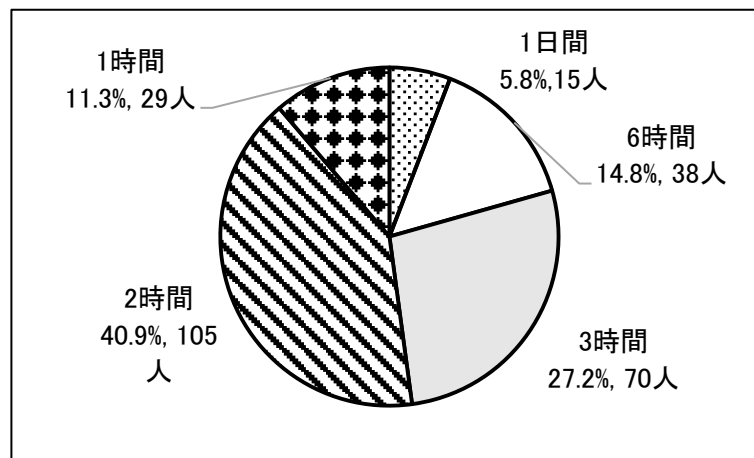


図 5-5 回答者の利用時間の状況 (n=257)

図5-5は、回答者の利用時間の状況である。利用時間が「2時間」であるという回答が最も多く、105人(40.9%)である。次に、「3時間」の回答が70人(27.2%)である。続いて、「6時間」が38人(14.8%)であり、「1時間」の回答は29人(11.3%)である。「1日間」滞在するとした回答は、15人(5.8%)であった。利用時間が2時間以上の回答者が、228人(88.7%)を占めている。

(3)施設・設備の利用の満足度

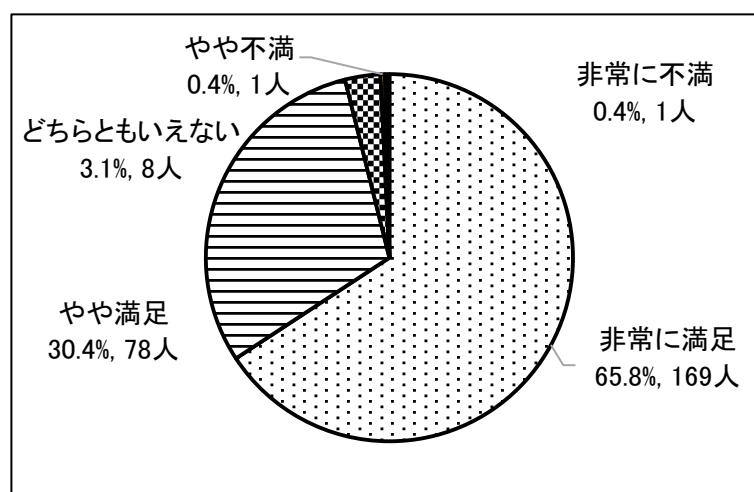


図 5-6 回答者の施設・設備の利用についての満足度(n=257)

図 5-6 は、回答者は杭州図書館の施設・設備の利用についての満足度の結果である。「施設・設備」は杭州図書館館内の閲覧室の環境、閲覧の雰囲気、パソコンや車椅子などの備品の状況を指す。回答者は杭州図書館の施設・設備の利用についての満足度について、「非常に満足」している回答者が最も多く、169 人(65.8%)を占めた。また、「やや満足」と回答した回答が 78 人(30.4%)であった。「どちらともいえない」は 8 人(3.1%)であった。

(4)資料の利用の満足度

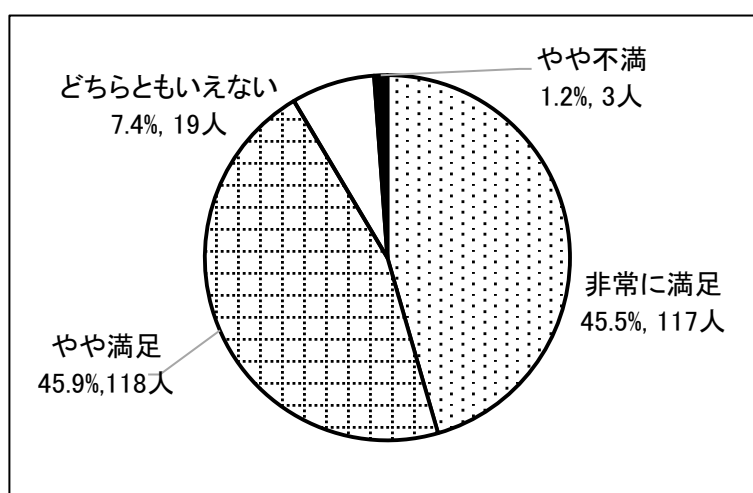


図 5-7 回答者の資料の利用についての満足度 (n=257)

図5-7は、回答者は杭州図書館の資料の利用についての満足度の結果である。「やや満足」と「非常に満足」の回答がそれぞれ118人(45.9%)と117人(45.5%)である。次は、「どちらともいえない」の回答が19人(7.4%)であった。「やや不満」の回答が3人(1.2%)であり、「非常に不満」の回答はなかった。

(5)サービスの利用の満足度

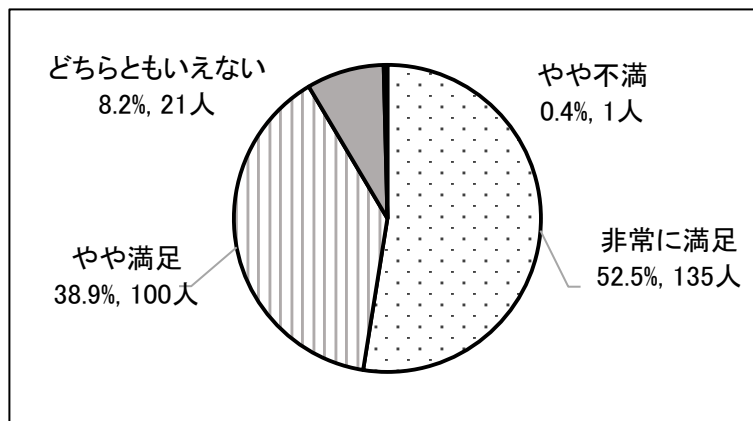


図 5-8 回答者のサービスの利用についての満足度 (n=257)

図5-8は、回答者のサービスの利用についての満足度である。「非常に満足」の回答が最も多く、135人(52.5%)である。次は、「やや満足」の回答が100人(38.9%)であり、「どちらともいえない」と「やや不満」の回答が21人(8.2%)、1人(0.4%)であった。「非常に不満」の回答はなかった。

(6)高齢者プログラムの利用経験

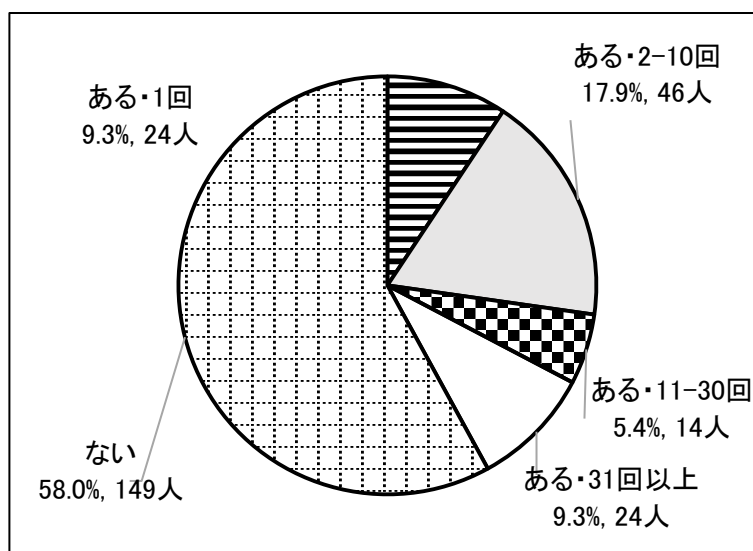


図 5-9 過去 1 年間における高齢者に関するプログラムの参加回数(n=257)

図5-9は、過去1年間における回答者が杭州図書館の高齢者に関するプログラムの参加状況の結果である。過去1年間で149人(58.0%)の総館における回答者は、杭州図書館の高齢者プログラ

ムへ参加していなかった。また、過去1年間で、108人(42.0%)の回答者が、杭州図書館の高齢者プログラムへの参加経験があった。そのうち、「2回-10回」の高齢者プログラムに参加したことがあると回答した人が最も多く、46人(17.9%)を占めており、「1回だけ参加したことある」と「31回以上」の回答がそれぞれ24人(9.3%)であった。「11回-30回」回答が14人(5.4%)である。

(7)参加したことのある高齢者プログラム

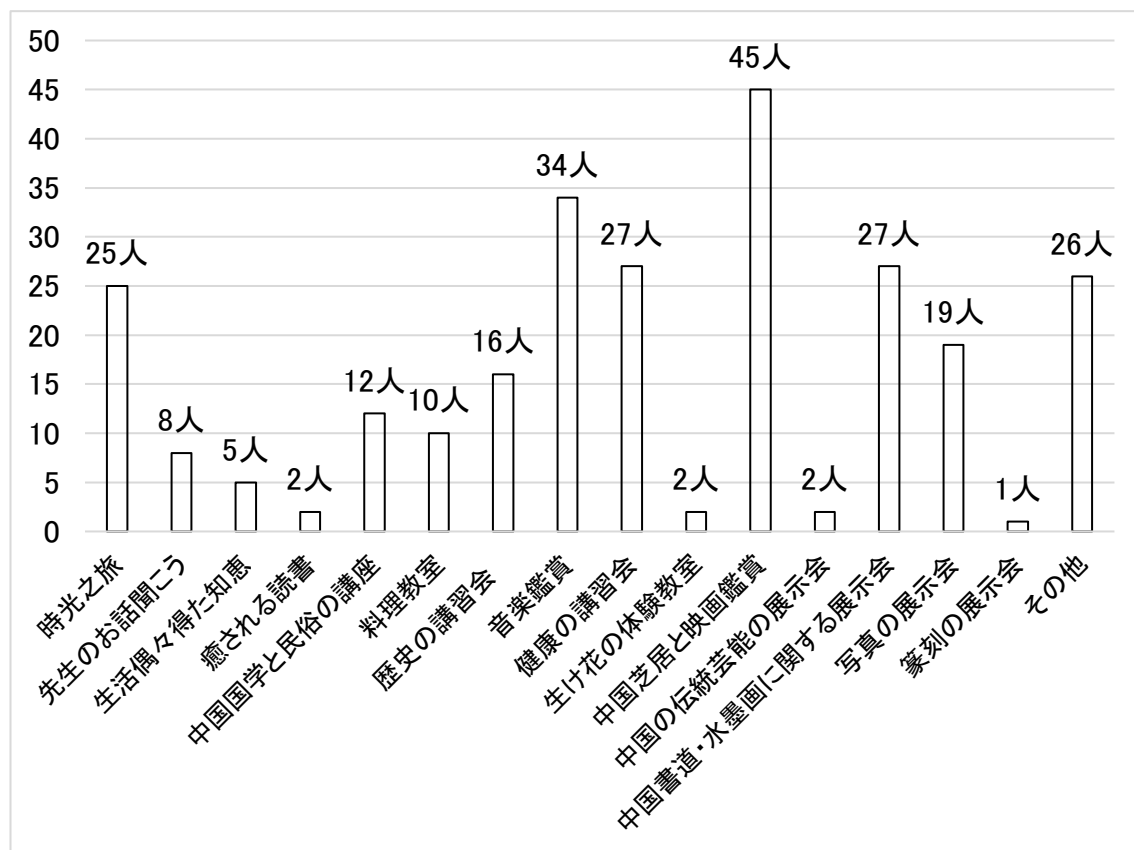


図 5-10 回答者の高齢者に関するプログラムの参加状況(複数選択 n=108)

図 5-10 は、回答者の高齢者に関するプログラムの参加状況の結果である。45 人(41.7%)の回答者は「中国芝居と映画鑑賞」プログラムへ参加したことがあり、次は、「音楽鑑賞」プログラム、「健康の講習会」プログラム、「中国書道・水墨画に関する展示会」プログラムの回答がそれぞれ 34 人(31.5%)、27 人(25%)、27 人(25%)である。

(8)高齢者プログラムの利用の満足度

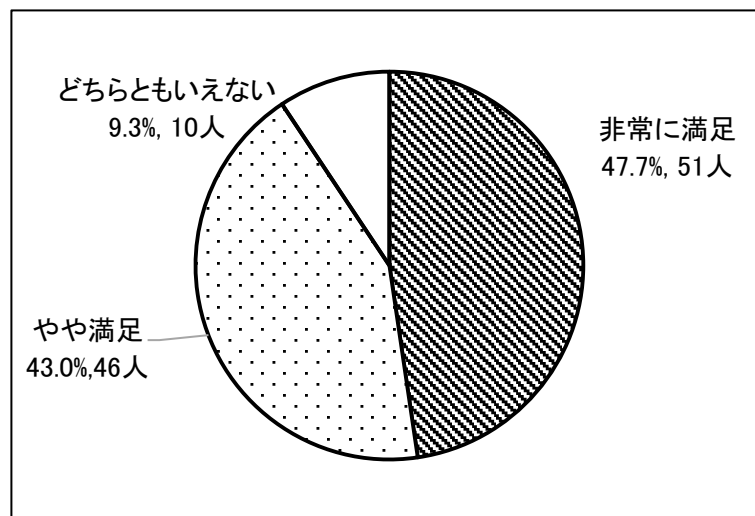


図 5-11 回答者の高齢者に関するプログラムの利用についての満足度 (n=107)

図 5-11 は、回答者の高齢者に関するプログラムの利用についての満足度の結果である。最も多い回答は、51 人(47.7%)を占めている「非常に満足」であった。次は、「やや満足」している回答者であり、46 人(43.0%)であり、「どちらともいえない」の回答が 10 人(9.3%)であった。一方、「やや不満」と「非常に不満」の回答はなかった。

5.2.3 生涯学習の経験や形式

(1)生涯学習という言葉の理解

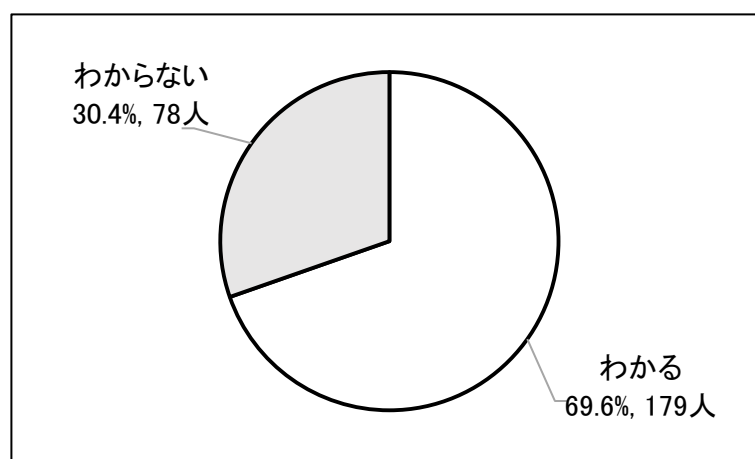


図 5-12 「生涯学習」という言葉がわかるか (n=257)

図 5-12 は、回答者が「生涯学習」という言葉がわかるかに関する質問項目の結果である。「生涯学習」という言葉がわかるかについて、回答者の 179 人(69.6%)が「わかる」と回答した。

(2)生涯学習の実践場所

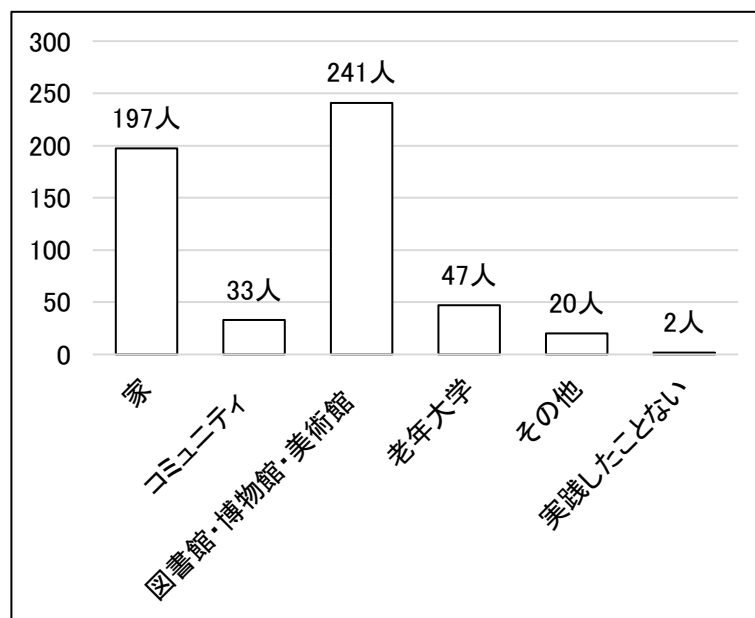


図 5-13 生涯学習の実践場所に関する状況（複数選択 n=257）

図 5-13 は、回答者が生涯学習を実践する場所の結果である。そのうち、「図書館・博物館・美術館」の回答が最も多く、241 人(93.8%)であった。また、「家」で生涯学習を実践している回答数が 197 人(76.7%)である。「老年大学」、「コミュニティ」、「その他」のそれぞれの回答が 47 人（18.3%）、33 人(12.8%)、20 人(7.8%)であり、「実践したことない」の回答が 2 人(0.8%)であった。

(3)公共図書館での生涯学習の経験

a. 実践形式

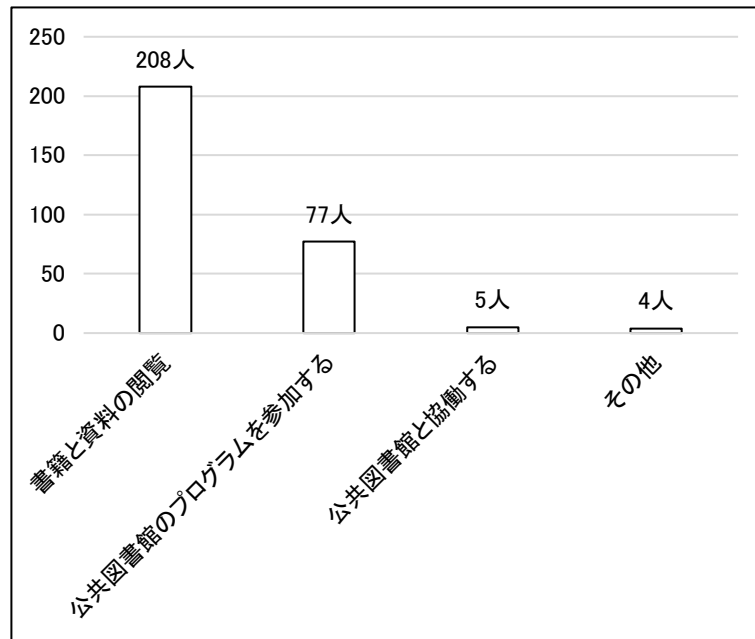


図 5-14 公共図書館で生涯学習を実践する形式の状況(複数選択 n=217)

図 5-14 は、高齢利用者が公共図書館で生涯学習を実践する形式の状況の結果である。そのうち、最も多い回答が「書籍と資料の閲覧」で、208 人(95.9%)であった。また、「公共図書館のプログラムに参加する」の回答者が 77 人(35.5%)であった。その他、「公共図書館と協働する」と「その他」の回答がそれぞれ 5 人(2.3%)と 4 人(1.8%)である。

b. 満足度

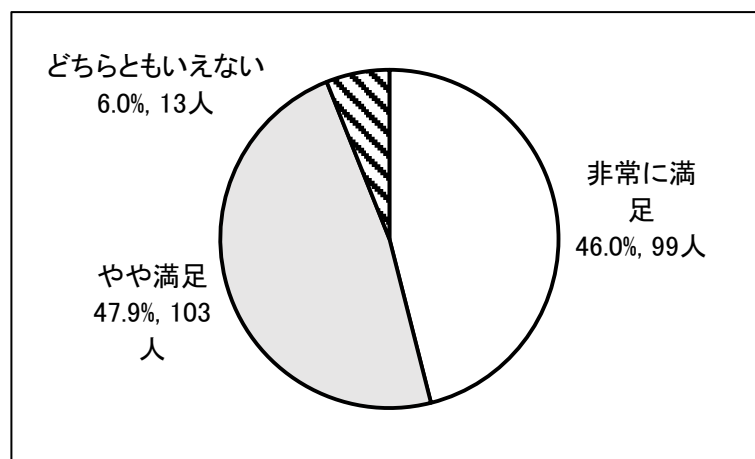


図 5-15 回答者の公共図書館における生涯学習の経験についての満足度(n=215)

図 5-15 は、回答者の公共図書館で生涯学習を実践した経験についての満足度の結果である。そのうち、「やや満足」の回答が最も多く、103 人(47.9%)を占めた。次は、「非常に満足」の回答が 99 人(46.0%)である。また、「どちらともいえない」の回答は、13 人(6.0%)であった。一方、「やや不満」と「非常に不満」の回答はなかった。

c. 公共図書館で生涯学習を実践しない理由

本調査における回答者が公共図書館で生涯学習を実践しない理由についての自由記述が以下の通りである。

公共図書館で生涯学習を実践しない理由として、主に①時間が足りない、②定期的に公共図書館に通う習慣がない、③学習意欲が弱い、④資料の貸出のために図書館に通う、⑤図書館までの道が遠い、⑥公共図書館プログラムの利用が苦手である、⑦生涯学習を理解できない、⑧体調が悪い、⑨その他に分けられる。

①時間が足りない(12 人)

- ・時間がない(10 人)
- ・孫の世話を見るため時間がない(2 人)

②定期的に公共図書館に通う習慣がない(5 人)

- ・定期的に図書館にこられない(4 人)
- ・定期的に図書館にこられないから、学習に集中できない(1 人)

③学習意欲が弱い(5 人)

- ・視力が悪いから(2 人)
- ・自分が真面目に学習しない(1 人)
- ・図書館に来る目的が学習ではなく、暇潰しだから(1 人)
- ・私たちもう年取ったから、学習なんて嫌い(1 人)

④資料の貸出のために図書館に通う(3 人)

- ・貸出して、家で読みたいから(2 人)
- ・ただ資料の貸出をしたい、一人で書籍を読むのが好きだ(1 人)

⑤図書館までの道が遠い(3 人)

- ・家まで遠いから(3 人)

⑥公共図書館プログラムの利用が苦手(2 人)

- ・公共図書館プログラム利用したことない(1 人)
- ・公共図書館にプログラムがあることが知らなかった(1 人)

⑦生涯学習を理解できない(2 人)

- ・年をとったから、生涯学習なんてわからない(1 人)
- ・書籍と新聞を読むことは学習じゃない(1 人)

⑧体調が悪い(2 人)

- ・視力が悪いから(2 人)

⑨その他(3人)

- ・初めて来る(1人)
- ・農村から来たから、文字とかちゃんとわからない(1人)
- ・図書館が便利(1人)

5.2.4 図書館との協働

(1) 協働の経験

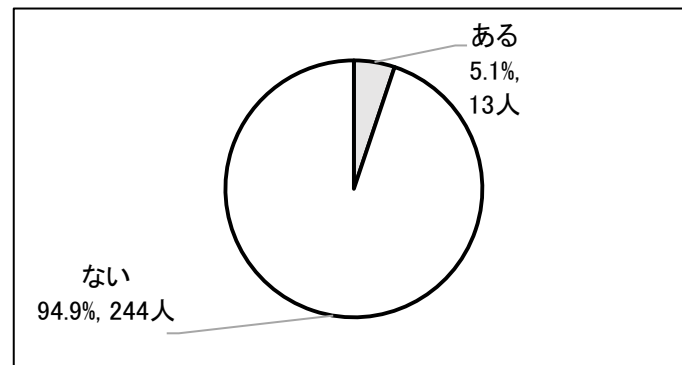


図 5-16 図書館との協働の経験の有無 (n=253)

図 5-16 は、回答者の図書館との協働の経験の有無の結果である。杭州図書館との協働の経験の有無について、13 人(5.1%)の回答者は杭州図書館との協働の経験があった。

(2) 協働の理由

図書館と協働する理由について、自由記述を下記のように分類した。ひとつめは、協働が自分自身の社会参加になっているからというものである。また、杭州図書館の高齢者に関するプログラムへの興味や、撮影に対する興味を抱き、それぞれの興味に即したイベントやプログラムに参加しているというものもあった。その他、杭州図書館と協働することが杭州市民としての義務と考えられており、また、杭州図書館が無料で場所などの条件を提供していることという理由もあった。

以上の回答のうち、6 つの回答が生活主題分館で「時光之旅」プログラムが行われていた際に集合調査法でアンケート調査を実施した結果である。その中に、2つの「c.撮影に興味がある」の回答が含まれている。

- a. 社会参加が重要だと考えている。(3人)

- ・参加ができることが重要なので、した(低齢高齢者 男性)
- ・展示会へ参加するためである(中齢高齢者 男性)
- ・図書館の呼び掛けに応えるため、積極的に参加する。また、杭州市の文化の雰囲気が良い、手作りと公益事業に興味がある(低齢高齢者 女性)

b. 杭州図書館の高齢者プログラムに興味がある。(3人)

- ・高齢者に関するプログラムへ参加するためである(低齢高齢者 女性)
- ・心は感謝の気持ちでいっぱい、図書館を愛している。毎回図書館に来る際に、まず当日に行うプログラムを確認し、興味があれば参加し、そうじゃなかったら、図書館の各フロアに行って本を読む(中齢高齢者 女性)
- ・図書館の呼び掛けに応えるため、積極的に行うことを参加する。また、杭州市の文化の雰囲気が良い、手作りと公益事業に興味がある(低齢高齢者 女性)

c. 撮影に興味がある。(2人)

- ・図書館が行った撮影に関するプログラムへ参加するためだ(低齢高齢者 女性)
- ・図書館の「昨日」と「今日」を撮影したい(低齢高齢者 男性)

d. その他(2人)

- ・杭州市民としての義務だ(低齢高齢者 男性)
- ・杭州図書館と協働し、「情満西湖」という絵画と書道の展示会を行っている。杭州図書館総館ができてから、年二回の頻度で行なっている。杭州図書館が無料で場所と水、警備を提供している(低齢高齢者 男性)

(3)協働の経験がある高齢利用者の来館理由

協働の経験がある高齢利用者の来館理由に関する自由記述を以下に示す。

a.学習に関する目的を持っている(9 人)

- ・撮影知識を学びたい(3 人)
- ・学習したい(1 人)
- ・知識を増やす(3 人)
- ・知識が増える講座に参加し、例えば、撮影講座、健康講座だ(1 人)
- ・視野が広がる(1 人)

b.交流の機会が増える(2 人)

- ・友達を作りたい(2 人)

c.豊かな生活への関心(4 人)

- ・豊かな老後生活が欲しい(3 人)
- ・楽しみが増える(1 人)

d.書籍や読書に興味がある(4 人)

- ・読書が好きだ(2 人)
- ・親が図書館で働いていた為、とても影響を受けて、読書が好きだ(1 人)
- ・書籍を貸し出したい(1 人)

e.その他(2 人)

- ・自身が所属する絵画と書道のサークルが行なった展示会の事務作業・後片づけ(1 人)
- ・杭州図書館が憧れている。来るたび、リラックスができて、環境も優れて、すぐ落ち着ける。杭州図書館の存在があることは、我々杭州市民にとって運が良いことだと思う、政府を感謝している(1 人)

協働の経験がある調査対象者のうち、新しい知識を学びたいとするものが最も多かった。また、「書籍と読書に興味がある」、「友達を作りたい」、「豊かな生活を作る」を理由とし、杭州図書館を利用している。そのうち、「絵画と書道のサークルが行なった展示会の事務作業・後片づけ」であるため、来館した高齢者が 1 人あり、杭州図書館が気に入ったため来館した高齢者が 1 人であった。

(3) ボランティア活動の経験

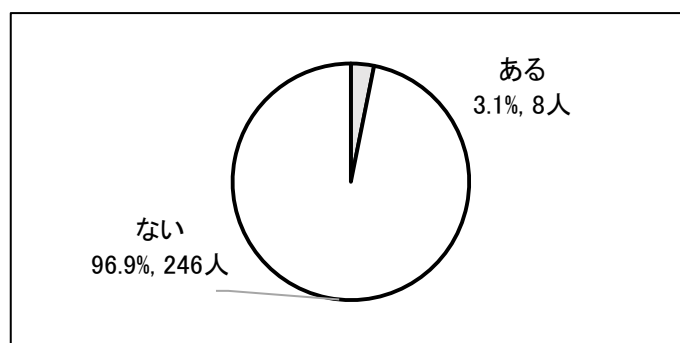


図 5-17 回答者のボランティア経験の有無の状況(n=254)

図 5-17 は、回答者のボランティア経験の有無の結果である。254 の回答のうち、「杭州図書館でボランティア経験がある」の回答が 8 人(3.1%)である。これに対し、「杭州図書館でボランティア経験がない」の回答が 246 人(96.9%)であった。

(4) ボランティア活動の理由

a. 社会貢献やボランティア活動に興味がある(2 人)

- ・社会貢献活動に参加するのが好き、受けた恩をありがたく思い、社会に報いたい(1 人)
- ・ボランティア活動に興味がある(1 人)

b. ボランティア活動の内容が気に入っている(3 人)

- ・自分の趣味だから、料理を作るのが好きで、子供達にお寿司やコーヒーの作り方を教えた(1 人)
- ・サイコロジー関係の仕事をやったから、ボランティアとして、昔の仕事の内容も活かせる(1 人)
- ・老後の生活の豊かさにする。2012 年から、ボランティアとして貸出機の使い方を教えて、利用者が欲しい資料を探す。自分も書籍が好きで、ついでに自分も資料の貸出をする(1 人)

c. 個人的理由(1 人)

- ・失業して、無職になったから、やった(1 人)

回答者が杭州図書館でボランティア活動を行う理由として、ボランティア活動の内容が気に入っているというのが最も多い理由である。また、「公益やボランティア活動に興味がある」ため、失業などの個人的な理由でボランティア活動に参加したという回答もあった。

5.3「高齢者が主催する高齢者プログラム」への参加別の生涯学習と協働の比較

次に、生涯学習と協働について、生活主題分館の利用者を対象に限定して分析する。「高齢者が主催する高齢者プログラム」への参加の有無によって集合を分け、生涯学習と協働について比較する。本調査では、「高齢者が主催する高齢者プログラム」は、「時光之旅プログラム」のみであるため、同プログラムへの参加別の比較を行う。

5.3.1「高齢者が主催する高齢者プログラム」への参加

表 5-3 は、「時光之旅プログラム」の参加の有無についてまとめた表である。調査Bの有効回答のうち、「時光之旅プログラム」へ参加したことがあると回答したのは1人であった。調査Cについては、「時光之旅プログラム」の参加者への調査のため、全有効回答数22人がこれにあたる。本項では、「時光之旅プログラム」に参加したことがある回答者23人と、参加したことがない回答者36人の生涯学習と協働の実態について比較する。なお、前者の集合を「高齢者によるプログラム参加経験あり」グループ、後者を「高齢者によるプログラム参加経験なし」グループとする。

表 5-3 「時光之旅プログラム」の参加(単位:人)

	参加あり	参加なし	合計
調査B ²	1	36	37
調査C	22	0	22
合計	23	36	59

5.3.2「高齢者が主催する高齢者プログラム」への参加別の比較

(1)「生涯学習」という言葉がわかるか

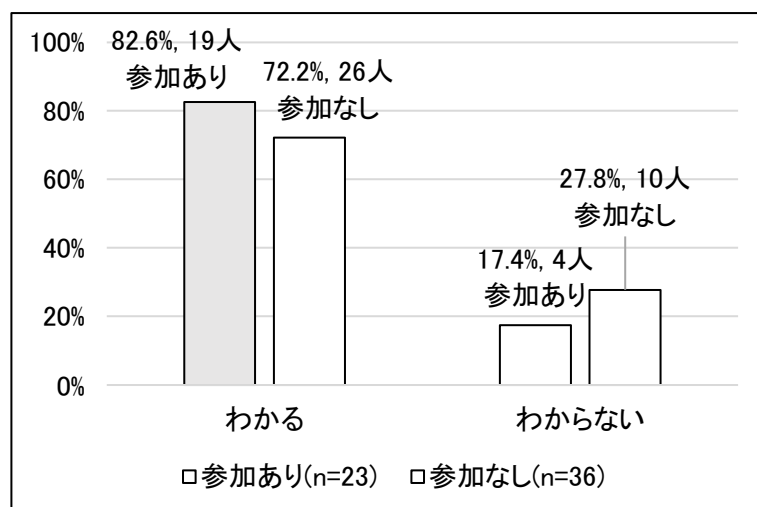


図 5-18 「高齢者が主催する高齢者プログラム」への参加別の「生涯学習」という言葉がわかるか

図 5-18 は、「高齢者が主催する高齢者プログラム」への参加別の「生涯学習」という言葉がわかるかという質問項目の調査結果を示している。「高齢者によるプログラム参加経験あり」グループの 19 人(82.6%)の回答者が生涯学習という言葉がわかる。「高齢者によるプログラム参加経験なし」グループの 26 人(72.2%)の回答者より、10.4 ポイント高い。

(2)生涯学習の実践場所

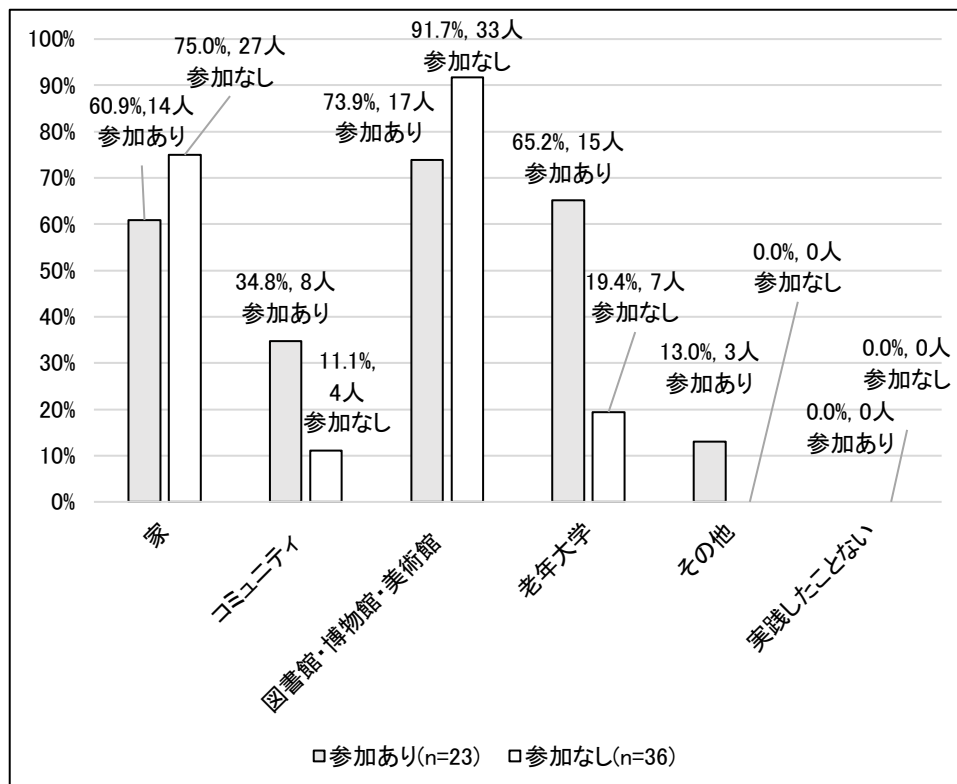


図 5-19 「高齢者が主催する高齢者プログラム」への参加別の生涯学習の実践場所の状況

図 5-19 は、「高齢者が主催する高齢者プログラム」への参加別の回答者の生涯学習の実践場所の状況である。回答者の生涯学習の実践場所は、主に「図書館・博物館・美術館」と「家」である。「高齢者によるプログラム参加経験あり」グループの回答者が「老年大学」、「コミュニティ」と「その他」の場所を生涯学習の実践場所とするそれぞれの回答者が 15 人(65.2%)、8 人(34.8%)と 3 人(13%)であり、「高齢者によるプログラム参加経験なし」グループの回答者が 7 人(19.4%)、4 人(11.1%)と 0 人(0%)である。「老年大学」、「コミュニティ」と「その他」の場所で生涯学習を実施する割合は、「高齢者によるプログラム参加経験あり」グループの回答者は「高齢者によるプログラム参加経験なし」グループの回答者と比べ、それぞれ 45.8 ポイント、23.7 ポイント、13 ポイント高い。

また、「図書館・博物館・美術館」、「家」を生涯学習の実践場所とする「高齢者によるプログラム参加経験なし」グループの回答者が 33 人(91.7%)、27 人(75%)で、「高齢者によるプログラム参加経験あり」グループの回答者が 17 人(73.9%)、14 人(60.9%)である。後者より、前者がそれぞれ 17.8 ポイント、14.1 ポイント高い。

(3)公共図書館での生涯学習の経験

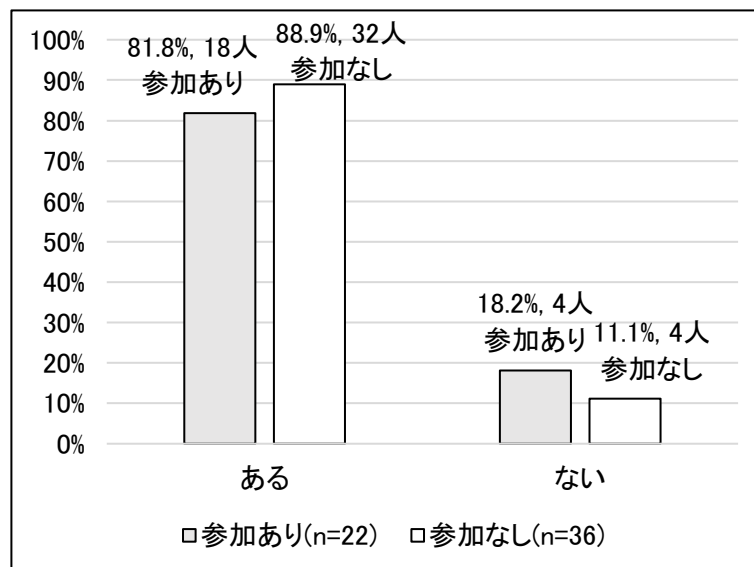


図 5-20 「高齢者が主催する高齢者プログラム」への参加別の公共図書館での生涯学習の経験

図 5-20 は、「高齢者が主催する高齢者プログラム」への参加別の公共図書館での生涯学習の経験を示している。「高齢者によるプログラム参加経験あり」グループの回答者が公共図書館での生涯学習の経験がある回答が 32 人(88.9)%で、「高齢者によるプログラム参加経験なし」グループの回答者の 18 人(81.8%)より 7 ポイント低い。

(4)協働の経験

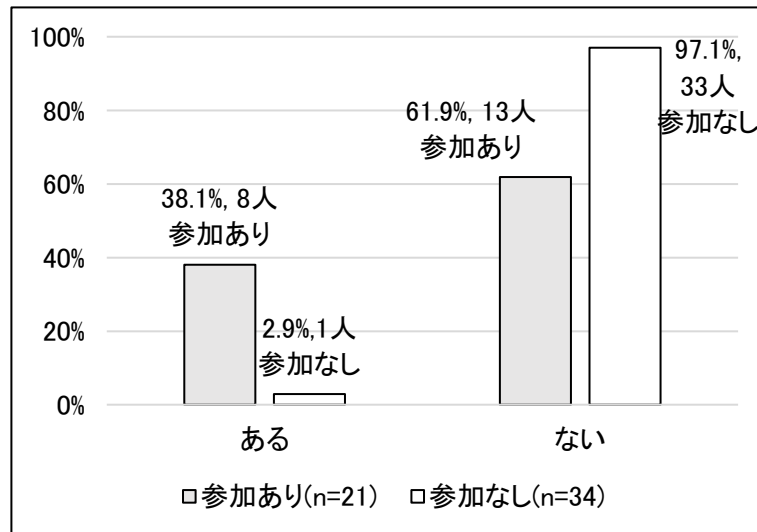


図 5-21 「高齢者が主催する高齢者プログラム」への参加別の協働の経験

図 5-21 は、「高齢者が主催する高齢者プログラム」への参加別の協働の経験を示している。「高齢者によるプログラム参加経験あり」グループの回答者が公共図書館との協働の経験がある回答が 8 人 (38.1%) で、「高齢者によるプログラム参加経験なし」グループの回答者の 1 人 (2.9%) より 35.2 ポイント高い。

(5) ボランティア活動の経験

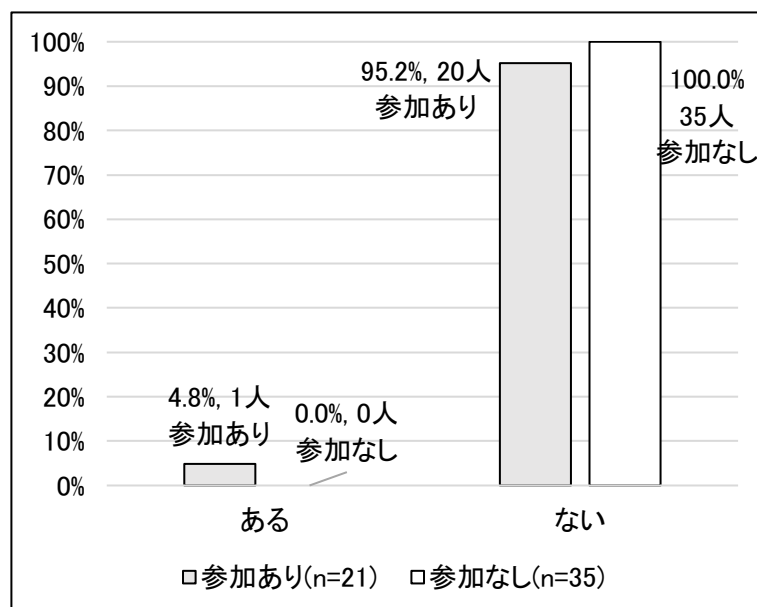


図 5-22 「高齢者が主催する高齢者プログラム」への参加別のボランティア活動の経験

図 5-22 では、「高齢者が主催する高齢者プログラム」への参加別のボランティア活動の経験を示している。そのうち、1 人(4.8%)の「高齢者によるプログラム参加経験あり」グループの回答者がボランティア活動を経験したことがある。一方、「高齢者によるプログラム参加経験なし」グループの回答者はいなかった。

5.4 調査結果のまとめ

本節では、アンケート調査の結果をまとめる。

5.4.1 公共図書館の高齢者の利用状況

本調査における公共図書館の高齢者の利用状況について、利用頻度、利用時間、公共図書館の資料、施設・設備、サービスの利用についての満足度、高齢者プログラムの利用状況と満足度に関する調査結果を述べる。

まず、利用頻度、利用時間について、1 ヶ月に 1 回以上の頻度で公共図書館に通う回答者の割合は、8割以上であった。また、毎回 2 時間以上を利用している回答者の割合も8割以上であ

る。これらの結果から、生涯学習が実践できる場の公共図書館で長時間滞在している回答者が存在することが明らかになった。

また、公共図書館の資料、施設・設備、サービスの利用への満足度について、「非常に満足」と「やや満足」と感じる回答者の割合は資料が 91.4%、施設・設備が 96.2%、サービスの利用が 91.4% である。一方、資料、施設・設備、サービスの利用について「非常に不満」と「やや不満」を感じる回答者が資料が 1.2%、施設・設備が 0.8%、サービスの利用が 0.4% である。一方、施設・設備の利用について「非常に不満」を感じる回答者が 0.4% であり、資料とサービスの利用について、「非常に不満」を感じる回答者はなかった。

高齢者プログラムの利用状況と満足度について、回答者の高齢者プログラムへの参加率は 42% であり、過去の 1 年間、半数以上の回答者が高齢者プログラムを利用したことがない。また、高齢者プログラムの利用について、「非常に満足」と「やや満足」している回答者が 90.7% であり、「非常に不満」と「やや不満」を感じる回答者がいなかった。次に、回答者が参加した人数が相当多い高齢者プログラムが「中国芝居と映画鑑賞」(45 人)・「音楽鑑賞」プログラム(34 人)・「健康の講習会」プログラム(27 人)、「中国書道・水墨画に関する展示会」(27 人)である。回答者が高齢者プログラムへの参加について、回答者は①高齢者プログラムの内容として芸術、健康に興味があること②高齢者プログラムの形式として、鑑賞や展示会が参加しやすい傾向があるといえる。

5.4.2 公共図書館における高齢利用者の生涯学習の現状

公共図書館における高齢利用者の生涯学習の現状に関する調査結果を述べる。

まず、生涯学習という言葉について、半数以上の回答者が「生涯学習」の言葉がわかると回答した。しかし自由記述から、生涯学習が何か“わかる”という認識に留まっており、生涯学習がどのように実践されているかや、生活のあらゆる場所で生涯学習を行うことが可能であること実感していない人がいるのではないかと考えられる。

生涯学習の実践場所について、回答者の生涯学習の実践場所が主に「家」と「図書館・博物館・美術館」であった。また、公共図書館での生涯学習の経験について、公共図書館での生涯学習の実践形式が主に、「書籍と資料の閲覧」であり、その次の「公共図書館のプログラムに参加する」が 3 割であった。

また、公共図書館での生涯学習の実践について、93.9%が「非常に満足」と「やや満足」と回答し、「非常に不満」と「やや不満」の回答はなかった。最後に、回答者が「公共図書館で生涯学習を実践しない理由」の自由記述の結果から、①公共図書館側の利用や図書館プログラムの宣伝、②回答者が生涯学習に関する具体的な内容への理解、③回答者の学習意欲、④公共図書館の利用習慣、⑤回答者が公共図書館で生涯学習の実践が高齢者の余暇時間・図書館へのアクセス・体調の5点に関連性があると考えられる。

5.4.3 公共図書館における協働の現状

本項で、公共図書館における協働の現状について述べる。

まず、協働の経験について、図書館との協働を経験した回答者が5.1%であった。また、協働の理由として、協働が自分自身の社会参加になっているから、プログラムや、撮影に対して興味を抱いたからなどがあげられた。その他の理由として、杭州図書館と協働することが杭州市民としての義務と考えられていること、杭州図書館が無料で場所などの条件を提供していることが挙げられた。また、協働した経験がある回答者は、半数以上の高齢利用者が学習する目的として来館していた。

ボランティア活動の経験について、ボランティア活動の経験がある回答者の割合が3.1%のみであり、ボランティア活動が普及していないことがわかる。ボランティア活動の理由について、社会参加の実践やボランティア活動の内容に興味を抱いていることが理由として挙げられていた。

協働の経験やボランティア活動の経験がある人の目的として、社会参加を挙げている人が一定数見られる。社会参加や社会参加を通じた自己表現に関する欲求を満たしたいと考える層が存在していることが伺える。

5.4.4「高齢者が主催する高齢者プログラム」への参加別の生涯学習と協働の比較

本節では「高齢者によるプログラム参加経験あり」グループの回答者と「高齢者によるプログラム参加経験なし」グループの回答者の生涯学習と協働の実態や満足度について比較し、生涯学習という言葉がわかるか、生涯学習の実践場所、公共図書館での生涯学習の経験、協働の経験、ボランティア活動の経験に関する調査結果について述べる。

生涯学習という言葉がわかるかというについて、生涯学習という言葉がわかる「高齢者によるプログラム参加経験あり」グループの回答者の割合が、「高齢者によるプログラム参加経験なし」グループの回答者の割合より高い。

生涯学習の実践場所について、「高齢者によるプログラム参加経験あり」グループの回答者の生涯学習の実践場所が主に「図書館・博物館・美術館」、「家」、「老年大学」である。また、「高齢者によるプログラム参加経験なし」グループの回答者の生涯学習の実践場所が主に「図書館・博物館・美術館」と「家」である。「高齢者によるプログラム参加経験あり」グループの回答者が「高齢者によるプログラム参加経験なし」グループの回答者より、生涯学習の実践場所の種類が多いことが明らかになった。

また、公共図書館での生涯学習の経験について、「高齢者によるプログラム参加経験あり」グループの回答者の公共図書館での生涯学習を実践経験がある回答者の割合が、「高齢者によるプログラム参加経験なし」グループの回答者より僅かに低い。

協働の経験について、「高齢者によるプログラム参加経験あり」グループの回答者の協働の経験を持っている回答者の割合が「高齢者によるプログラム参加経験なし」グループの回答者の割合より高い。

ボランティア活動の経験について、「高齢者によるプログラム参加経験あり」グループの4.8%の回答者がボランティア活動を経験していた。一方、「高齢者によるプログラム参加経験なし」グループの全ての回答者はボランティア活動を経験したことがない。

「高齢者によるプログラム参加経験あり」グループの回答者は「高齢者によるプログラム参加経験なし」グループの回答者と比較した結果として、ボランティア活動に関する動機や意欲を抱いている人が1人いたものの、双方に差は見られなかった可能性がある。

本章では、生涯学習の視点から、公共図書館における高齢者サービスを検討するために、高齢利用者の図書館利用の実態と生涯学習に関する意識を目的としたアンケート調査で実施した。その結果、公共図書館の利用について、回答者が滞在に関するニーズを有していること、「高齢者によるプログラム参加経験あり」グループの回答者が「高齢者によるプログラム参加経験なし」グループの回答者より、生涯学習に関する取り組みの意識があることが明らかになった。また、生涯学習の実践について、場所への認識が限定的であり、形式に多様性があることを把握していない可能

性を示した。高齢者サービスについて、滞在を除きサービスの利用に関する要望が見られなかった。また、生涯学習に関する言葉については、“わかる”という認識に留まっているのではないかと
いうことが示唆された。

6. 高齢者の生涯学習に着目した公共図書館の役割に関する調査

本章では、生涯学習の視点から、利用者としての公共図書館との協働を検討するために、高齢者サービスの現状や協働に関する図書館側の意識を明らかにすることを目的とする。そのために、高齢者サービス・高齢者プログラムの提供状況、高齢利用者の杭州図書館の利用状況、図書館員及び高齢利用者の生涯学習に関する認識、高齢利用者との協働に関する意識、今後の方針について、半構造化インタビュー調査を用いて明らかにし、実施した結果とその考察を行う。

第1節では本調査の概要について述べる。第2節では、調査結果において調査対象者の業務内容、生涯学習、高齢者サービスの提供状況と利用状況、また公共図書館における高齢者サービスと生涯学習に関する展望を述べる。第3節では、生涯学習の視点から、高齢者サービスと利用者として高齢利用者との協働および図書館員の生涯学習に関する意識について調査結果をまとめる。

6.1 調査の概要

杭州図書館における高齢者サービス・高齢者プログラムの提供状況、高齢利用者の杭州図書館の利用状況、図書館員及び高齢利用者の生涯学習に関する認識、高齢利用者との協働と今後の方針を明らかにするため、半構造化インタビューを行った。調査対象は、総館の図書館員(3名)と生活主題分館の主任(1名)と図書館員(3名)である。総館・生活主題分館で高齢者サービスに携わる図書館員である。さらに、今後の総館・生活主題分館の生涯学習・高齢者サービス・高齢者プログラムの提供・高齢利用者との協働の展望と方針を明らかにするために、生活主題分館の責任者(主任)にも、調査を実施した。調査の概要は、表 6-1 のとおりである。

調査の概要は、表 6-1 の示す通りとおりである。

表6-1 インタビュー調査の概要

項目	内容
調査時期	2017年8月31日～2017年9月9日
調査対象者	・図書館員:総館の図書館員(3人) 生活主題分館の図書館員(3人) ・生活主題分館の責任者(主任・1人)
調査目的	生涯学習の視点から、今後の利用者として公共図書館との協働を検討するため、インタビュー調査で杭州図書館側から、高齢者サービスの提供や協働に関する意識を明らかにする。そのため、高齢者サービス・高齢者プログラムの提供状況、高齢利用者の杭州図書館の利用状況、図書館員の生涯学習に関する認識、高齢利用者との協働に関する意識や今後の方針を明らかにする。
調査場所	総館と生活主題分館のカウンター、図書館員のオフィス
調査方法	半構造化インタビュー調査 また、半構造化インタビュー調査終了後、随時、メールによる追加調査
調査項目	・杭州図書館の図書館員への調査項目の概要は以下に示す4グループ12項目 (1)生涯学習について(4項目) (2)高齢者にサービスを提供する状況(3項目) (3)高齢者の杭州図書館の利用状況について(3項目) (4)今後の課題(2項目) ・生活主題分館の責任者への調査項目の概要は以下に示す4グループ9項目 (1)生涯学習について(2項目) (2)高齢者サービスについて(2項目) (3)利用者としての高齢者との協働について(2項目) (4)杭州図書館の毎月行っているプログラムについて(3項目)

調査項目は、①杭州図書館の図書館員へのインタビュー調査質問項目が調査対象者の生涯学習、高齢者サービスの提供および利用状況、今後の課題についてである。②生活主題分館の責任者への質問項目が調査対象者の生涯学習、高齢者サービス、利用者としての高齢者との協働および杭州図書館の毎月行っているプログラムについてである。

表 6-2 インタビュー調査対象者の内訳

No	所属	図書館の 在職年数	性別	場所	インタビュー日時	所用時 間(分)
A	総館 (図書館員)	39	女性	総館 2 階 カウンター	2017 年 8 月 3 日 (木)	58
B	総館 (図書館員)	16	女性	総館 図書館員室	2017 年 9 月 6 日(水)	55
C	総館 (図書館員)	10	女性			35
D	生活主題分館 (図書館員)	8	女性	生活主題分館 1 階カウンター	2017 年 9 月 7 日(木)	48
E	生活主題分館 (図書館員)	7	女性	生活主題分館 図書館員室	2017 年 9 月 7 日(木)	46
F	生活主題分館 (図書館員)	14	女性			44
G	生活主題分館 (主任・責任者)	12	女性			72

表 6-2 は、インタビュー調査の調査対象者をまとめた表である。調査対象者は全て女性であり、図書館の在職年数が 7 年以上であり、ある程度、公共図書館における仕事の経験を有している。

6.2 調査結果

本節では、高齢者サービスの提供状況、高齢利用者の杭州図書館の利用状況、図書館員及び高齢利用者の生涯学習に関する認識、高齢利用者との協働と今後の方針に関する杭州図書館のインタビュー調査の結果を述べる。まず、6 人の図書館員のインタビュー結果を述べてから、主任のインタビュー調査結果をまとめる。また、杭州図書館における生涯学習の現状や高齢利用者のサービスから、今後の高齢者サービスや生涯学習の機会の提供に関する考察を行う。

6.2.1 調査対象者の業務内容

調査対象者の業務内容は以下の表 6-3 の通りである。

表 6-3 調査対象者の業務内容

	所属	主たる業務内容
A	総館	文献貸出センターカウンターで、レファレンスサービスを提供
B	総館	文献貸出センターカウンターの業務と芸術、教育に関する書架整理
C	総館	文献貸出センター文献貸出センターでのカウンター業務
D	生活主題分館	センターカウンター業務と書籍整理
E	生活主題分館	図書館プログラムを計画、総館との連絡係
F	生活主題分館	図書館プログラムの企画・実施およびプログラムに関する資料の管理
G	生活主題分館	杭州図書館の主任の 1 人。主に生活主題分館の運営を担当

3 人の図書館員 (A,B,C) が総館に、3 人の図書館員 (D,E,F) が生活主題分館で勤務しており、1 人の主任 (G) が生活主題分館で勤務している。また、業務内容について、主にカウンターでレファレンスサービスを提供している図書館員が 4 人で、主にプログラムの企画を担当している図書館員が 2 人である。また、生活主題分館の責任者は、杭州図書館の主任の 1 人として、生活主題分館の運営にかかわっている。

6.2.2 生涯学習

(1) 生涯学習の意識について

生涯学習について、学業が終わっても、仕事をしても生涯学習も続けるべきだと思っているというコメントがあった (D, 生活主題分館)。また、生涯学習が年齢を問わず、学習し続けることを意識している。それ以外に、高齢者が自分の孫への教育や自分の体調管理も生涯学習の一部になっているという回答もあった (A, 総館)。

生涯学習を実践する目的として、2 人が自分自身の知識を更新し続けることで、視野を広げることであると考えていた。なお、自分の趣味や夢を叶えることと繋がっているとする回答もあった。(発言の例1 参照)

発言の例1

- ・自分にも、生涯学習は仕事にも必要だと思う。自分の趣味を楽しんで、自分の夢を叶える。退職した高齢者の場合、孫への教育や自分の健康への配慮も生涯学習だと考えられる。(A, 総館)
- ・学校教育が終わっても、社会人として仕事中や他の側面で自分自身の知識を更新し続けることが可能である。(D, 生活主題分館)
- ・若者、中年の人か高齢者が学校か就職先において学習すること、時間や空間にかかわらず、ずっと続けること。(F, 生活主題分館)

(2)生涯学習に関する考えについて

公共図書館は「教育施設」であるとする調査対象者がいた(B, 総館)。なお、限られた利用者層ではなく、各人生段階に対するサービスを提供し、利用者たちの人生の豊かさを満たすことへ貢献したいため、生涯学習を実践できる機会を提供しているという考えもあった(F, 生活主題分館)。

一方、杭州図書館における生涯学習に関するサービスの形式について、主に「資料の提供」と「図書館プログラムの提供」と回答した。また、「あまり考えていなかった」と回答した者もあった(C, 総館)。(発言の例 2 参照)

発言の例 2

- ・利用者にとって、公共図書館は学校以外の教育施設である。生徒たちは学習することができ、高齢者にとっても拠り所である。図書館が提供できる生涯学習の形式は、資料を提供し、書籍勧めるイベントなど利用者プログラムの提供である。例えば、総館の各閲覧室では、月ごとに書籍を勧めるイベントがある。(B, 総館)
- ・高齢者にも、専業主婦などにも各人生段階に対するプログラムを提供している。利用者たちの人生の豊かさを満たすことを手伝う。(F, 生活主題分館)
- ・あまり考えていなかった。(C, 総館)

(3)図書館が生涯学習に関するサービスを行う目的

公共図書館が教育機関であるので、生涯学習に関するサービスを行う必要があると答えた調査対象者が3人あった。その中の1人は、図書館が昔の「サービスを提供する形」から、「利用者と緊密な交流ができる形」に転換していることを強調した。また、公共図書館が教育機関として、利用者に生涯学習ができる機会と場を提供するべきと回答した(A,総館)。なお、生涯学習を提唱することが公共図書館の責任と回答した2人以外に、生涯学習に関する政府からの目標を達成するために行なっているという者もあった。一方、もう1人は「よくわからない」と回答した(C,総館)。(発言の例 3 参照)

発言の例 3

- ・公衆の学習、生涯学習を唱道することが図書館の責任だ。昔、「図書館が二番目の学校」という言い方があり、現在の杭州図書館の館長褚は「公共図書館が第三文化空間」という理念を提唱し、昔のように「先生」の立場から利用者に知識を与えるだけではなく、利用者が自発的に学習を実践できる機会を探し、利用者と緊密な交流ができる方式に転換している。そこで、図書館も利用者との新しい在り方を模索している。(A,総館)
- ・よくわからない。(C,総館)
- ・政府が課した生涯学習に関する貸出の目標数を達成するために、図書館に利用者を集める。
また、知識を市民に普及させる。(G,生活主題分館)
- ・貸出の目標数を達成するために、図書館に利用者を集める。また、知識を市民に普及させる。(D,生活主題分館)

(4)高齢利用者の生涯学習に関する活動への参加状況

高齢利用者の生涯学習に関する活動への参加状況について、「資料」と「図書館プログラム」の利用に集中しているとのことであった。また、自動貸出機の使い方などを高齢利用者に教えることも高齢利用者の生涯学習であると考えている者もいた(B,総館)。

また、「図書館プログラム」について、生活主題分館の3名の図書館員が高齢者プログラムとして「時光之旅プログラム」と「私の退職生活プログラム」¹が開催されていることに言及し、調査対象者の1人は「時光之旅プログラム」は人気があると述べた(D,生活主題分館)。(発言の例 4 参照)

発言の例 4

- ・新聞の利用が多く、DVD を借りる高齢者も多い。プログラムだと、時光之旅と私の退職生活の2つのプログラムが人気。(D,生活主題分館)
- ・生活主題分館が杭州市の中心にあり、周りに高齢者が多く住んでいる。館内にも高齢利用者が多くいるため、高齢者プログラムを提供している。時光之旅と私の退職生活が 60 歳以上の高齢者を対象としたプログラムだ。(E,生活主題分館)
- ・栽培、編み物、生活などに関する資料の利用が多い。高齢者が新しい物事を受け入れるスピードが遅いこともあり、図書館の利用に慣れないところがある。例えば、自動貸出機の使い方が挙げられ、このようなこと手伝って、提供できるサービスを全て提供する。また、薬箱を用意している。高齢者優先席もある。(B,総館)

6.2.3 高齢者サービスの提供状況

(1)資料の提供状況

総館では、高齢者の好きな書籍を完備していると回答した。生活主題分館では、健康や料理といった「生活面」に関する分野の資料を重視している。提供している資料の媒体の種類が主に、書籍、新聞、雑誌、DVD とのことであった。(発言の例 5 参照)

発言の例 5

- ・高齢利用者は小説が好きで、ラブストーリー、武侠などが人気だ。あとは、医学、健康、美術などを提供している。(C,総館)
- ・書籍の購入が規則によって、決められているが、生活主題分館はより生活に関する資料を重視している。例えば、健康、料理などの分野。また、新聞、雑誌、DVD などの高齢者が好きな資料を提供している(D,生活主題分館)
- ・好きな書籍のうちの 9 割がある。(A,総館)

(2)施設・設備の提供

総館では、高齢利用者に老眼鏡、薬箱、車椅子、拡大鏡、お湯を提供していると回答した。生活主題分館では、高齢者専用席、老眼鏡、薬箱、拡大鏡を提供している他、エレベーターがないため、スタッフ用のエレベーターへ足が良くない高齢利用者を誘導し、使用してもらっているとのことであった。また、エレベーターがないため、階段の踊り場へ椅子を設置し、高齢者が休憩できるよう気遣っているという。(発言の例 6 参照)

発言の例 6

・老眼鏡、薬箱、拡大鏡を提供している。/入り口がバリアフリーである。/エレベーターがないが、荷物を運ぶスタッフ用のエレベーターは、必要がある高齢者に利用してもらっている。また、階段の踊り場へ、高齢者が休憩することができる椅子を設置している。(F,生活主題分館)

・館内にエレベーターがないので、階段の踊り場に椅子を設置し、高齢者がそこで少し休憩できる。/老眼鏡を提供しており、身分証明書の提示で、借りることができる。あとは、薬箱、拡大鏡を提供している。(E,生活主題分館)

(3)高齢者サービスの提供状況

高齢者サービスの提供状況について、4人の図書館員が、高齢者を特別な対象として提供するサービスがないと言い、その都度、高齢利用者のニーズに合わせてサービスを提供すると回答した。また、高齢利用者が資料の貸出・返却する際の補助や資料の探索、図書館プログラムの開催や開催の案内を行うことを高齢者サービスとして回答した(D,生活主題分館)。一方、1人の調査対象者は、高齢者サービスの提供が、図書館員の個人差によって違いがあると回答している(E,生活主題分館)。(発言の例 7 参照)

発言の例 7

・高齢者の書類の作成・資料の貸出と返却を手伝う/特に何かを提供しないといけないというわけではないけれど、高齢利用者が何かして欲しいなら、できるだけサービス提供する。(B,総館)

・資料を探すことを手伝う/制度面からは要求されていないけれど、高齢利用者のニーズによってサービスを提供している。(D,生活主題分館)

・自発的に資料の返却を手伝う/高齢者が図書館プログラムに参加する前に案内するなど。(A,総館)

6.2.4 高齢利用者の高齢者サービスの利用状況

(1)資料の利用状況

書籍、特に小説、それ以外は新聞、雑誌、DVD の利用に集中している。資料の分野は主に、料理、健康、芸術、旅行、撮影、政治、スマートフォンなどの使い方に関する内容である。新聞と雑誌は館内で利用することが多く、書籍を貸出することが多いと回答した。

一方、性別によって好まれる資料の分野が異なると回答した調査対象者が 2 人いた。1 人は小説のジャンルでは、男性の場合、アクション、間諜、戦争関係が好まれ、女性の場合、ラブストーリーが好まれると回答した(A,総館)。他の資料の場合、男性では政治、ニュース、健康に関する新聞と雑誌が好まれ、女性では、日常生活、旅行、料理に関する資料が好まれると回答した(F,生活主題分館)。(発言の例 8 参照)

発言の例 8

- ・医学・健康・撮影・料理・書道と絵に関する雑誌、あとは小説だ。(B,総館)
 - ・政治・ニュース・健康に関する雑誌と新聞を利用している男性高齢者が多い。女性だと、日常生活、料理、旅行などに関する資料が好き。小説も人気だ。(F,生活主題分館)
 - ・雑誌と新聞を利用している高齢者が多い。/貸出だと、小説の方が多い気がする。
- 図書館のパソコンで、ドラマもみる。(E,生活主題分館)

(2)施設・設備の利用状況

杭州図書館の設備の利用状況について、総館の場合、高齢利用者がお湯を利用している回答と総館の設備がいいから、わざわざ休憩するためくる高齢利用者もいる回答が 1 人ずつあった(A,総館)。生活主題分館の場合、新聞閲覧室、パソコンを利用していると回答した調査利用者が 2 人ずつであった。また、総館の 1 人の図書館員がよくわからないと回答した。(発言の例 9 参照)

発言の例 9

- ・高齢者が自分のコップを持ってきて、図書館が提供しているお湯を飲むことが多い。(A,総館)
- ・館内の設備がいいから、一時的な休憩のために来る高齢者もいる。(B,総館)
- ・新聞閲覧室が人気で、人数が結構いる。(F,生活主題分館)
- ・2 階の新聞閲覧室を使う人が多く、館内のパソコンで資料を検索とテレビをみる高齢者が多い。(D,生活主題分館)

(3)高齢者サービスの利用状況

1 人の調査対象者は、高齢者に文献探索法の援助を提供していると回答した(A,総館)。また、高齢利用者がかなり新聞閲覧室を利用していることと、高齢者サービスを提供するとき、できるだけニーズを把握して応えたと回答した(B,総館)。1 人の調査対象者は、高齢利用者は資料に対するこだわりがあり、例えば新聞の部数を多くしてほしいという希望があることを挙げていた(F,生活主題分館)。また、館内の設備の使い方について教えるサービスが行われていると回答した。なお、館内の業務に限らず、高齢利用者の生活面のニーズにもできれば答えると回答した者が 1 人いた。(発言の例 10 参照)

発言の例 10

- ・資料を探してあげることが多い。視力が悪く、行動も不便で、陳列している資料を探すのが難しい。(A,総館)
- ・高齢者にパソコンとスマホの使い方を教える。/高齢者へのサービスは図書館業務に限られず、生活面のことを手伝うこともある。例えば、スマホの設定などの使い方を教えることもある。/高齢者たちが設備の提供にもニーズがある。例えば、エレベーターがないことが気になる。(E,生活主題分館)
- ・高齢者が貸出などの手続きをする際に、自動貸出機より、図書館員にしてもらいたい場合手伝える。/新聞にこだわりがあり、新聞の種類か部数が欲しいと、図書館員まで、申請した高齢者がいた。(D,生活主題分館)

6.2.5 今後の展望

(1)今後の高齢者サービスへの展望

今後の高齢者サービスへの展望について、調査対象者の回答は多様であった。まず、1 人は高齢者サービスをわざわざ提供しなくてもいい(A,総館)と回答し、もう 1 人は高齢利用者のニーズに合わせ、高齢者サービスを提供している専門職が特別なサービスを提供する必要がある(B,総館)と回答した。

また、公共図書館の資料、設備、図書館プログラムについて高齢者が好きな資料をさらに提供すること、設備について高齢利用者のニーズを把握するための意見箱を置くこと、高齢者専用席・大活字図書を提供すること、高齢利用者が学習できるを実践できる高齢者プログラムの提供に力を尽くすことがあげられた。

資料、設備、図書館プログラムを高齢利用者に提供する際に、高齢利用者の近くにサービスを提供できればいいと考えた人が2人で、具体的には、コミュニティと連携し、高齢者の近くにサービスを提供することと、杭州図書館が開催する「悦借」サービス(郵送貸出サービス)のようなサービスをもっと提供する方がいいと回答した(D,生活主題分館)。また、時代の変化により、公共図書館のサービスシステムも更新しないといけないという見解もあった(B,総館)。(発言の例 11 参照)

発言の例 11

- ・高齢利用者が社会的弱者の特徴を持つことによって、対応できるサービスを提供するため、専門職の人を頼んで、ずっと付き合ってもらって、いつでも必要なサービスを提供できるように務める。/意見箱を設置することで、高齢利用者の意見を聞くことが大事だと思う。(B,総館)
- ・ただ、杭州図書館のプログラムの計画を行っている図書館員の考えだと、もちろん、できれば力を尽くして、高齢利用者にできることや高齢者がやってほしいことをしてあげたい。高齢利用者にもっともっと学習ができるプログラムを提供したい。いまの所、高齢者向けのプログラムが時光之旅や退職生活のようなプログラムに限られ、高齢者に提供できる機会が少ないと言える。高齢化が進行している状況もわかるし、もっと高齢者の生活に豊かさに貢献したい。(F,生活主題分館)
- ・高齢者専用席を設置し、高齢者プログラムを増加させ、また、資料の面だと高齢者が興味ある書籍コーナーを作って、大活字図書などを提供する。(C,総館)

(2)今後の生涯学習に関するサービスへの展望

今後生涯学習に関するサービスへの展望について、3人の調査対象者が、公共図書館が生涯学習が実践できる環境・雰囲気・場所を提供するべきであると回答した。また、資料と図書館プログラムの提供に関する展望について、異なる年齢層の利用者を同じ図書館プログラムに参加できるよう、杭州図書館の生涯学習に関するサービスに力を入れることと「時光之旅プログラム」のような高齢者が学習できるプログラムを企画したいと回答した(F,生活主題分館)。また、コミュニティや企業と連携して、図書館プログラムの開催を通じて交流を創造することを挙げた。なお、調査対象者のうち2人が、利用者の生涯学習に関するニーズを把握するため、利用者の生涯学習に関するニーズの調査を行う必要があると述べた。また、自分が生涯学習を実践できる模範としての姿を利用者に示すことを通じて、利用者を誘導することと回答した人もいる。その際、新しい科学技術を使

い、公共図書館で生涯学習を実践することも可能性としてあり得ると回答した(E,生活主題分館)。
(発言の例 12 参照)

発言の例 12

- ・生涯学習ができる雰囲気を作っているはずだと思う(C,総館)
- ・私なら、仕事の内容が限られているから、できることが少ない。/高齢者が更新し続けるニーズを把握し、資料を提供したいと思う。(D,生活主題分館)
- ・新しい技術を合わせて、実践する。/図書館のプログラムを宣伝する。/高齢者なら、高齢者向けのプログラムだけではなく、他の種類のプログラムも参加してもらおう。例えば、異なる年齢層の人が参加できるプログラム、生活で偶々得た知恵プログラム(近年のスマホの普及を反映し、高齢者にスマホのアプリの使い方を紹介するためのプログラムである。)のように、若者の図書館利用者がボランティアとして、プログラムの担当講師の補佐をして高齢者にスマートフォンの使い方を教える。(E,生活主題分館)

6.2.6 生活主題分館の責任者の考えについて

(1)生涯学習について

生活主題分館の責任者である主任(以下、主任とする)は、生涯学習を「歳をとりながら、学習することも止まらないことであろう」と認識した。また、公共図書館に対して生涯学習という意識が始まったのは数年前に、政府が生涯学習という理念が提唱されたためであると述べた。生涯学習の対象として、0歳から死ぬまでの間のすべての年齢の人であり、全ての年齢の人へサービスを提供し、対象(個人・団体)ごとに異なる生涯学習のサービスを提供すると回答した。また、政府から、生涯学習の一環として公共図書館プログラムを実施することを推奨しており、主任はこの推奨を踏まえ、公共図書館における高齢者プログラムを週1回以上実施するという年間目標を設定していた。更に、この目標を達成するため、公共図書館はが利用者の生涯学習の実践を支援しなければならないと回答した。

また、生涯学習に関するサービスに関する生活主題分館の方針について、まず、既存の生涯学習に関するサービスについて、生涯学習の理念が公共図書館のどこでもあると考えており、公共図書館は利用者にとって生涯学習を実現する施設であると回答した。また、生活主題分館の通常の業務の一部として、利用者の生涯学習を実践することを推進しており、今後の館内の生涯学習に関するサービスの展望について、「生活主題分館が生活スキルを分かち合うことを重視し、図書館

が利用者を「生活家(生活の専門家)」に育て、利用者に「生活ができる、生活を知る、生活を愛する」理念を伝えながら、生涯学習を実現できる機会を提供する」と回答した。

このような中国の生涯学習についての考えは「近年、国家が生涯学習、公衆閲読などに関することをより重視しており、法律、制度、政策から、少しずつ公共図書館まで落とし込んでいる。」と回答した。

(2)高齢者サービスについて

主任は、生活主題分館にある高齢者サービスの提供を設備とサービスの2つ部分に分けて回答した。

まず、設備について、高齢者専用席、老眼鏡を提供しているものの、不足があると述べた。生活主題分館の建物は1980年代に作られており、エレベーターはなく、90歳以上の高齢利用者がくると、図書館員か警備員が高齢利用者を案内して、スタッフ用のエレベーターを使用してもらっていると回答した。また、高齢者に対するサービスについて、エレベーターがないため、階段の踊り場へ椅子を設置し、高齢者が階段が登るときに休息をとれるよう考慮しているとのことであった。一方、サービスについて、高齢者の撮影に関する「時光之旅プログラム」などの高齢者プログラムを提供していると述べた。

今後の生活主題分館の高齢者サービスの展望について、高齢者サービスの内容を増加させたい、高齢利用者に公共図書館サービスを提供するだけではなく、高齢者と社会の繋がりを作ることでもできると考えられると述べた。ボランティアとして高齢を募集し、さらに、プログラムの担当講師として、「高齢者の宝物」の高齢者の自分の仕事に関するスキルや生活に関する感想と認知を社会の他の人に伝えていきたいと回答した。

次に、中国の公共図書館の高齢者サービスに関する考えについて、調査対象者が「国家も公共図書館の高齢者サービスを重視している。中国の政府は高齢者を「社会的弱者」の1つの種類として分類され、政府が各公共図書館を評価する際、高齢者サービスを行っているか否かを評価項目の1つとして扱っている。そのような背景から、全国老齡工作委员会が、公共図書館などの公共文化サービスシステムの施設に対し、高齢者サービスの実施を要求している」と回答した。

(3)高齢者との協働について

利用者として的高齢者との協働について、主任は、生活主題分館で行われている「時光之旅プログラム」について回答した。「高齢利用者に向けている時光之旅に関する計画は、個人的には、

長期的に続けることが難しいと思う。」と回答した。理由として、担当講師の体調が優れず、体調が崩れた際に、プログラムが定期的に続けられない可能性があるとした。その一方で、担当講師が出席できない場合は代わりに、新しい担当講師を探すとして述べており、高齢者プログラム自体は存続させる意思を見せた。その場合、担当講師として迎え入れた人が高齢者ではない場合もあるが、図書館としては、高齢者が望ましいとした。その理由として、担当講師が高齢者の場合、プログラムの高齢利用者との交流をより促進することが可能であると回答した。

また、今後の利用者として的高齢者との協働について、主任は「大歓迎だ」と回答した。高齢利用者のみではなく、社会の全ての力を借りて、公共図書館サービスを提供したいと考えており、利用者が図書館の日常的な業務へ参加することで、図書館がより利用者の考えを把握できることを挙げていた。

(4)生活主題分館で毎月実施されているプログラムについて

生活主題分館で毎月実施されているプログラムについて、調査対象者は「生活主題分館だからこそ、全てプログラムの開催は、「生活の芸術、芸術の生活」の理念の下で行なっていると答えた。また、全てのプログラムは、利用者のニーズを応えるために、企画し、生活主題分館の理念の「生活の芸術、芸術の生活」の理念を重視しており、利用人数、プログラムの利用についての満足度によりプログラムに対する評価を行っている。一方、生活主題分館で毎年実施されているプログラムの回数も含め総館に要求されており、それは杭州図書館総館に実施されるプログラムの回数について、年 200 回の参加者が 20 人以上のプログラムを行う目標が掲げられている。主任はプログラムの現状として、「生活主題分館は毎年約 300 回のプログラムを行っている」と回答した。

また、高齢者プログラムに関して、「私個人からの要求は週 1 回以上の高齢者プログラムを行うことであり、実際に週 1 以上行われている」と答えた。これらを踏まえ、高齢者に関するプログラムへの展望について、「高齢利用者のニーズをもっと重視しないといけない。これからも、より高齢者が好むプログラムを行うつもりだ」と回答した。

6.3 調査結果のまとめ

本節では、インタビュー調査の結果をまとめる。

6.3.1 生涯学習

本項では、生涯学習について、図書館員の生涯学習という言葉の理解、公共図書館で生涯学習に関するサービスの形式、目的、高齢利用者の生涯学習に関する活動への参加状況に関する調査結果をまとめる。

まず、生涯学習について、全ての調査対象者が生涯学習という言葉で“わかる”と回答した。その一方で生涯学習がどのような概念であり、日常的にどのように実践されるかについては言及しなかった。

また、公共図書館で生涯学習に関するサービスを行う目的について、調査対象者である図書館員の半数が、公共図書館が教育施設であることを認識しており、全ての利用者に生涯学習を実践できる機会を提供する必要があることを意識していた。加えて教育施設の公共図書館の責任として、生涯学習を実践できる機会をすべての利用者に提供する必要があると考えている図書館員がいた。この図書館員は、公共図書館で生涯学習に関するサービスの形式について、主に「資料の提供」と「図書館プログラムの提供」に注目していた。

その他、生涯学習を推進させるために、図書館と利用者との関係が昔の「サービスを提供する形」から、「利用者と緊密な交流ができる形」に転換している傾向が見られた。

高齢利用者の生涯学習に関する活動への参加状況について、調査対象者の図書館員は高齢利用者の生涯学習に関する活動として、「資料の利用」と「図書館プログラムの利用」とであると認識している。また、全ての生活主題分館の調査対象者の図書館員が、高齢者プログラムにおける「時光之旅プログラム」を、高齢利用者が生涯学習を実践できる図書館プログラムであると認識していた。しかし、高齢者プログラムを提供する際、利用者の生涯学習を実践することを目的として、図書館員がプログラムを企画した意図は見られなかった。

6.3.2 高齢者サービスの提供状況

高齢者サービスの提供状況について、資料、設備、高齢者サービスの提供状況に注目していた。まず、高齢利用者に資料の提供について、利用者の「高齢者」という身分があるため、提供している資料の分野が限られていることが見られた。また、設備の提供について、「高齢者」の身体的側面に関する設備を中心として提供していることが明らかになった。

高齢者サービスの提供状況について、高齢利用者に対して高齢者サービスを提供しているという意識が弱く、高齢者サービスの定義を把握していない傾向が見られた。中国では図書館員が準備できる、高齢者サービスに関する制度やガイドラインが管見の限り存在していない。高齢者サービスに関する意識が弱く、高齢者サービスという特定のサービスを提供すると認識されていない要因の1つであると考えられる。一方で、高齢利用者がその場でどのようなことをしてほしいかを述べた際に、できる限りの対応やサービスを提供しているという意見もあり、高齢者サービスという定義に縛られない、利用者のニーズに応じた柔軟性が高いサービスを提供しているという特徴ともいえる。

6.3.3 高齢利用者の杭州図書館の利用状況

高齢利用者の杭州図書館の利用状況について、資料の利用状況、施設・設備の利用状況、高齢者サービスの提供状況を述べる。

資料の利用状況について、一部の調査対象者の図書館員は、高齢利用者の資料の利用に関する好みと性別に関係があることを気づき、高齢利用者がよく利用している分野の資料を把握していた。施設・設備の利用状況について、一部の調査対象者の図書館員は、「高齢者」が身体的側面に関する設備を利用していることと、「新聞閲覧室を利用している高齢利用者が多いこと」を把握している。高齢者サービスの提供状況について、高齢者サービスをサービスの一種として認識していないことがわかる。また、高齢利用者が図書館サービス以外のことを、図書館員に頼むことがあり、図書館員が可能な範囲で対応しているとのことであった。

6.3.4 今後の展望

今後の高齢者サービスへの展望について、①高齢者サービスに関する制度の有無に関わらず高齢者サービスを行う必要があること、②高齢者の設備に関するニーズを把握するために、調査を行う必要があること、③図書館員に、高齢利用者にサービスを提供したいという熱意があること、④アウトリーチや郵送・宅配サービス、地域と連携したサービスをといった高齢者の事情に即したサービスを提供する必要があることの4つを提案した。

また、今後の生涯学習に関するサービスへの展望について、①生涯学習に関するサービスを提供する必要があること、②公共図書館は、生涯学習が実践できる環境・雰囲気・場所を提供する必

要があること、③利用者の生涯学習に関するニーズを把握するため、利用者の生涯学習に関するニーズの調査を行う必要性があることの3つを提案した。また、高齢利用者に生涯学習を实践できる機会を提供したいという意識を、一部の図書館員が有している傾向が見られた。

6.3.5 生活主題分館の責任者の考え

(1)生涯学習について

主任が杭州図書館における生涯学習について、①公共図書館が利用者の生涯学習を实践するため、機会と場を提供する必要があること②政府が長期的に生涯学習の理念を提唱し、公共図書館も政府の指示を受け、利用者の生涯学習の实践に務める必要があること③今後生涯学習の機会の提供について、生活主題分館の特徴に合わせて提供することの3つの考えを抱いていることがわかった。

(2)高齢者サービスについて

高齢者サービスについて、①施設・設備の提供で、高齢者の体調面から考慮していること、②高齢者サービスとして、「時光之旅プログラム」が挙げていること、③「時光之旅プログラム」のような図書館プログラムが高齢者にとって、社会の繋がりを作ることができること、④「時光之旅プログラム」の担当講師は、高齢者の自分の仕事に関するスキルや生活の感想と認知を他の人に伝えることができることの4つについて言及した。

(3)高齢者との協働について

高齢者との協働について、①高齢利用者が担当講師として、公共図書館で図書館プログラムを主催することを推奨することで、今後、利用者が公共図書館の業務に参加する機会が増える傾向が見られること。②利用者が図書館の日常の業務に参加することで、利用者のニーズをもっと把握できることの2つを利点として挙げた。

(4)生活主題分館で毎月実施されているプログラムについて

主任は図書館プログラムについて、①毎月実施されているプログラムは、主に生活主題分館の「生活の芸術、芸術の生活」の理念の下で行なっている。また、②生活主題分館の図書館プログラムの開催は杭州図書館総館によって管理されているものの、主任個人として「週に一回以上の高齢者プログラムを行う」ことが必要であることを提唱している。③高齢利用者のニーズを把握する必要がある。以上の3つの見解を述べた。

本章では、生涯学習の視点から、利用者としての公共図書館との協働を検討することを目的として、高齢者サービスと協働の現状について図書館側の意識を明らかにすることを目的とした半構造化インタビュー調査を実施した。結果として、高齢者サービスを提供する際に準拠できるガイドラインや規範がないこと、図書館員が「高齢者サービス」に関する意識が弱いことが明らかになった。

また、利用者の生涯学習を实践させるという観点からサービスを提供している姿勢が見られなかった。利用者と図書館の新しいあり方として、高齢利用者が図書館プログラム実施に参加することを推奨する意識が見られた。

¹党必武. 中国政府報告書: 中国における都市と農村の高齢者の生活状況に関する報告書(2018). 総報告. 2018, p.21.

²表 5-2 を参照

¹私の退職生活プログラム: 2017 年前に、生活で偶々得た知恵プログラム(近年のスマホの普及を反映し、高齢者にスマホのアプリの使い方を紹介するためのプログラムである。)に含まれていたが 2017 年から、独立している高齢者プログラムとして行われている。プログラムの内容は、高齢利用者にスマホアプリの使い方を教えることである。このプログラムの担当講師が生活主題分館のボランティアであり、また、担当講師以外の数名ボランティアが高齢利用者のそばに付き合い、担当講師が教えてくれた内容を当時に高齢者に教える。杭州図書館. 杭州図書館敬老サービス概況(2013 年までに、高齢者に関するプログラムのまとめの書類). 内部資料. (参照 2016-11-6)

7.利用者としての高齢利用者と公共図書館の協働の事例

本章では、利用者としての公共図書館との協働に関する検討を行うため、協働の主催者である高齢利用者の意識を明らかにすることを目的とする。そのため、杭州図書館における高齢者を対象として企画された図書館プログラムのうち、高齢利用者が担当講師である協働に関するプログラムとして「時光之旅プログラム」の事例に着目する。また、プログラムの現状・杭州図書館および高齢者における当該プログラムに関する意識を明らかにするため、半構造化インタビューを実施する。第1節では調査の概要を記載し、第2節では高齢者を対象として企画された「時光之旅」プログラムについて説明する。第3節では調査結果を分析し、第4節で調査結果をまとめる。

7.1 調査の概要

第4章では、2016年杭州図書館における高齢者プログラムについて、回数・種類・着目点などの観点から文献調査を行った。調査結果より、「高齢者を対象として企画された図書館プログラム」として、「時光之旅」「医師のお話を聞こう」「生活で偶々得た知恵」の3つのプログラムが実施されていた。

そのうちの1つ、「時光之旅プログラム」は、プログラムの担当講師が、高齢利用者としての杭州図書館との協働によって実施されているプログラムである。本章では、(1)「時光之旅プログラム」の担当講師と杭州図書館による協働の動機と目的、(2)「時光之旅プログラム」の実施状況、(3)杭州図書館および高齢者における当該プログラムの意義を明らかにすることを目的として、「時光之旅プログラム」の担当講師を調査対象とする半構造化インタビューの結果について述べる。

表 7-1 は、インタビュー調査の概要である。

表7-1 インタビュー調査の概要

項目	内容
調査時期	2018年8月28日
調査対象者	杭州図書館における高齢者を対象として企画された図書館プログラムの「時光之旅」プログラムの担当講師1名
調査目的	生涯学習の視点から、今後の利用者として公共図書館との協働を検討するため、公共図書館との協働に関するプログラムの担当講師の意識を明らかにすることを目的とする。また、高齢利用者が公共図書館と協働する事例として、「時光之旅プログラム」に着目し、担当講師と杭州図書館による協働の動機と目的、「時光之旅プログラム」の実施状況、杭州図書館および高齢者における当該プログラムの意義を調査する。これらを踏まえ、高齢利用者が公共図書館と協働することを通じて、得られた高齢利用者の生涯学習に関する意識・その他の協働に関するプログラムの高齢利用者に対する意義を明らかにする。
調査場所	調査者：筑波大学春日エリア研究共同研究室(7B240) 調査対象者：調査対象者の自宅
調査方法	半構造化インタビュー調査(オンラインインタビュー)
調査項目	(1)調査対象者について(7 項目) (2)「時光之旅プログラム」を始まるきっかけと経緯(4 項目) (3)「時光之旅プログラム」の運営の事項および杭州図書館との交渉(5 項目) (4)生涯学習について(8 項目) (5)協働について(2 項目)

7.2「時光之旅プログラム」について

「時光之旅プログラム」とは、2011年5月に結成された高齢者による撮影の同好会の「時光之旅」老年撮影隊の活動が基となったプログラムである。撮影に興味がある高齢利用者を対象とし、写真撮影に関する知識とスキルを教え、参加者と写真に関する情報と経験を共有する講習会を行っている。2013年現在、55歳から83歳の約40名で構成されている。2018年現在に至るまで、6回の作品

の展覧会を行った。また、30回以上の写真撮影の実践を行い、各種類の4,500枚以上の写真が集まって、参加者は2013年11月までにのべ8,000人に達している¹。



図7-1 2015年10月9日に実施された「時光之旅プログラム」の「星空の撮り方」に関する講習会の様子²

表7-2 「時光之旅プログラム」の開催状況

年	実施回数(回)	参加延べ人数(人)
2014	30	1,841
2015	47	1,969
2016	44	1,390
合計	121	5,200

出所：2013.12-2014.11 活動回数統計³、2014.12-2015.11 活動回数統計⁴、2015.12-2016.11 活動回数統計⁵を基に作成

表 7-2 は、2014 年から 2016 年まで「時光之旅プログラム」の開催状況である。生活主題分館の内部資料の「2013.12-2014.11 活動回数統計」⁶、「2014.12-2015.11 活動回数統計」⁷、「2015.12-2016.11 活動回数統計」⁸によると、2013 年 12 月から 2016 年 11 月の間に、「時光之旅」プログラムは計 121 回実施されており、参加延べ人数は 5,200 人である⁹。

「時光之旅攝影活動策書」¹⁰⁾によると、2011 年当時の生活主題分館「時光之旅」というイベントは、写真撮影を行い、撮影した写真の展示会を開くことである。写真撮影のイベントは、杭州図書館の変遷を記録するため「時光之旅」サークルを立ち上げ、老年大学撮影課程の生徒が写真撮影のイベントの教師として、撮影に関する基礎知識の講習会を行うことである。写真の展示会の内容は、杭州図書館の変遷を記録するため得た撮影作品を撮り、またその作品を用いて、「杭州図書館の歴史変遷」に関する撮影作品の展示会を行うことである。このプログラムの目的は「杭州市市民の文化生活の豊かさを増加し、市民が歴史を記録できる習慣と日常生活にある細かい美しさを見つけられ、またはその美しさを記録できる習慣を育ち、また、公共図書館が社会的弱者への関心を寄せること」¹¹⁾である。月に 2 回実施され、参加対象者は撮影に関心を持っている利用者で、まだ高齢利用者向けではないであった。「高齢利用者」に向けて開始されたのは 2014 年であった

12。



図 7-2 「時光之旅プログラム」の講義の 1 例の「撮影の芸術 コンセプトに関する考え」¹³⁾

図 7-2 は、「時光之旅プログラム」の講義、「撮影の芸術 コンセプトに関する考え」のパワーポイントの一部である。調査対象者である本プログラムの担当講師が撮影に関する知識を学びながら、自分の経験に合わせて毎回の講習会の講義資料を作成している。

7.3 調査結果

本節では、杭州図書館の図書館プログラムの「時光之旅プログラム」の担当講師へのインタビュー調査結果について述べる。

7.3.1 調査対象者について

①職歴について

多様な職種を経験している。中学校を中退し、杭州機床場で機械に関する仕事を始めた。そして、文化大革命の影響で上山下郷運動¹⁴の間に、機械に関する仕事を行い、1970 年代から 1980 年代の間に、写真屋で働いた。その経験に基づき、自分の写真屋を開店し、6、7年間の営業を経て、1980 年代末に閉店した。また、1990 年代の頭に、パソコン関係の仕事をし、パソコンのシステム・ソフトウェアの開発を行った。最後に、広告会社の生産部門で機械関係の仕事を担当している。図書館で働いた経験はない。

②「時光之旅プログラム」と職歴の関係

調査対象者が写真屋で働いた経験があり、その仕事としての続き自分の写真屋を経営したことがある。そこで、撮影に興味を持ち、また、写真に関する審美感に自分のこだわりがあった。このこだわりも、「時光之旅プログラム」を行う動機の一つである。

③公共図書館の利用頻度・利用目的・利用内容

自分の趣味と学習のために、2013 年、「時光之旅プログラム」が定番のプログラムになる以前は、週 1 回の頻度で、杭州図書館の音楽分館へクラシック音楽を聴きに行っていた経験がある。調査を実施した今 2018 年 9 月現在、1 ヶ月半に 1 回ぐらいの頻度で公共図書館を定期的に利用している。

④公共図書館のイメージについて

公共図書館が「社会大衆に向ける公共施設だから、ちゃんとしなないといけない。」と回答した。また、調査対象者にとって、公共図書館は、(1)学習ができる場所で、読書ができる。(2)公共図書館

を通じて、社会とのつながりが増える。(3)自分が主催する「時光之旅プログラム」の講習会の内容が理解しやすいと、みんなに認められることで、達成感を感じる場所である。(4)撮影あるいは他の領域のことについて、「時光之旅プログラム」の参加者から意見をもらえるため、良い参考になる場所である、とのことであった。

⑤生活主題分館以外の活動について

インタビュー調査を実施した時点で、調査対象者が生活主題分館以外の施設で、以下の2つの活動を実施している。

(1)老年大学の撮影授業の担当講師を担当している。2016年から、初級・中級・高級の3つの種類のクラスの撮影授業を担当している。週1回、1回あたり2時間で実施している。

(2)「武林心航公益老年学堂」という杭州市にあるコミュニティの高齢者向けの撮影講習会の担当講師を担当している。武林街道の武林心航公益老年学堂で週1回、1回2時間、撮影に関する講習会を実施している。

⑥公共図書館で「時光之旅プログラム」以外の高齢者プログラムを行う予定について

「ない、自分の気力が限られていること、また、撮影に関するプログラムが実施できる場所の適切性を考えると、これ以上自分がやれることも限られている」と回答した。

7.3.2 高齢者が主催する高齢者プログラムを始めるきっかけと経緯と理由

①高齢者が主催する高齢者プログラムを始めるきっかけと経緯

生活主題分館と協働し、「時光之旅プログラム」を始めたきっかけとして、(1)老年大学で撮影に関する授業を受けた際に、高齢者同士の間の交流ができる機会が欲しいと感じたこと、(2)老年大学の友達に偶然、杭州図書館のリーダーの知り合いがいたことである。

当初、図書館へイベントの企画を持ち込んだものの、生活主題分館は、調査対象者がイベントに関する経験がないことや、他のイベントとの差別化を図れなかったことを理由に、2011年に交渉した。同年、生活主題分館は、調査対象者がイベント関係の経験がないことに気になるものの、調査対象者の力量を図るため、調査対象者を担当講師とした「時光之旅プログラム」を開始した。この図書館プログラムの目的は、利用者に杭州少年儿童図書館、当時の杭州図書館の浣紗分館(今の生活主題分館)、仏教学分館の改修の過程を記録されることである。その後、1か月に1回、総館で「時光之旅プログラム」が開始されることとなった。内容は開始時点と同様、プログラムの

参加者と杭州図書館の改装の過程を撮影しに行くことであった。この時点ではプログラムの主な対象は、高齢利用者とされていなかった。その成果が認められ、定期的で開催され始めたのは、浣紗分館(2018年現在の生活主題分館)の改修が終わった2013年7月より後である。

②文化サービスシステムの施設から公共図書館を選んだ理由

調査対象者は公共図書館がどこにでもあり、社会公衆に普及していて、誰でも入りやすい施設であったことが、選定理由として考慮した要素であるという。美術館も視野へ入れたことあるが、一般的に、中国において、美術館はプログラムの開催場所として適切だと考えられていない傾向にある。また、美術館は、芸術的なイメージが強く、プロの人の写真といった、きちんとした写真が飾られる場所である。「時光之旅プログラム」は、そういった写真を撮ることが目的ではないため、美術館での実施は難しいと回答した。

③公共図書館の中で生活主題分館を選んだ理由

調査対象者は、「交通アクセスが便利な位置にある。生活主題分館が杭州市の中心の老城区(都市の発展は早いエリア)にあるから、周りに高齢者も多いし、通うのが楽である」と回答した。

④生活主題分館で実施することの長所・短所

生活主題分館で実施することの長所として、「(1)杭州図書館の設備がよい。お湯を飲みたかったら、ボトルだけ持っていけば飲めるし、図書館員のサービスも適切だ。(2)立地が良い。高齢者が来やすい」と回答した。また、短所については、「あんまりないと思う」と答えた。

7.3.3 高齢者が主催する高齢者プログラムの運営の事項および杭州図書館との交渉

①「時光之旅プログラム」を実施する形式・内容について

「時光之旅プログラム」の計画について、月ごとにプログラムの計画を生活主題分館に提出する形で行なっている。詳しいプログラムの内容については、基本的に担当講師が決定する。時期や杭州図書館全館の計画の内容によって、時光之旅の内容も調整することがある。

また、「時光之旅プログラム」の実施について、毎週、「時光之旅」プログラムが実施する時に生活主題分館の図書館員が手伝いとして参加する。

②「時光之旅プログラム」の広報について

「時光之旅プログラム」の宣伝手段は、杭州図書館側がウェブサイトや SNS で宣伝することと、「時光之旅プログラム」の高齢利用者が周囲へ伝えて、新規の参加者を連れて参加することの2つがあるとのことであった。

③今後の予定

「続けられる限りはずっと続けたい」と回答した。

④「時光之旅プログラム」を行うため工夫していること

「図書館かコミュニティなどの場に対する、自分の理解が大事だと思う。自分が、杭州図書館が設定したプログラムの目的や、杭州図書館がプログラムへ要求することを理解した上で、プログラムを計画・実施すること」と回答した。

⑤報酬について

「お金の面について気にしていない」と回答した。報酬について、調査対象者は金銭的な要求を図書館側へと伝えておらず、そもそも図書館側と金銭に関する話を行っていなかった。「時光之旅プログラム」の価値はお金で判断できないと考えていたが、「時光之旅プログラム」に参加した高齢利用者の女性の高齢利用者たちが、生活主題分館に「担当講師の講習会がいいから、報酬をあげなよ」と伝えたことで、「時光之旅プログラム」が定期的に行われるようになってから2ヶ月後から調査対象者は金銭的報酬を受け取るようになったという。

7.3.4 高齢者が主催する高齢者プログラムに関する生涯学習

①生涯学習に関する認識

生涯学習に対する理解について、調査対象者は「自分が新しい知識を習得でき、またよく理解し、そして活用するという過程を繰り返す」と回答した。その理由は「学習しないと、変わっている時代に追いつけないから、ずっと学習しなければならない」ということであった。

②「時光之旅プログラム」を実施していることと、自分が生涯学習を実践することとの関係

「時光之旅プログラム」について、「自らが生涯学習を実践することの一部だと思うが、「時光之旅プログラム」自体を生涯学習のために企画したわけではない。主に審美感を教えるに関する内容だ」と回答した。

③「時光之旅プログラム」を実施するために、学んだことについて

「まず、撮影に関する理論的な知識、また、審美をよく理解してもらうため、自分が審美に関する哲学と美学も学んだ」と回答した。

④「時光之旅プログラム」を実施する間に、学んだことについて

「撮影に関する情報、感想を交換でき、自分が反省できる。また、新しいことを学んで、交流も続ける」と回答した。

⑤「時光之旅プログラム」を実施する間に、活用したことについて

「自分の撮影に関する経験を活用でき、自分の考えから、撮影に関する問題を説明する」と答えた。

⑥今は何をするために、どのような感心か目的を持って、何を学んでいる

「興味があることがとても多い。例えば、心臓の状況が良くないから、電動自転車を改造したことがある。最近、野菜の価格が高いから、家で無土壌栽培をやり始めた。小松菜などを育てている」と回答した。

⑦「時光之旅プログラム」を続ける意義

「時光之旅プログラムを続ける意義が、まず、自分に対して自分自身の価値観や能力を向上できることと、社会への影響が広がり、公共図書館としての印象もよくなり、市民に教育を受ける機会を提供できることである」と回答した。

⑧「時光之旅プログラム」から得たものについて

「とても仲が良い人は少ないが、友達を作った。高齢者の審美感を向上させることができれば、達成感を得られる」と答えた。

7.3.5 生活主題分館との協働

①「時光之旅プログラム」を行う目的について、生活主題分館と一致しているか

「時光之旅プログラム」を行う目的について、調査対象者は、「公衆の審美を向上させること、その信念を撮影を通じて伝えること」を目的としていると回答した。また、生活主題分館が抱く「時光之旅」プログラムの目的として、「公共図書館の宗旨は、無料で公衆が利用に供することができ、また、教育を提供するところであるため、審美感の向上もその一部だ」と思っていると回答した。

②他の文化サービス体系の施設と協働する予定について

「自分の気力が限られているから今のままの3つの施設だけにしたい」と回答した。

7.4 調査結果のまとめ

本節では、高齢者が主催する高齢者プログラムの担当講師に対するインタビュー調査の結果をまとめる。

7.4.1 調査対象者について

本調査で、調査対象者の職歴、公共図書館の利用、公共図書館のイメージ、生活主題分館以外の活動と図書館以外の高齢者プログラムを行う予定について述べる。

まず、調査対象者は、高齢者が主催する高齢者プログラムを主催することで、趣味と仕事の経験を活かしていた。公共図書館の利用について、調査対象者が公共図書館の利用者として、公共図書館を利用しながら、高齢者が主催する高齢者プログラムの「時光の旅プログラム」を主催している。また、調査対象者にとって、公共図書館は学習ができ、社会とのつながりができ、人との交流ができ、また、自分が主催する「時光之旅プログラム」を通じて達成感を感じる場所である。

生活主題分館以外の活動について、調査対象者は生活主題分館以外の老年大学、コミュニティにも担当講師として、活躍している。公共図書館で「時光之旅プログラム」以外の高齢者プログラムを行う予定について、調査対象者の体調が悪く、気力が限られているため、その予定はない。

7.4.2 高齢者が主催する高齢者プログラムを始まるきっかけと経緯と理由

本項では、調査対象者は高齢者が主催する高齢者プログラムを始まるきっかけと経緯、公共図書館を選んだ理由、生活主題分館を選んだ理由、生活主題分館で実施することの長所・短所について述べる。

高齢者が主催する高齢者プログラムを始まるきっかけと経緯として、調査対象者は、高齢者同士が交流できる機会に関するニーズを抱いており、高齢者が主催する高齢者プログラムの「時光之旅プログラム」を始めた。「時光之旅プログラム」を始まる前に、自分の熱意と技術について生活主題分館の信頼を獲得する為に奔走したという。

公共図書館を選んだ理由について、公共図書館は無料で社会公衆にサービスを提供する。一方、美術館で開催する場合、高度な技術で撮影した写真を展示する印象がある。その為、美術館と「時光之旅プログラム」の主催目的は合わない判断した。公共図書館の中で生活主題分館を

選んだ理由として、交通アクセスが便利である。生活主題分館で実施することの長所が設備、サービスとアクセスが良く、短所がないとのことであった。

7.4.3 高齢者が主催する高齢者プログラムの運営の事項および杭州図書館との交渉

まず、「時光之旅プログラム」を実施する形式・内容について、内容は調査対象者が決めるとのことであった。ただ、生活主題分館に月ごとに報告する必要がある、また、時期により、生活主題分館の要求により調整する必要もあり、リードされている。また、調査対象者が担当講師として講習会を行い、会場の手配や設営は生活主題分館側が協力する。生活主題分館はウェブサイトで広報を行っており、高齢者が主催する高齢者プログラムの高齢利用者が口コミで宣伝している。

なお、「時光之旅プログラム」を続ける予定について、調査対象者が続けられる限りまで実施したいと思っており、高齢者が主催する高齢者プログラムへの熱意がある。「時光之旅プログラム」を行うため工夫していることが生活主題分館の要求通り、計画し、プログラムを実施しているところである。報酬について、金銭に対するこだわりがなく、「時光之旅プログラム」の価値はプログラムの報酬額で判断できないという持論を述べた。

7.4.4 高齢者が主催する高齢者プログラムに関する生涯学習

まず、生涯学習に関する認識について、生涯学習について理解しており、学習の意欲がある。「時光之旅プログラム」を実施していることと、自分が生涯学習を实践することとの関係について、生涯学習を実施するため、「時光之旅プログラム」を主催していないものの、「時光之旅プログラム」を主催することが生涯学習になっている。

「時光之旅プログラム」を実施するために、学んだことについて、撮影に関する意識、哲学と美学である。また、「時光之旅プログラム」を実施する間に、学んだことについて、撮影に関する知識を交換し、また、反省と復習ができる。また、交流も学習になっている。「時光之旅プログラム」を実施する間に、活用したことについて、調査対象者は撮影に関する経験、自分の考えを活用できる。

調査対象者にとって、「時光之旅プログラム」を続ける意義について、調査対象者にとって、「時光之旅プログラム」を続ける意義は①自分自身の価値観と能力を向上でき、②公共図書館の印象が良くなり、社会への影響が広がり、③市民教育を受ける機会を提供できることである。

「時光之旅プログラム」から得たものについて、調査対象者は友達ができることと高齢利用者の審美感を向上させることで、達成感を得られることを回答した。

日常の学習習慣について、調査対象者は生活の側面と体調の側面に関心があり、電動自転車を改造し、小松菜などを育てることである。常に、自分のニーズを把握し、ニーズに即した学習をする姿勢を有している。

7.4.5 生活主題分館との協働

本項で、調査対象者と生活主題分館との協働について述べる。調査対象者が「時光之旅プログラム」を行う目的と生活主題分館の目的、他の文化サービスシステムの施設と協働する予定について注目していた。

まず、「時光之旅プログラム」を行う目的について、調査対象者と生活主題分館の「公衆の審美を向上させること」の目的が一致しているとのことであった。また、他の文化サービスシステムの施設と協働する予定について、調査対象者の体調が悪く、気力が限られており、予定がない。

本章では、生涯学習の視点から、利用者としての公共図書館との協働を検討するために、協働の主催者である高齢利用者の意識を明らかにすることを目的として、「高齢者が主催する高齢者プログラム」である「時光之旅プログラム」の事例に着目し、プログラムの担当講師に半構造化インタビュー調査を行った。その結果として、主催者の高齢利用者は生涯学習を目的としてプログラムを主催していないものの、プログラムの主催やその準備で、自らの経験を活かした講義やそのための学習を行っており、これらの行動で自らが認識した生涯学習を実践していることが明らかになった。そのほか、「高齢者が主催する高齢者プログラム」の主催することで社会参加の機会を得て、高齢者同士との交流が生まれていた。一方、「高齢者が主催する高齢者プログラム」の参加者である高齢利用者也講習会はプログラムを通じて興味がある内容に関する学習を実践している傾向にあり、他の参加者や担当講師と交流を行っていた。「高齢者が主催する高齢者プログラム」への参加を通じて、主催者である高齢利用者と参加者である高齢利用者の双方が異なる生涯学習を実践していることと高齢利用者同士の交流が促進されているのではないかと考えられる。

8. 中国における高齢者の生涯学習に関する公共図書館の役割

本研究では、高齢化が進行している中国社会で求められる公共図書館の役割を再考するために、生涯学習の視点から、利用者として公共図書館との協働および公共図書館における高齢者サービスを検討することを目的として、文献調査、アンケートの調査とインタビュー調査を行った。

文献調査では、中国社会の高齢化の進行と問題点、中国における公共図書館の概況、公共図書館における高齢者サービスおよび事例、生涯学習に関する概念、高齢化社会における生涯学習の影響、中国における生涯教育システムおよび生涯教育システムにおける公共図書館の事例を明らかにすることを目的として、調査を行った。しかし、管見の限り、高齢利用者の公共図書館の利用実態に関する先行研究はない。そのため、中国の杭州図書館総館と生活主題分館の高齢利用者を調査対象として、公共図書館の高齢利用者の図書館利用の現状を明らかにするため、利用状況と満足度、生涯学習の経験や形式、図書館との協働の現状について、アンケート調査を実施した。

また、高齢利用者側だけではなく、図書館側から高齢利用者の公共図書館の利用実態、高齢者サービスの提供状況、生涯学習の意識・サービス、公共図書館との協働、生涯学習に関するサービスと高齢者サービスの今後の展望を明らかにすることを目的として、杭州図書館総館と生活主題分館の図書館員、生活主題分館の主任を対象として、インタビュー調査を実施した。

高齢利用者が公共図書館との協働の現状について、アンケート調査とインタビュー調査で高齢利用者側と図書館側の状況を明らかにした。さらに、生涯学習の視点から公共図書館と協働している高齢利用者が公共図書館との協働から得られるものを明らかにするため、高齢者が主催する高齢者プログラムを始まるきっかけと経緯と理由、運営の事項および杭州図書館との交渉、高齢者が主催する高齢者プログラムに関する生涯学習、公共図書館との協働の現状を明らかにすることを目的として、高齢者が主催する高齢者プログラムの事例プログラムの講師を調査対象として、補足インタビュー調査を実施した。

これらを踏まえ、本章では、高齢化が進行している中国社会で求められる公共図書館の役割を再考する。主に、文献調査の結果や、第5章、第6章、第7章のアンケート調査やインタビュー調査の結果に基づき、生涯学習の視点から、今後の利用者として公共図書館との協働に関する考察

や、公共図書館における高齢者サービスを検討することを通じて、高齢化社会における公共図書館の役割を再考する。

8.1 高齢化が進行している中国社会で求められる生涯学習と公共図書館

高齢化が進行している中国社会では、社会資源の配置・高齢者サービスが提供できる施設を増やすことが困難であることが社会問題となっている。このような課題や高齢化により生じる課題に対し、生涯学習が1つの解決案となる可能性があると考ええる。本節では、中国社会における高齢化の現状と課題、これらに対する生涯学習や公共図書館がどのように関与するかを考察する。第1項では中国における高齢化の現状と課題、第2項では高齢化が進行している中国社会における生涯学習、第3項では生涯学習における公共図書館について述べる。

8.1.1 中国における高齢化の現状と課題

中国社会はすでに高齢化社会であり、中国社会の高齢化の特徴¹として、高齢者人口が世界で最も多く、高齢化の進行速度が比較的速いことが挙げられている。このような高齢化の進行に伴い、中国社会には経済、政治、社会、文化などに負の影響²が与えるとされている。そのうち、負の影響の「②人口規模が大きな高齢者のニーズを満たすため、社会資源の配置・高齢者サービスが提供できる施設を増やすことが困難である」は、高齢者サービスを提供する施設である中国サービスシステムの施設にも影響を及ぼしている。特に、中国サービスシステムのうち、公共文化サービスシステムの1つの施設としての公共図書館が高齢化の進行に直面した際、高齢者のニーズを満たすサービスを行い、高齢者の文化権益を保障する必要があると考えられる。

また、中国政府では、高齢化の問題を解決するために、社会資源の配置・高齢者サービスが提供できる施設に関する配慮のみではなく、高齢者の精神的な特徴を踏まえたニーズへの配慮も必要であると述べている。

「中華人民共和国老年人権益保障法」³により、高齢者の生活、健康、安全だけではなく、やるべきこと、学ぶこと、楽しむことといった高齢者の精神的なニーズを重視していることが定められ。一方で、高齢者の精神的なニーズの定義は定められていない。高齢者の精神的なニーズに関する先行研究として、陳による高齢者の精神的な特徴に関する研究が挙げられる。陳によると、①生理機能の老化・子供の離れなどがあるため、不安を感じること、②退職・引越し・子供の離れなどがあ

るため、孤独感がある可能性が高くなり、帰属感を重視すること、③高齢者の生理機能の老化などがあるため、行ける範囲と社会参加の範囲が狭くなり、より便利性を重視すること、④退職などの利用で、劣等感と消極的な考えが増えており、より生きがいと尊厳を重視することの4点が高齢利用者の精神的な特徴として挙げられている⁵。これらを踏まえ、高齢者の精神的なニーズは高齢者の退職・子供の離れ・生理機能の老化などの要因で起こった不安、孤独感、劣等感が高齢者の精神的な特徴であり、この消極的な考えを解消することが高齢者の精神的なニーズであると考えられる。また、これらの解消にあたり参加しやすい社会参加の機会を提供し、帰属感と生きがいを感じさせることと考えられる。

このように、中国では高齢化が進行しており、中国政府は、高齢者の文化権益を保障する必要性を掲げている。その際、高齢者の精神的な特徴を踏まえ、やるべきこと、学ぶこと、楽しむことに関する精神的なニーズを満たすことが課題として挙げられている。

8.1.2 高齢化と中国社会における生涯学習

8.1.1 より、「やること、学ぶこと、楽しむこと」に関する精神的なニーズを満たすという課題に対し、生涯学習は高齢者の精神的なニーズを満たせる1つの手段となる可能性があると考ええる。中国政府に所属する呉⁶は、生涯学習に関する概念について学習形式の開放性を重視し、個人が自由に、自主的に学習したい内容とルートを選ぶことであると述べている。このような生涯学習を学習の目標を作成し、学習に対する達成感が生まれる可能性があると考ええる。また、生涯学習の実践形式において、個人の目的による学習を重視しながら、個人が生涯の各段階に好きな時間・場所・方法で学習することが有効的に行われる。このように、高齢者が退職後に生涯学習を実践することは、いつでも、どこでも、どのような形式でも、生涯学習が実践でき、学習の内容に関する柔軟性が高いとも言える。従って、生涯学習は高齢者の精神的なニーズを満たせる1つの手段になると考えられる。

また、高桑⁷により、生涯学習には個人で行う学習と集合で行う学習の形式がある。そのうち、集団で行う学習の形式による社会参加を通じ、8.1.1 で述べた高齢者の特徴である「不安や孤独感が増し、社会参加の幅が狭くなること」を解消する一助となる可能性がある。このように、生涯学習は、既存の個人が目的を設定し、柔軟性の高い学習を行うことができるという特徴の他、社会参加の機会の提供や社会参加を通じた不安や孤独感の解消といった効果も期待できる。

一方、湯は高齢者が性別により、興味がある教育の内容が異なることを指摘した⁸。また、白により好みの学習の形式が年齢層によって異なる⁹。これを踏まえ、高齢者の生涯学習を实践させる際には、生涯学習に関するニーズを年代層や性別といった属性を踏まえた調査を実施し、時代背景に即したサービスを行っていく必要がある。中国政府は 1990 年代から生涯学習や生涯教育に関する理念を提唱しているものの、2018 年現在、生涯学習に関する概念の正式な定義や生涯学習の実施に関する制度は未だに定められていない。

これらを踏まえ、生涯学習について中国政府により定義を定めていないため、本研究では、呉による生涯学習の定義¹⁰の「生涯学習は生涯に必要な知識・技術・学習態度等が開発される過程と運用する過程である」を採用した。

8.1.3 生涯学習における公共図書館としての現状

文化的活動や高齢者に関するサービスを行う場について、「中華人民共和国憲法」では公共図書館も、高齢者に優遇措置を取るべきで施設であると述べられている。また、「中華人民共和国公共図書館法」¹¹により、中国では、公共図書館が公衆は無料で利用できる、社会教育を提供する施設とされている。これに加え、文化的活動や高齢者サービスを行い、文献・情報を提供する施設である。この特徴を有する公共図書館は、生涯学習に適した場の 1 つであると考えられる。

利用者がどのように、公共図書館で生涯学習を实践するかについては、高桑¹²が公共図書館と生涯学習の関係および公共図書館の機能をもとに、公共図書館で生涯学習を推進させるための方法を簡潔に提案している。その方法は、①資料の積極的利用、②情報サービスの利用、③集会・行事の利用の 3 つである。これらは、図書館サービスの側面から、高齢利用者に「資料提供サービス」、「情報サービス」、「図書館の文化活動」の 3 つ種類のサービスを提供することによる生涯学習の实践とも述べることも可能である。

次に、中国政府の政策から生涯学習に関する図書館の位置づけについて述べる。中国政府は生涯学習に関する正式な制度を定めていないものの、「生涯学習システム」や「生涯教育システム」という概念を提唱し続けており、その中に公共図書館が含まれている。文献調査から、賀は、生涯教育システムを、「ある程度の教育機構、終身教育制度、終身教育活動及びそれらの相互関係から構成されたシステム」であるとした。加えて、このシステムは全ての施設、機構、各種の教育資源を統合し、人の生涯にわたって各段階の教育に保障を提供し、いつでもどこでも必要がある教育

に関するニーズを満たすものであると指摘した¹³。また、生涯教育システム概念について、生涯の各段階、教育機構、教育活動に着目して定義について、2013年に賀は、「現在、よく使われているのは、郝克明が定めた定義である」¹⁴と述べた。郝克明は「生涯教育システムが社会公衆の多様な生涯学習のニーズを満たす」¹⁵と述べている。また、生涯教育システムの中の「社会教育システム」の一つの施設として、公共図書館が公衆に教育を受ける場所と機会を提供し、公衆の生涯学習を実現できる場とされている¹⁷。これらより、公共図書館は、公衆に教育を受ける場所と機会を提供し、生涯学習を実現する場の1つであり、生涯教育システムの施設の1つとして生涯学習を促進する役割を担う施設であると考えられる。

また、文献調査では、管見の限り、公共図書館における生涯学習の事例に関する調査は上海図書館の調査のみであった¹⁸。この事例調査では、提供されていた生涯学習プログラムへの参加を通じて、余暇生活に学習できる機会が提供されていること、利用者が生活・仕事においてプログラムへの参加が役立つことを実感していることが明らかになっている。

一方で、本研究のアンケート調査において、約7割の回答者が「生涯学習」という言葉がわかると回答したものの、1割以上の回答者が、自らが公共図書館で生涯学習を実践していることを実感していないことが明らかになった。回答者が生涯学習を実践する場所は、主に「家」と「図書館・博物館・美術館」であり、学習の実践形式は、主に「書籍と資料の閲覧」であった。

また、インタビュー調査において、図書館員による生涯学習への理解が全体的に行き渡っておらず、公共図書館で資料や図書館プログラムの利用が生涯学習になることを認識しているものの、利用者の生涯学習の実践のために、資料、プログラムやサービスを提供している姿勢が見られないことが明らかになった。

さらに、生涯学習に関する公共図書館の現状として、公共図書館が中国政府により生涯教育システムの一つの施設として、公衆に生涯学習を実践できる場と機会を提供できる施設であり、生涯学習を促進する役割を担う施設であると考えられていることが明らかになった。その一方で、生涯学習に関する基礎的な理解はあるものの、利用者と一部の図書館員は生涯学習の意義や実践方法を認識していないと考えられる。更に、公共図書館の図書館員は生涯学習の観点からサービスを提供している姿勢が見られなかった。

8.2 中国の公共図書館における高齢者サービス

本節では、中国の公共図書館における高齢者サービスの提供根拠及び実態について述べる。第1項では中国の公共図書館で高齢者サービスを提供する根拠について述べ、第2項では中国の公共図書館における高齢者サービスの現状について述べる。

8.2.1 中国の公共図書館における高齢者サービスの提供に関する根拠

文献調査から、公共文化施設である公共図書館が高齢者サービスを実施する根拠として、「中華人民共和国老年人權益保障法」¹⁹により、公共図書館が高齢者に優遇措置を取るべきであると述べている。また、「中華人民共和国憲法」²⁰と「公共図書館服務規範」²¹では、公共図書館は全ての公衆にサービスを提供するべきことを定めた。更に、「中華人民共和国公共図書館法」²²でも、公共図書館が高齢者の特徴を踏まえ、サービスを提供する必要性が唱えられている。

このように、中国政府は公共図書館の高齢者サービスを提供する必要性を強調している。しかし、「中華人民共和国公共図書館法」²³や「公共図書館服務規範」²⁴では、高齢者を少年・児童サービスのような特別なサービスを提供するべき利用者層として捉えていない。肖²⁵は、「中国の公共図書館では高齢者サービスに関する制度と体制が整備されておらず、高齢者サービスに関する内容が漠然としており、高齢者サービスを提供する際に参照できる評価標準がない」ことを指摘している。このように、高齢者の特徴やニーズを踏まえたサービスをどのように行うべきかといった、高齢者サービスの具体的な内容に踏み込んだガイドラインや指針が作成されていない状態にあることが明らかになった。

これらを踏まえ、中国の政府により、公共図書館が高齢者サービスを提供する必要性があると提唱されていること、その一方で、公共図書館では高齢者サービスに関するガイドラインや指針が作成されていない状態であり、図書館員が高齢利用者は、特定のサービスの対象であるという意識が弱いのではないかとということが指摘できる。

8.2.2 中国の公共図書館における高齢者サービスの現状と課題

中国の公共図書館における高齢者サービスの内容について肖²⁶は、中国における公共図書館の高齢者サービスは、下記4つの項目を指摘した。それは、(1)施設と設備:身体的なニーズに応えられる施設と設備を提供すること、(2)資料の提供:読書の特徴と情報ニーズを基にした資料を提

供すること、(3)予算と管理組織:①高齢者サービスに関する予算の配分、②高齢者サービス担当の図書館員を配置、③来館できない高齢利用者に対してサービスを提供すること、(4)高齢者プログラムを提供することである。ここでは、高齢者に対するサービスとして、施設と設備といった物理的な側面からの考慮や、資料提供や高齢利用者を対象としたプログラムといった図書館サービスの提供、図書館職員や予算といった運営側の配慮について言及がなされている。

肖²⁷は、高齢者の閲読に関する阻害について、「高齢者がパソコン、インターネット、資料において、流行っている用語に対面している時、敬畏感と無力感が強い」と述べた。また、熊²⁸は、高齢者の資料に対するニーズがあり、「退職した高齢者は前より暇となり、もっと落ち込みやすくなるため、心境を整える資料が必要である」と述べた。また、馮は中国の公共図書館で高齢利用者に情報サービスを提供する際の図書館員に関する不足点として、「図書館員の専門知識が不足していることや積極的にサービスを提供する意識が足りない」ことを指摘している²⁹。

高齢者の公共図書館の「施設・設備」に関する利用については、「中華人民共和国公共図書館法」³⁰により、高齢利用者を独立している利用者層として、設備やサービスに関する記載がある。その一方で、少年児童に関するサービスのよう、「何に基づいたサービス」かが記載されておらず、「どのような活動を展開していくか」に関する記述が見られない。また、高齢者に便利な施設と設備の提供について、2013年に、肖³¹は中国にある271館の公共図書館に高齢者サービスに関するアンケート調査を実施している。そのうち、12.9%の公共図書館が高齢利用者に関する設備と施設について考慮していると述べた。提供されている設備について、①老眼鏡、拡大鏡を提供する割合が最も高く、68.8%を占めた。また、お湯の提供が45.7%であり、紙とペンが25.7%であった。その他、高齢利用者の専用のテーブルと椅子、バリアフリー、薬箱、車椅子などであった。高齢利用者に提供しているサービスの現状として、主に施設と設備といった高齢者の体調の特徴に関するサービスが提供されていると考えられる。

本研究における図書館員へのインタビュー調査の結果から、杭州図書館が「高齢者」の体調面に関する設備を中心として提供していることが明らかになった。また、利用状況として、一部の調査対象者の図書館員は、「高齢者」の体調面に関する設備を利用していることと、「新聞閲覧室を利用している高齢利用者が多いこと」を把握していた。

また、アンケート調査の結果によると、高齢者プログラムの利用状況と満足度について、回答者の高齢者プログラムへの参加率は42%であり、高齢利用者に対して、公共図書館における高齢者

プログラムの普及ができていないことが明らかになった。更に、本調査からみる高齢者プログラムの好みについて、①芸術、健康に興味があること、②鑑賞や展示会に参加しやすい傾向があることの2点があげられた。

さらに、インタビュー調査の結果から、高齢者プログラムについて、公共図書館で高齢者プログラムを提供する必要があることを政府や杭州図書館に要求されていることと、生活主題分館の主任自身は利用者が図書館プログラムの開催の仕事に参加することを歓迎していることが明らかになった。

また、資料提供サービスについて、図書館員は総館と生活主題分館が高齢者へ提供している主な資料の分野について言及した。資料のニーズがある一方で、分野に偏りがあり、高齢利用者に提供している資料の分野が限られているとも言える。また、高齢者サービスについて、高齢利用者が貸出の手続きや資料検索などのことだけではなく、図書館サービス以外のことを、図書館員に頼むことがあり、図書館員が可能な範囲で対応しているという現状も見られた。

生涯学習の視点から、今後の利用者として公共図書館との協働および公共図書館における高齢者サービスを検討するため、高齢利用者における公共図書館で高齢者サービスの現状について、現在公共図書館で実施されている「施設と設備」の他、「資料提供サービス」、「情報サービス」、「図書館の文化活動」の観点から考察を行う。

①「施設と設備」について、公共図書館側は高齢者サービスとして主に高齢利用者の体調を考慮し、行きやすく滞在しやすい環境や設備を高齢利用者に提供していることが文献調査から明らかになり、本研究のインタビュー調査の結果からこれらが裏付けされた。しかし、肖³³は、高齢者にパソコンやインターネットといった設備の利用について、精神的な阻害があると指摘している。今後の改善点として高齢利用者の体調面のほかに、精神面の特徴も含めた施設と設備に関するサービスを提供することが挙げられると考えられる。

②「資料提供サービス」について、公共図書館側は高齢利用者の資料に関する好みを把握していた。しかし、高齢者の精神的なニーズを把握したうえで資料を提供している様子は見られなかった。

多様な背景を持つ高齢者の全てのニーズに合った資料を提供することは困難であるが、一定数見られるニーズに即した資料の提供やそれに関する調査を実施する必要があると考えられる。また、肖と熊により、高齢利用者の好みやニーズは把握しているものの、心理的な特徴を踏まえた関

覧への配慮が行われていないことが指摘されている。高齢利用者へ資料提供を行う際に、このような視点を有し、図書館員の間で共有していくことが期待される。更に、生涯学習の観点から、高齢利用者が今後必要となるであろう資料も視野に入れて資料を収集すること、円滑な学習支援のための資料を提供できるような基盤を整えることが課題として考えられる。

③「情報サービス」について、インタビュー調査の結果から、高齢利用者にサービスへの提供の柔軟性が高いという利点があるものの、高齢者サービスとしての意識が弱いことが明らかになった。インタビュー調査の結果が文献調査で馮が指摘した内容と合致しており、今後、高齢者サービスを提供する場合、図書館員の高齢者サービスに関する意識を常に持ってもらう必要性が生じるのではないかと考えられる。更に、これらの結果から、情報サービスが高齢者の生涯学習のためという目的に基づいて行われていないと考えられる。生涯学習の観点から、高齢者が自らの目的に合わせ、柔軟な学習が可能となるよう、高齢者の特徴を踏まえた今後必要となるであろう情報の調査や、高齢利用者が最新の機器や言葉遣いといった情報へアクセスする阻害要因に関する配慮を行うことで、高齢利用者が情報へ円滑にアクセスできる基盤を整え、生涯学習を円滑に行うためのサービスを提供する必要があると考えられる。

これらを実践する為に、政府の法律や政策に高齢者サービス、生涯学習に関する記載を補足する、又は高齢者サービスに関するガイドラインの配布や公共図書館同士の積極的な事例の共有が期待される。

④「図書館の文化活動」の1つである高齢者プログラムについて、アンケート調査から、高齢利用者が高齢者プログラムに関する好みは芸術、健康の内容と鑑賞や展示会などの参加しやすい形式であることが明らかになった。また、インタビュー調査から、今後より多くの高齢利用者が公共図書館の図書館プログラムの開催の仕事に参加できる可能性が見られた。高齢利用者に高齢者プログラムを提供する際に、高齢利用者のニーズを満たせる高齢者プログラムの内容と形式についてアンケート調査で定期的に明らかにする必要があると考えられる。更に、インタビュー調査の結果から、図書館員は生涯学習の意識や実践方法を認識していない傾向にあり、高齢者プログラムを生涯学習に関するプログラムとして提供していない可能性がある。生涯学習の実践という意識を図書館員側が抱き、プログラムを提供することで、公共図書館が生涯学習に関する機会と場を提供する場の1つとして、生涯学習を促進する役割を達成できると考えられる。

8.3 公共図書館における高齢利用者との協働

本節では、生涯学習の集団学習の形式の1つである協働に着目し、公共図書館における協働、公共図書館における協働の現状、協働に関するプログラムの事例について述べる。

8.3.1 公共図書館における協働と生涯学習

『現代社会学事典』によると、近年の日本では地域社会で行政とNPOとの協力体制を「協働」と呼び概念化しつつある³⁴。また、近年の公共図書館と利用者の関係性について、呑海³⁵は、「利用者のニーズについて、良い「資料」を与える未分化、利用者のニーズに合わせて提供する多様化、多様化するニーズの中で利用者の側に立ち、利用を促進する曖昧化の段階を経て、利用者と図書館が相互に影響を与え合いながら、新しいニーズや価値を創出する創出化の段階を迎えている」と述べている。

さらに2012年、呑海は、「近年、図書館界においては、利用者との協働がひとつのキーワードになっている」と指摘している。また、高齢利用者がシニア・サービスの担い手とする場合について、呑海は「高齢者をとらえることはサービスの質・量を向上させるうえで重要なポイントとなる。高齢者がシニア・サービスの提供者となることによって、高齢者のニーズの直接的・継続的把握が可能となるばかりでなく、シニア・サービスの提供者としての高齢者に社会参加の機会を提供することにもなる。また、図書館を場とした高齢者の知的コミュニティを形成することによって、そのようなコミュニティに魅力を感じる高齢者に居場所を提供することができる。よって、高齢者をシニア・サービスの享受者としてのみとらえるのではなく、提供者としてとらえることが重要になる。」³⁶という利点を述べた。これらを踏まえ、高齢利用者と図書館が双方向に影響を与える「協働」の視点が提唱されている。事例として、大連市西岡区図書館の試みをあげることができ、高齢利用者を対象として、「常緑樹」読者組織を立ち上げ、読書・健康などのテーマの講習会を実施し、「常緑樹」の高齢利用者が図書館のサービスを利用しつつ、講師として活躍している³⁷。

また、肖³⁸は高齢利用者が図書館プログラム実施へ参加する利点を、高齢利用者と公共図書館の双方向から挙げている。高齢者利用者に見込めることとして、①人生経験を活用できること、②定年退職による社会的役割の喪失を補完できること、③プログラムの企画に関する能力の向上を挙げている。また、公共図書館側に見込めることとして、①公共図書館運営の予算を節約できる、

②高齢者サービスを再考する機会を提供できること、③高齢利用者の選択権・発言権・参加権を重視できることを挙げている。

このように、高齢利用者と図書館が双方向に影響を与え合う「協働」の視点が提唱されており、協働の事例も表れている。また、その効果として、高齢利用者に社会的役割の補完やプログラムの能力の向上や経験の活用が見込まれること、公共図書館側に予算の節約や高齢者サービスの最高のきっかけ、高齢者の選択や発言、参加を重要視できることを見込んでいる。

更に、呑海により、高齢利用者が公共図書館の「シニア・サービスの提供者としての高齢者に社会参加の機会を提供する」ことができるため、高齢利用者が公共図書館の図書館プログラムの開催の仕事に参加することで、高齢利用者の社会参加を推進できる効果が見られるとされている。「中華人民共和国老年人權益保障法」³⁹における高齢者の社会参加に関して、中国政府が、高齢者が社会参加を通じ、社会の発展へ貢献しやすい環境を作ることが方針として掲げられている。また、同法では社会のニーズと可能性により、高齢者が自発的に適度に社会参加を行うことを推奨している。

社会参加について、「高齢者の生活状況に関する中国政府報告書」⁴⁰では、高齢者による社会参加から見込めることを下記のように述べている。

- ① 社会面からは、高齢者の労働力を開発でき、社会に人材を提供し、負担を減らす。
- ② 家庭の側面からは、高齢者が社会参加により、退職後でも、生きがいを見つけることで、視野を広げ、子供への負担を減らし、子供との関係が良くなる。
- ③ 高齢者に対して、a.退職後の生活を慣れ、社会とのつながりを結び、体と精神の健康の維持に役立つ。また、b.人との交流を創造し、社会資本を形成し、生活の質を向上できる。最後に、c.社会に自分の力を貢献し、その責任をとることで自分の価値も認められ、生きがいを見つけることができる。

高齢利用者が公共図書館の図書館プログラムの開催の仕事に参加することで高齢利用者の公共図書館を利用や社会参加の促進や、人生経験を通じた知識の活用や企画の能力の向上といった生涯学習の実践が見られるのではないかと考えられる。高齢利用者と公共図書館との協働は、高齢利用者の生涯学習における手段の1つであると考えられる。更に、公共図書館との協働から、高齢利用者に社会参加の機会を提供することで、高齢者が退職・引越し・子供の離れ・

などのため、高齢者の孤独感、劣等感と消極的な考えを解消し、8.1 で述べた高齢化による解決すべき課題である「高齢者の精神的なニーズを満たすこと」を達成する一助となると考える。

8.3.2 公共図書館における協働の現状と課題

本研究におけるアンケート調査により、257 の有効回答のうち、杭州図書館と協働した経験があるという回答は 13 人であり、約 5% であった。うち、9 人が低齢高齢者、4 人が中齢高齢者であった。また、13 人のうち 12 人の最終学歴が高等学校以上であった。一方、「高齢者の生活状況に関する中国政府報告書」によると、2015 年 8 月 1 日時点に、中国の高齢者の最終学歴のうち、中学校以上の学歴を持つ高齢者は約 3 割のみであった。公共図書館との協働の経験がある回答者の学歴が全国の平均水準より高いことがわかった。

また、協働した経験がある回答者の来館理由として、13 人の中の 9 人の回答者が学習することを理由として来館した。さらに、協働理由について、a. 社会参加したいこと、b. 高齢者プログラムへ興味があること、c. 杭州図書館が無料で場所、設備などを提供していることであった。

8.3.3 協働に関する図書館プログラムの事例

生活主題分館にある「時光之旅プログラム」が「高齢者が主催する高齢者プログラム」であるため、本研究では、協働に関する事例として、「高齢者が主催する高齢者プログラム」の「時光之旅プログラム」を事例に調査を行った。

8.3.3.1 「高齢者が主催する高齢者プログラム」の主催者の高齢利用者の生涯学習

「高齢者が主催する高齢者プログラム」の「時光之旅プログラム」を始めるきっかけとして、調査対象者は、高齢者同士と交流を行いたいと考え、プログラムの講師を始めた。そのため、「時光之旅プログラム」が始まる前に、生活主題分館へ企画を持ち込みやプログラムの実践を通じた評価を行い、自分の熱意と技術について生活主題分館の信頼を獲得する為に奔走した。

「時光之旅プログラム」の内容については、調査対象者が定めていた。しかし、プログラムに関する内容を生活主題分館に月ごとに報告する必要がある、時期により、生活主題分館の要求に基づいた調整する必要がある。プログラムの実施について、調査対象者が講師として講習会を行い、会場の手配や設営は生活主題分館側が協力する。「時光之旅プログラム」の広報について、生活主

題分館は Web を用いた宣伝を行っており、高齢者が主催する高齢者プログラムの高齢利用者が口コミで宣伝している。

以上を踏まえ、(1)「高齢者が主催する高齢者プログラム」の「時光之旅プログラム」の講師として、自らの生涯学習について見込めることとして、①図書館プログラムを主催する前に、公共図書館の資料提供サービスを利用し、学習を行っていた。②学習したことをプログラムの主催により復習できる。また、③高齢利用者や生活主題分館の担当者と話し合っ、情報サービスを受け、自分から教えた内容に対する印象を深くなる、の 3 点が見られた。図書館プログラムを通じて、講師である高齢利用者が生涯学習を実践していることが見られる。

(2)「時光之旅プログラム」が公共図書館との協働かの判断について、「時光之旅プログラム」の開催のきっかけと開催の過程から、調査対象者が生活主題分館にリードされていることが明らかになった。生活主題分館との目的について、生活主題分館との「公衆の審美を向上させること」の目的が一致していると回答した。しかし、本研究の協働の定義を「高齢利用者と公共図書館が同じ目的意識を共有し、共に協力して働くことである。」と定義する。この定義を満たすために必要な 3 つの条件として、①高齢利用者と公共図書館が同じ目的意識を共有すること②「共に」の立場で行動をすること③協力して働くことが挙げられる。これらを踏まえ、①高齢利用者と公共図書館が同じ目的意識を共有することが見られ、また、②協力し、「時光之旅プログラム」を主催していることも明らかになった。しかし、③調査対象者が生活主題分館にリードされていて、平等の立場で行動をすることが見られていなかった。そこで、本研究における「時光之旅プログラム」が公共図書館との協働に関するプログラムではない。

(3)「高齢者が主催する高齢者プログラム」の講師にとって「高齢者が主催する高齢者プログラム」の主催することで得られるものについて、①友達ができること、②人との交流が創造できること、③社会とのつながりができること、④達成感を感じる、の 4 つの利点があると述べており、社会参加や人との交流もプログラムの講師を行う動機となっていると考えられる。

前述の肖が挙げた高齢利用者に見込める事項である、人生経験を活用、プログラムの企画に関する能力の向上の 2 点を調査対象者がプログラムに抱く意義であることが、調査結果から読み取れる。

また、「定年退職による社会的役割の喪失を補完できる」ことに対して、直接的な調査結果には言及されてないものの、補足インタビューの調査対象者が杭州図書館以外の老年大学やコミュニ

ティで活躍し、「やりがいを感じる」と述べており、「定年退職による社会的役割の喪失を補完できる」とも捉えることができる。更に、社会参加や人との交流がプログラムの利点としており、これらが社会的役割の喪失感を緩和していると考えられる。また、8.3.1 に述べた高齢者の社会参加を実践することで見込めることから、「高齢者が主催する高齢者プログラム」の主催することで①退職後の生活を慣れ、社会とのつながりを結び、体と精神の健康の維持に役立つこと、②人との交流を創造し、生活の質を向上できること、③社会に自分の力を貢献し、その責任をとることで自分の価値も認められ、生きがいを見つけることができると考える。

一方、公共図書館側について、利用者との交流が取りやすいことを「時光之旅プログラム」の目的としており、この目的設定は、高齢利用者の選択権・発言権・参加権を重視している姿勢と捉えることも可能である。

これらを踏まえ、「高齢者が主催する高齢者プログラム」の主催者は、公共図書館の高齢利用者だけではなく、生活主題分館の図書館プログラムの主催者としての参加が自らの生涯学習を實踐できる形式の1つと捉えている。さらに、その生涯学習の實踐形式が長期的、定期的に生涯学習の實踐を維持でき、公共図書館の資料やサービスの利用、図書館員とプログラムの高齢利用者に、学習の機会をもらい、自ら学習する事項の決定・實踐の機会の1つとして位置づけているのではない。また、直接的には言及されていない者の、プログラムによりやりがいを得ていること、人との交流や社会参加を行っていることから、生活質を向上させ、社会的役割を補完することも見込めると考えられる。

8.3.3.2「高齢者が主催する高齢者プログラム」の高齢利用者に対して

本節では、高齢利用者と公共図書館の協働という視点から、杭州図書館にある事例の図書館プログラムの「時光之旅プログラム」を検討する。また、生活主題分館で実施したアンケート調査の調査Bと調査Cにより、過去の1年間、「時光之旅プログラム」を利用した経験がある回答者を「高齢者によるプログラム参加経験あり」グループとし、参加した経験がない回答者を「高齢者によるプログラム参加経験なし」グループとする。

(1)生涯学習の視点から、「高齢者によるプログラム参加経験あり」グループの回答者と「高齢者によるプログラム参加経験なし」グループの回答者の生涯学習と協働の実態や満足度について比

較し、生涯学習という言葉がわかるか、生涯学習の実践場所、公共図書館での生涯学習の経験、協働の経験、ボランティア活動の経験に関する調査結果について考察を行う。

(1)「高齢者によるプログラム参加経験あり」グループの回答者が「高齢者によるプログラム参加経験なし」グループの回答者より、生涯学習の実践場所の種類が多いことが明らかになった。

(2)「高齢者が主催する高齢者プログラム」に参加することで自らの学習になる。そのほか、その場で話やすい高齢利用者や高齢利用者の講師と交流し、学んだ知識に関する疑問を解決し、復習することが可能な環境として利用している可能性もあると考えられる。

(3)「高齢者が主催する高齢者プログラム」に参加することを通じて、高齢利用者が得られることについて、利用者の間や高齢利用者としての講師との交流ができる機会もあると考えられる。また、インタビュー調査の結果も含めて、図書館側も「高齢者が主催する高齢者プログラム」にすることで、高齢利用者のプログラムに関する意見を聞きやすくなると回答した。呑海が「高齢利用者がシニア・サービスの担い手とする場合、高齢者のニーズの直接的・継続的把握が可能となる」⁴¹ことが裏付けられたといえる。一方、講師の高齢利用者と「高齢者が主催する高齢者プログラム」の高齢利用者の間に交流が生まれることと「高齢者が主催する高齢者プログラム」が長期的に行われている高齢者プログラムであることで、参加者の高齢利用者の間も交流を生まれ、人間関係の構築の向上になる可能性があると考えられる。

高齢利用者も同プログラムを生涯学習の形式の1つとしていることから、双方が生涯学習を実施している。また、「高齢者が主催する高齢者プログラム」を通じて、それぞれが異なる目的の基に生涯学習を実践し、自らが求める学習の結果を齎していると考えられる。

更に、協働とボランティア活動が高齢者の社会参加の2つの形として挙げられており、高齢者の退職後の生活の豊かさを齎す一助となることを提唱している。本調査の結果として示したように、「高齢者によるプログラム参加経験あり」グループの回答者が、「高齢者によるプログラム参加経験なし」グループの回答者より、社会参加や社会参加を通じた自己表現に関する欲求を満たしたいと考える層であったと考えられる。

総括して、中国において生涯学習に関する定義が明確に定められておらず、生涯教育システムや生涯学習の理念が曖昧な提唱に留まっているものの、公共図書館は現状として資料や情報の提供や学習を行う環境の整備、高齢者プログラムの提供を行い、生涯学習を促進する役割を担う施設として機能していた。一方で生涯学習の理念の曖昧さが利用者や図書館職員に影響を及ぼ

し、生涯学習があらゆる場所で自発的に多様な形式で実践されていること、図書館員が生涯学習を支援するサービスを提供していることについての意識が弱いことが見られた。

これらを踏まえ、公共図書館のサービスやプログラムによる生涯学習によって何が見込めるかを積極的に高齢利用者へ伝えて、図書館職側も生涯学習の機会を提供する側であるという意識を共有していく必要があると考える。これらの知見を基に、中国政府が高齢者サービスに関する制度を整え、生涯学習の概念や実践方法を公衆へ明確に提示することが望まれる。また、図書館側が高齢利用者の利用について定期的に調査を行い、「高齢者サービスを提供すること」に関する概念を職員へ普及させることで、生涯学習の機会と場を提供し、生涯学習の推進を実施する必要があると考えられる。

これに加え、生涯学習におけるボランティアとは異なる協働という新しい形式が、公共図書館における生涯学習の促進という機能に留まらず、協働する高齢利用者と協働に関する高齢利用者プログラムの参加者へ社会参加を促進し、高齢化における「高齢者の精神的なニーズを満たす」ことへの一助として副次的に機能する可能性も見られた。今後は、高齢者の生涯学習の場を提供し、その実践を促すという役割を果たすことで、生涯学習の機会を提供し、その実践を促すほか、高齢利用者の社会参加を促し、社会的な課題とされている高齢者の精神的なニーズを満たすという新たな役割を果たしていくことが求められるのではないかと推察できる。

本章では、高齢化が進行している中国社会で求められる公共図書館の役割を再考することを目的として、生涯学習の視点から公共図書館における高齢者サービス及び利用者としての公共図書館との協働を検討し、考察を行った。

結論として、高齢者を公共図書館で生涯学習を実践することは、高齢化が進行している中国社会の高齢者に関する精神的なニーズを満たす必要があるという問題を解決する一つの手段であること、公共図書館が教育の機会を提供することを目的として生涯学習を促進する役割があることを再確認した。その一方で、生涯学習の視点から、公共図書館側に高齢利用者の生涯学習の機会を提供することを意識し、サービスを提供している姿勢が見られなかった。また、公共図書館との協働について、公共図書館の「高齢者が主催する高齢者プログラム」の主催者として、「高齢者が主

催する高齢者プログラム」を主催することで自らが意識した生涯学習を実践できることが明らかになった。

これらを踏まえ、公共図書館が公衆に教育機会を提供する役割を達成するためには、高齢利用者と公共図書館の双方に生涯学習の理念を浸透させ、公共図書館が生涯学習の意識を持ちつつサービスを提供する必要があることを課題として指摘した。加えて、生涯学習の新たな形式である協働を通じて、高齢利用者同士の交流が促進されること、協働に関するプログラムにより高齢者の不安や孤独感を軽減し、やりがいや創出される副次的な作用が見られる可能性を指摘した。これらを踏まえ、今後の公共図書館の役割を再考する上で、社会参加が重要な視点であることを指摘した。

¹杭州図書館. 杭州図書館敬老服務概況 (2013 年までに、高齢者に関するプログラムのまとめの書類). 内部資料. (参照 2016-11-6)

²杭州図書館生活主題分館. 写真:「星空の撮り方」に関する講習会. 内部資料, 2015.10 (参照 2018-11-30)

³杭州図書館生活主題分館. 2013.12-2014.11 活動回数統計. 内部資料. (参照 2018-9-19)

⁴杭州図書館生活主題分館. 2014.12-2015.11 活動回数統計. 内部資料. (参照 2018-9-19)

⁵杭州図書館生活主題分館. 2015.12-2016.11 活動回数統計. 内部資料. (参照 2018-9-19)

⁶杭州図書館生活主題分館. 2013.12-2014.11 活動回数統計. 内部資料. (参照 2018-9-19)

⁷杭州図書館生活主題分館. 2014.12-2015.11 活動回数統計. 内部資料. (参照 2018-9-19)

⁸杭州図書館生活主題分館. 2015.12-2016.11 活動回数統計. 内部資料. (参照 2018-9-19)

⁹「2013.12-2014.11 活動回数統計」、「2014.12-2015.11 活動回数統計」、「2015.12-2016.11 活動回数統計」: 2017 年 9 月に生活主題分館でインタビュー調査を実施した際に頂いた内部資料である。生活主題分館の年間報告を杭州図書館総館へ提出する時期が各年の 12 月であるため、杭州図書館生活主題分館統計のデータは、ある年の 12 月から翌年の 11 月までのデータである。

¹⁰杭州図書館生活主題分館. 時光之旅撮影活動策書. 内部資料. 2011.5.10. (参照 2018-11-30)

¹¹杭州図書館生活主題分館. 時光之旅撮影活動策書. 内部資料. 2011.5.10. (参照 2018-11-30)

¹²杭州図書館生活主題分館. 2014 年生活主題分館“時光之旅”老年撮影隊活動方案. 内部資料. 2013.12. (参照 2018-11-30)

¹³銭家陀. 撮影の芸術 コンセプトに関する考え. 時光之旅プログラムの講義. (参照 2018-11-30)

¹⁴上山下郷運動: 1966 年～1968 年、文化大革命の影響で実施。農村部での労働を通じた社会主義思想の普及を目的とした運動である。(堀口正. 中国・知識青年の下放(上山下郷)運動とその役割: 上海市農村を事例として. 東アジア研究. 2015, p47-63.)

¹全国老齡工作委员会辦公室. 中国人口老齡化發展趨勢予測研究報告. <http://www.cncaprc.gov.cn/contents/16/11224.html> (参照 2018-4-5)

-
- ²全國老齡工作委員會辦公室. 中國人口老齡化發展趨勢預測研究報告. <http://www.cncaprc.gov.cn/contents/16/11224.html> (參照 2018-4-5)
- ³³全國老齡工作委員會辦公室. “中華人民共和國老年人權益保障法”. 2015 年. <http://www.cncaprc.gov.cn/contents/12/174717.html> (參照 2018-7-7)
- ⁵陳剛. 基於老年人行為心理需要的公共圖書館適老化研究始探. 天津大學建築學院. 2016. 修士論文.
- ⁶吳遵民. 中國教育發展戰略學會終身教育工作委員會副主任
- ⁷高桑康雄ほか. 生涯學習の方法. 實務教育出版. 第 1 版. 1987.10, p.48.
- ⁸湯更生 全根先ほか. 公共圖書館與中國老年教育. 國家圖書館出版社. 第 1 版. 2015.8, p107.
- ⁹白新睿. 老年教育需求的調查與思考. 北京宣武紅旗業餘大學學報. 2012.3, p.9-13.
- ¹⁰吳遵民. 終身教育的基本概念. 江蘇開放大學學報. 2016, 27, p.75-79.
- Bertrand Schwartz. 生涯教育-21 世紀的教育改革. 岸本幸次郎ほか訳. 明治図書出版株式會社. 1980.3, p.59.
- ¹¹中國人大網. 中華人民共和國公共圖書館法. 2017 年 (2017 年 11 月 4 日第 12 期全國人民代表大會常務委員會第 13 回會議修正通過), http://www.gov.cn/gongbao/content/2004/content_62714.htm (參照 2017-11-20)
- ¹²高桑康雄ほか. 生涯學習の方法. 實務教育出版. 第 1 版. 1987.10, p.113-115.
- ¹³賀宏志. 我國終身教育體系及其推進策略研究. 第 11 版. 首都師範大學出版社. 2013, p.45-72.
- ¹⁴賀宏志. 我國終身教育體系及其推進策略研究. 第 11 版. 首都師範大學出版社. 2013, p.45-72.
- ¹⁵劉傑. 終身教育體系下我國成人教育改革與發展研究. 修士論文. 大連理工大學, 2009.
- ¹⁷郝克明. 跨進學習社會—建設終身學習體系和學習型社會的研究. 第一版. 北京高等教育出版社. 2006, p.23-24.
- ¹⁸金紅亞 周慧林. 圖書館與終身教育: 上海圖書館讀者教育實踐. Lifelong education and libraries. 2005, 5, p.97-102.
- ¹⁹全國老齡工作委員會辦公室. “中華人民共和國老年人權益保障法”. 2015 年. <http://www.cncaprc.gov.cn/contents/12/174717.html>. (參照 2018-5-4)
- ²⁰中華人民共和國中央人民政府. 中華人民共和國憲法. 2004 年, (2004 年 3 月 14 日第 10 期全國人民代表大會第 2 回會議修正通過) http://www.gov.cn/gongbao/content/2004/content_62714.htm (參照 2017-11-5)
- ²¹中華人民共和國文化部. 公共圖書館服務規範. 2011 年, <http://183.63.187.8/crowd/doc/fwgf.pdf> (參照 2017-11-5)
- ²²中國人大網. 中華人民共和國公共圖書館法. 2017 (2017 年 11 月 4 日第 12 期全國人民代表大會常務委員會第 13 回會議修正通過) 年, http://www.gov.cn/gongbao/content/2004/content_62714.htm (參照 2017-11-20)
- ²³中國人大網. 中華人民共和國公共圖書館法. 2017 (2017 年 11 月 4 日第 12 期全國人民代表大會常務委員會第 13 回會議修正通過) 年, http://www.gov.cn/gongbao/content/2004/content_62714.htm (參照 2017-11-20)
- ²⁴中華人民共和國文化部. 公共圖書館服務規範. 2011 年, <http://183.63.187.8/crowd/doc/fwgf.pdf> (參照 2017-11-5)
- ²⁵肖雪, 王子舟. 公共圖書館服務與老年人閱讀現狀及調查. 圖書情報知識. 2009, p.25-42.
- ²⁶肖雪 周靜. 老齡化背景下我國公共圖書館老年服務狀況的調查與分析. 圖書館情報知

識. 2013,p.16-27.

²⁷肖雪.促進老年人閱讀的公共図書館創新研究.周建巍.天津大学出版社.2010,306p.

²⁸熊培松.老齡化社会背景下公共図書館多元化服務模式的創新与發展.農業図書館情報学刊.2018.3,p.174-177.

²⁹馮子木.老齡化社会背景下公共図書館服務研究.黑龍江大学.修士論文.2014,p.25-26.

³⁰中国人大網.中華人民共和国公共図書館法.2017 年(2017 年 11 月 4 日第 12 期全国人民代表
大会常務委員会第 13 回會議修正通

過),http://www.gov.cn/gongbao/content/2004/content_62714.htm(参照 2017-11-20)

³¹肖雪 周静.老齡化背景下我国公共図書館老年服務狀況的調查与分析.図書館情報知
識. 2013,p.16-27.

³³肖雪.促進老年人閱讀的公共図書館創新研究.周建巍.天津大学出版社.2010,306p.

³⁴現代社会学事典.大澤真幸ほか.第二版.弘文堂.2012,p.284

³⁵呑海沙織.“公共図書館における高齢者サービースーニア・サービスにむけて”.高齢社会につな
ぐ図書館の役割:高齢者の知的欲求と余暇を受け入れる試み.溝上智恵子,呑海沙織ほか編.田中
千津子.2012,p.25-45.

³⁶呑海沙織.“公共図書館における高齢者サービースーニア・サービスにむけて”.高齢社会につな
ぐ図書館の役割:高齢者の知的欲求と余暇を受け入れる試み.溝上智恵子,呑海沙織ほか編.田中
千津子.2012,p.25-45.

³⁷肖雪.促進老年人閱讀的公共図書館創新研究.周建巍.天津大学出版社.2010,306p.

³⁸肖雪.促進老年人閱讀的公共図書館創新研究.周建巍.天津大学出版社.2010,306p.

³⁹全国老齡工作委員会辦公室.中華人民共和国老年人權益保障法”.2015
年.<http://www.cncaprc.gov.cn/contents/12/174717.html>. (参照 2018-5-4)

⁴⁰胡宏偉.中国政府報告書:中国における都市と農村の高齢者の生活狀況に関する報告書
(2018).中国城郷老年人社会参与狀況分析.2018,p.237.

⁴¹呑海沙織.“公共図書館における高齢者サービースーニア・サービスにむけて”.高齢社会につな
ぐ図書館の役割:高齢者の知的欲求と余暇を受け入れる試み.溝上智恵子,呑海沙織ほか編.田中
千津子.2012,p.25-45.

9. おわりに

本章では、本研究のまとめ及び今後の課題について述べる。

9.1 まとめ

本研究では、高齢化が進行している中国社会で求められる公共図書館の役割を再考することを目的とする。また、生涯学習の視点から、生涯学習の形式としての協働および公共図書館における高齢者サービスを検討した。

第1章では、中国社会では高齢化が急速に進行し、中国政府が高齢化に伴い高齢者の精神的ニーズを満たす必要性が課題として提唱していること、この課題を解決する手段の1つとして生涯学習が挙げられることを指摘した。更に、公共図書館が生涯学習の機会と場を提供する施設の1つであることから、公共図書館における高齢者サービスと生涯学習の形式である協働を検討し、高齢化が進行している中国の公共図書館の役割について再考する必要性を述べた。

第2章では、高齢化が進行している中国社会における公共図書館の位置付けを明らかにするため、中国社会における高齢化の現状・特徴を概観し、中国社会に与える負の影響として高齢者のための社会資源の配置や高齢者サービスが提供できる施設を増やすことが困難であること、この背景から、公共文化サービスシステムが高齢者の文化権益を保障する施設として挙げられていた。これらを踏まえ、公共図書館で高齢者サービスを実施する重要性を指摘し、公共図書館がいかにして高齢者の文化権益を保障できるかについて、図書館サービスの視点から論じ、公共図書館における高齢者サービスの事例を概観した。これらを踏まえ、中国の場合、2018年の時点では、公共図書館における「高齢者サービス」の定義が定められていないことを指摘した。

第3章では、中国社会における生涯学習の現状を述べ、本研究における「生涯学習」という言葉を、呉遵民が述べた、「生涯に必要な知識・技術・学習態度等が開発される過程と活用する過程である」を定義とした。また、中国社会における生涯学習の実践を支えている生涯教育システムや高齢者の精神的な特徴について述べ、生涯教育システムにおいて公共図書館が生涯学習の観点から教育の機会と場を提供する施設の1つであり、生涯学習を促進する役割を担う施設であることを指摘した。更に、中国の生涯教育システムにおける公共図書館で生涯学習の実践の事例として、上海図書館における利用者の生涯学習に関する調査を挙げ、公共図書館は生涯学習を実

践できる場として機能していたことを明らかにした。その一方で、挙げられた事例調査が15年前であるため、現在の生涯教育システムや中国社会の世論を反映した学習支援や生涯学習の機会を提供する必要性や、同様の調査を改めて行うことを課題として指摘した。

第4章では、中国における公共図書館の高齢者サービスの現状と課題を明らかにするために、2016年に実施された杭州図書館における高齢者プログラムを事例として調査を行った。文献調査の結果として、①高齢者を対象として企画された図書館プログラムが全て生活主題分館で実施されていること、②高齢者を対象として企画された図書館プログラムの回数が、児童ヤングアダルトサービスと比較すると少ないこと、③高齢者プログラムが主に総館と生活主題分館に集中していることが明らかになった。

第5章では、公共図書館における高齢利用者の利用状況や生涯学習に関する意識の現状、高齢利用者との協働の現状を明らかにすることを目的として、杭州図書館を事例とし、高齢利用者にアンケート調査を行った。

調査結果から、①高齢者プログラムの形式として、鑑賞や展示会が参加しやすい傾向があること、②生涯学習という言葉がわかるものの、実施場所や実践形式が偏っていたこと、③公共図書館との協働の概念が普及していないこと、④「高齢者によるプログラム参加経験あり」グループの回答者は生涯学習に関する取り組む意識があることが明らかになった。

第6章では、利用者側だけではなく杭州図書館側から、高齢者サービスの提供・利用状況や生涯学習に関する認識を明らかにすることを目的として、総館・生活主題分館の図書館員と生活主題分館の主任を調査対象として半構造化インタビュー調査を実施した。調査結果から、①図書館側が生涯学習の実践機会を提供することを前提として、高齢者サービスを提供していなかったこと、②公共図書館が生涯教育システムの1つの施設であることを図書館員が意識していない可能性があること、③主任は高齢利用者が講師として、公共図書館で図書館プログラムを主催することに肯定的であること、④図書館側が自らの仕事内容と回答者の生涯学習の実践に関係があることを意識していることが明らかになった。

第7章では、利用者として的高齢利用者と公共図書館の協働という視点から、「高齢者が主催する高齢者プログラム」の現状や高齢利用者の生涯学習における「高齢者が主催する高齢者プログラム」の意義を明らかにするために、「高齢者が主催する高齢者プログラム」の講師を調査対象として、インタビュー調査を実施した。調査結果として、①「高齢者が主催する高齢者プログラム」の

主催と参加を通じ、主催者の高齢利用者とそのプログラムの参加者である高齢利用者にとって、長期的かつ定期的に生涯学習を実践する機会となっていること、②「高齢者が主催する高齢者プログラム」の主催で主催者と高齢利用者の交流や社会参加が促進されていることが明らかになった。

第8章では、第7章までの調査結果や考察を踏まえ、中国の公共図書館では高齢者の特徴やニーズを踏まえたサービスをどのように行うべきかといった、高齢者サービスの具体的な内容に踏み込んだガイドラインや指針が作成されていない状態にあることを指摘した。また、公共図書館における高齢者サービスについて、公共図書館が高齢利用者の精神的な特徴や資料に関するニーズを考慮し、資料の入手や情報へのアクセスに関する阻害要因を考慮した上で高齢者サービスを提供する必要性を指摘した。更に、図書館サービスの提供を通じて生涯学習の機会を提供しているという意識を図書館員が抱いていない傾向にあることを指摘し、生涯学習という観点から高齢者プログラムを提供する必要があることを論じた。公共図書館で高齢利用者の生涯学習を促進するため、生涯学習を実践できる環境を整える必要があると指摘した。加えて、公共図書館で生涯学習の新たな実践形式として協働について、社会参加や他者との交流を促し、自己表現に関する欲求を満たし、やりがいを得られる可能性があるかと推察した。

以上を踏まえ、高齢化が進行している中国社会において、高齢利用者の公共図書館の利用実態から公共図書館が生涯学習を促進する役割を担う施設の1つであることを再確認した。更に、この役割を再考するに当たり、公共図書館における生涯学習の観点から、高齢者サービスと生涯学習の形式としての協働に着目した。これを踏まえた調査を通じ、生涯学習の機会や場を提供する施設として、公共図書館がどのように生涯学習を実践する必要があるかを論考している。

これらに加え、生涯学習における集団学習の形式である協働は、社会参加や他者との交流を促し、社会的な役割を補完する可能性を述べた。協働は、高齢者の特徴である「不安や孤独感が増し、社会参加の幅が狭くなる」を解消する一助となる可能性がある。これまで、図書館との協働の生涯学習の効果として、柔軟な形式・内容の学習であり、個人が自由に学習の目的を設定できるという面が着目されてきた。しかし、高齢化が進行している中国社会では、社会参加の機会の提供や社会参加を通じた不安や孤独感の解消といった効果が見込めるという視点を普及していくことが重要と考えられる。

このように、高齢化が進行している中国社会において、公共図書館は生涯学習を促進する役割を担う施設であるという視点のみではなく、社会参加を促進させる機会や場を提供する施設の1つ

としての役割を担っていくことが期待される。この視点は、公共図書館で実施される高齢者サービスにも影響を及ぼすものであると考えられ、今後の中国の公共図書館で考慮すべき視点の1つであるのではないか。

9.2 今後の課題

本研究では、中国では公共図書館における高齢者の生涯学習に着目し、主に生涯学習の実践形式の1つである協働と高齢者サービスの検討を行った。

公共図書館の高齢利用者の生涯学習を促進するためには、生涯学習の実践形式に関する満足度のみではなく、生涯学習の実践に関する高齢利用者の意識まで踏み込んだ詳細な調査を実施し、生涯学習の実践に当たりどのような配慮を行う必要があるかを検討する必要があると考える。

また、本研究では、「高齢利用者が主催する高齢者プログラム」に着目し、高齢利用者の生涯学習の実践とその効果に関するアンケート調査とインタビュー調査を実施した。しかし、このプログラムに関する効果に言及については、高齢利用者の発言からの考察に留まっている。「高齢利用者が主催する高齢者プログラム」に関する評価を生涯学習の観点から行うためには、生涯学習の実践に関する効果を、生涯学習の開始から生涯学習の実践効果の一連の流れを調査の範囲とし、生涯学習の効果を量的・質的なデータに基づいて明らかにする必要がある。

また、本研究により、生涯学習の観点から高齢利用者に資料提供サービスを提供する際に、高齢利用者の学習を支援する環境を整備する必要性を指摘した。これらを踏まえ、高齢利用者の資料に関するニーズについて定期的なアンケート調査や、高齢者の特徴に関する調査を踏まえた今後必要となるであろう資料の検討が必要であると考えられる。

これらを今後の研究の課題としたい。

謝辞

本研究の作成するにあたり、多くの方にご協力いただきました。心から深謝の気持ちとお礼をもうしあげ、謝辞にかえさせていただきます。

まず、本研究のアンケート調査及びインタビュー調査にご協力してくださり、貴重なアンケート調査とインタビューを実施できるチャンスをくださった中国の杭州図書館の周氏、聶氏、何氏、方氏に改めてお礼を申し上げます。アンケート調査を協力してくださった杭州図書館の高齢利用者の方々、インタビュー調査に協力くださった総館の徐氏、沈氏、許氏、生活主題分館の方氏、陸氏、諸氏、江氏にも心より感謝しております。特に、インタビュー調査へ協力してくださった図書館職員の方は、お忙しい中、とても丁寧なご対応をして頂きました。厚くお礼申し上げます。

また、呑海ゼミの皆様とは、ゼミを通じた質問や討論の他、日常的にも本研究に対して指摘をしてくださいました。特に研究室の先輩方は、ゼミ以外でも相談にのってください、多くの困難を乗り越えることができました。誠にありがとうございます。また、貴重な時間を割いての日本語チェックや意見の提示をしてくださった嶺井さん、鈴木さん、武田さんもありありがとうございました。

さらに、研究生段階からお世話になっている副指導先生の溝上先生には、本論文もご精読頂き、非常に参考となる意見を頂きました。心より感謝の意を申し上げます。

そして、来日して以来、お世話になっている指導教員の呑海先生には、最も厚く、感謝の意を申し上げますと思っています。研究ではいつも丁寧に指導をいただいた他、研究以外でもご相談に乗って頂く機会が多々あり、異国で1人暮らしをしている自分にとって、心の支えとなっていました。呑海先生との出会いを通じ、落ち着くことの大切さや人生の光を見つけ、自分に自信を持つようになりました。家族のような優しさで支援してくださり、何度お礼を申し上げても足りない程、感謝しています。深く、感謝の意を申し上げます。ありがとうございました。

また、日本に来てから会えなくなった友人と、傍で支えてくれた友人の双方にもお礼申し上げます。最後に、3年間半経済的、精神的なサポートをし続け、特に論文により苦しい時に、遠い異国の地から見守ってくれた両親に心から感謝します。

参考文献

<日本語文献>

- 1.天城勲 奥田真丈ほか編.現代教育用語辞典.十二版.第一法規出版社株式会社.1980,p.272-273.
- 2.荒木昭次郎.自治行政における公衆協働論－参加論の発展形態として－.東海大学政治経済学部紀要.第28号.1996,p.1-11.
- 3.大串夏身 常世田良.図書館概論.第2版.学文社.2014.4,162p.
- 4.現代社会学事典.大澤真幸ほか.第二版.弘文堂.2012,p.284
- 5.胡凱麗.中国の公共図書館における課題解決支援サービス-上海図書館のビジネス支援サービスの実態-.筑波大学.2015,修士論文.
- 6.厚生労働省.平成28年版厚生労働白書－人口高齢化を乗り越える社会モデルを考える－.
－.https://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kousei/16/backdata/01-01-01-06.html(参照2018-12-3)
- 7.柴尾晋.和泉図書館ブックハンティング実施報告,一生徒が選書に参加することについて考える
一, 図書の譜:明治大学図書館紀要,2012,3,p.207-230.
- 8.座談会.生涯教育の考え方とその展望.文部時報.1969,5,p.2-26.
- 9.社会教育行政研究会.社会教育行政読本－「協働」時代の道しるべ－.第一法規株式会社.初版.2013.6.30,176p.
- 10.白石克己 黒河内敏正ほか.生涯各期の教育.第3版.実務教育出版.1990.6,p.134-135.
- 11.呑海沙織.溶ける境界線 利用者と図書館の間で.情報管理.2010,10,p.18-21.
- 12.日本図書館情報学会用語辞典編集委員.会図書館情報学用語辞典.第4版.丸善出版社.2013,p.105.
- 13.日本図書館協会図書館ハンドブック編集委員会.図書館館ハンドブック.日本図書館協会.第6版,2005.5,p.99.
- 14.堀口正.中国・知識青年の下放(上山下郷)運動とその役割:上海市農村を事例として.東アジア研究.2015, p47-63.
- 15.溝上智恵子 呑海沙織ほか.高齢社会につなぐ図書館の役割:高齢者の知的欲求と余暇を受け入れる試み. 溝上智恵子,呑海沙織ほか編.学文社.2012,168p.
- 16.山本恒夫,浅井経子ほか.生涯学習論,山本恒夫,浅井経子ほか編.第一版,東京,文憲堂株式会社,2007,169p.
- 17.ラングラン.P.生涯教育入門.第一版.波多野完治訳.日本青年館.1973,116p.

< 中国語文献 >

1. 白新睿. 老年教育需求的調查与思考. 北京宣武紅旗業余大学学报. 2012.3, p.9-13.
2. 陳剛. 基于老年人行為心理需要的公共図書館適老化研究始探. 天津大学建築学院. 2016. 修士論文.
3. 陳英. 図書館工作中的新課題. 図書館学研究. 1983.3, p.128-129.
4. 党必武. 中国政府報告書: 中国における都市と農村の高齢者の生活状況に関する報告書 (2018). 総報告. 2018, p.21.
5. 馮子木. 老齡化社会背景下公共図書館服務研究. 黑龍江大学. 修士論文. 2014.
6. 全国老齡工作委員会辦公室. 關於進一步加強老年文化建設的意見. 2012 年. http://home.saic.gov.cn/ltb/zcfg/fgxwj/201510/t20151015_233736.html (参照 2018-8-6)
7. 賀宏志. 我国終身教育体系及其推進策略研究. 第 11 版. 首都師範大学出版社. 2013, p.45-72.
8. 胡宏偉. 中国政府報告書: 中国における都市と農村の高齢者の生活状況に関する報告書 (2018). 中国城鄉老年人社会参与状況分析. 2018, p.237.
9. 郝克明. 經濟全球化与中国終身學習体系的构建. 北京大学教育評論. 2003, 1, p.31-36.
10. 杭州人民政府地方辦公室. 杭州年鑑 2017. 方志出版社. 第 1 版. 2017.10, 492p.
11. 杭州市社会經濟調查局. 2017 年杭州統計年鑑. 第二篇 人口和就業人員. 2-05 分地区戶籍人口年齡构成 (2016 年末). <http://tjj.hangzhou.gov.cn/tjnj/nj2017/index.htm> (参照 2018-8-15)
12. 杭州図書館. 杭州図書館パンフレット. 2018 年 4 月公開.
13. 杭州図書館. 杭州図書館生活主題分館. <http://www.hzlib.net/fwdd/404.htm> (参照 2018-4-30)
14. 杭州図書館. 杭州図書館敬老服務概況 (2013 年までに、高齢者に関するプログラムのまとめの書類である). 内部資料. (参照 2016-11-6)
15. 杭州図書館生活主題分館. 写真: 「星空の摂り方」に関する講習会. 内部資料, 2015.10 (参照 2018-11-30)
16. 杭州図書館生活主題分館. 2013.12-2014.11 活動回数統計. 内部資料. (参照 2018-9-19)
17. 杭州図書館生活主題分館. 2014.12-2015.11 活動回数統計. 内部資料. (参照 2018-9-19)
18. 杭州図書館生活主題分館. 2014 年生活主題分館“時光之旅”老年攝影隊活動方案. 内部資料. 2013.12. (参照 2018-11-30)
19. 杭州図書館生活主題分館. 2015.12-2016.11 活動回数統計. 内部資料. (参照 2018-9-19)
20. 杭州図書館生活主題分館. “時光之旅”攝影活動策書. 内部資料. 2011.5.10. (参照 2018-11-30)

- 21.柯平.公共図書館の文化功能—在社会公共文化服务体系中的作用.第一版.上海交通大学出版社.2010.7,p.49-51.
- 22.劉妮娜.中国政府報告書:中国における都市と農村の高齡者の生活状況に関する報告書(2018).中国城鄉老年人的基本狀況及家庭關係.2018,p.59.
- 23.劉漢輝.我国終身教育体系研究—可持續發展視角的分析.第一版.人民出版社.2012,224p.
- 24.李行健.現代漢語規範詞典.北京外語教学与研究出版社.第3版.2014.5,p.1708.
- 25.劉傑.終身教育体系下我国成人教育改革与發展研究.修士論文.大連理工大学,2009,p.12.
- 26.錢家陀.攝影の芸術 コンセプトに関する考え. 時光之旅プログラムの講義(参照 2018-11-30)
- 27.全国老齡工作委員會辦公室.“中華人民共和國老年人權益保障法”. 2015
年.<http://www.cncaprc.gov.cn/contents/12/174717.html>(参照 2018-7-7)
- 28.全国老齡工作委員會辦公室.關於進一步加強老年文化建設的意見.2012
年.http://home.saic.gov.cn/lbt/zcfg/fgxwj/201510/t20151015_233736.html(参照 2018-8-6)
- 29.全国老齡工作委員會辦公室.中国人口老齡化發展趨勢預測研究報告.<http://www.cncaprc.gov.cn/contents/16/11224.html>(参照 2018-4-5)
- 30.齊秀蘭.談談區級圖書館如何為老年讀者服務.基層圖書館.2002.2,p.55.
- 31.上海圖書館.2016 年年報.
<http://www.library.sh.cn/dzyd/rdsm/images/2016%E5%B9%B4%E5%B9%B4%E6%8A%A5.pdf>/(参照 2019-11-7)
- 32.上海圖書館.“東方之聲”名家解讀名著——我讀《水滸》.
200004.<http://www.library.sh.cn/news/list.asp?id=1111211>(参照 2018-10-10)
- 33.上海圖書館.上圖講座 40 周年.上海圖書館ホームページ. <http://www.jiangzuo.org/>(参照 2019-1-7)
- 34.湯更生 全根先ほか.公共図書館与中国老年教育.国家図書館出版社.第1版.2015.8,243p.
- 35.吳遵民.關於完善現代公眾教育体系和構建教育体系的研究.中国教育學刊.2004.1,p.39-41.
- 36.吳遵民.我国終身教育政策的回顧与分析.教育發展研究.2012.9,p.53-58.
- 37.吳遵民.中国終身教育体系為何難以構建.現代遠程教育研究.2014.3,p.27-31,38.
- 38.吳遵民.終身教育的基本概念.江蘇開放大學學報.2016.1,p.75-79.
- 39.熊培松.老齡化社会背景下公共図書館多元化服務模式的創新与發展.農業図書館情報學刊.2018.3,p.174-177.
- 40.肖雪.促進老年人閱讀的公共図書館創新研究.周建巍.天津大學出版社.2010,306p.
- 41.肖雪 王子舟.公共図書館服務与老年人閱讀現狀及調查. 圖書情報知識.2009,p.25-42.

- 42.肖雪 周静.老龄化背景下我国公共图书馆老年服务状况的调查与分析.图书馆情报知识. 2013,p.16-27.
- 43.葉青 安川林ほか.関与終身学習研究機制和方法的探索.情報雑誌,2011.12,p.238-242.
- 44.尹新源.終身学習与図書館.学術探討・工作研究.2003,p.18-19.
- 45.余燕芳.終身学習平台構建研究.北京經濟科学出版社.第1版.2014.9,298p.
- 46.中国人大網.中華人民共和国公共図書館法.2017年(2017年11月4日第12期全国人民代表大会常務委員会第13回会議修正通過),
http://www.gov.cn/gongbao/content/2004/content_62714.htm(参照 2017-11-20)
- 47.中国社会科学院語言研究所詞典編輯室.現代漢語詞典(第5版).北京商務印書館.2008.4,p.1767.
- 48.中華人民共和国国家統計局.“2010年第六次全国人口普查主要数据公報(第1号)”.
2011-4-28,中華人民共和国国家統計局のウェブページ.
http://www.stats.gov.cn/tjsj/tjgb/rkpcgb/qgrkpcgb/201104/t20110428_30327.html (参照 2018-5-7)
- 49.中華人民共和国国家統計局.国家数据.年度数据.文化.公共図書館.
<http://data.stats.gov.cn/easyquery.htm?cn=C01>(参照 2018-9-30)
- 50.中華人民共和国国家統計局.国家数据.年度数据.綜合指標.行政区画.
<http://data.stats.gov.cn/easyquery.htm?cn=C01> (参照 2018-9-30)
- 51.中華人民共和国文化部.公共図書館服務規範.2011,
<http://183.63.187.8/crowd/doc/fwgf.pdf>(参照 2017-11-5)
- 52.中華人民共和国中央人民政府.中華人民共和国憲法.2004年,(2004年3月14日第10期全国人民代表大会第2回会議修正通過)
http://www.gov.cn/gongbao/content/2004/content_62714.htm(参照 2017-11-5)
- 53.中華人民共和国中央人民政府.中華人民共和国行政区画.http://www.gov.cn/test/2005-06/15/content_18253.htm.(参照 2018-10-1)
- 54.中華人民共和国国务院.中国教育改革和發展綱要.1993.
http://old.moe.gov.cn/publicfiles/business/htmlfiles/moe/moe_177/200407/2484.html. (参照 2018-8-22)
- 55.中華人民共和国国务院.中共中央国务院關於深化教育改革全面推進素質教育的決定.1999.
http://old.moe.gov.cn/publicfiles/business/htmlfiles/moe/moe_177/200407/2478.html
(参照 2018-10-8)

56. 中華人民共和國教育部. 教育部關於印發《掃文教育課程設置及教學材料編寫指導綱要》的通知. 2011. http://www.moe.gov.cn/srcsite/A06/s3321/201104/t20110425_120118.html(參照 2018-10-8)
57. 中華人民共和國教育部. 面向 21 世紀教育振興行動計畫. 1998.
http://old.moe.gov.cn/publicfiles/business/htmlfiles/moe/moe_177/200407/2487.html. (參照 2017-11-8)
58. 中華人民共和國教育部. 中國教育發展概況. 2015.6.
http://old.moe.gov.cn/publicfiles/business/htmlfiles/moe/moe_163/200408/2692.html(參照 2018-10-8)
59. 中華人民共和國教育部. “中華人民共和國教育法”. 2015 年.
http://www.moe.edu.cn/s78/A02/zfs_left/s5911/moe_619/201512/t20151228_226193.html(參照 2018-7-7)
60. 中華人民共和國文化和旅遊部. 文化部關於命名一、二、三級圖書館的決定. <http://www.cpll.cn/law7302.shtml>(參照 2018-6-25)
61. 中華人民共和國中央人民政府. 國家中長期教育改革和發展規畫綱要(2010-2020 年). 2010.
http://www.gov.cn/jrzq/2010-07/29/content_1667143.htm(參照 2018-9-23)
62. 中共杭州市委 杭州市人民政府. 杭州概況. “中國杭州”政府門戶網站.
http://www.hangzhou.gov.cn/art/2015/12/16/art_1085336_346424.html(參照 2018-7-8)
63. 曾穎. 終身學習與圖書館老年讀者服務. 科技情報與經濟. 2009, p.90-92.

< 英語文獻 >

1. ALA. Guidelines for Library and Information Services to older Adults. 2008,
<https://journals.ala.org/index.php/rusq/article/viewFile/3692/4026>(參照 2018-9-1)
2. Bertrand Schwartz. 生涯教育-21 世紀的教育改革. 岸本幸次郎ほか訳. 明治図書出版株式会社. 1980.3, p.59.
3. Library Services to Older Adults Guidelines. 1996,
<http://www.ala.org/Template.cfm?Section=adultlibrary&template=/ContentManagement/ContentDisplay.cfm&ContentID=26943>(參照 2018-9-1)
4. United Nations. The aging of populations and its economic and social implications. United Nations, Journal of the Royal Statistical Society. Series A (General) Vol. 121, No. 2 (1958), p. 253-254

付録

付録 1: アンケート調査に用いた質問項目

アンケート調査項目

一. 図書館の利用 経験と満足度 (9 項目)	1. 杭州図書館を利用する頻度 A. ほぼ毎日 B. 週 1 回か 2 回 C. 半月に 1 回 D. 月に一回 E. 年に数回 F. その他()
	2. 杭州図書館の利用時間 A. 1 日間 B. 6 時間 C. 3 時間 D. 2 時間 E. 1 時間
	3. 杭州図書館の施設・設備に満足できるか。 A. 非常に満足 B. やや満足 C. どちらともいえない D. やや不満 E. 非常に不満
	4. 杭州図書館の資料の利用に満足できるか。 A. 非常に満足 B. やや満足 C. どちらともいえない D. やや不満 E. 非常に不満
	5. 杭州図書館のサービスの利用に満足できるか。 A. 非常に満足 B. やや満足 C. どちらともいえない D. やや不満 E. 非常に不満
	6. 過去一年間、杭州図書館の高齢者に関するプログラムに参加したことがあるか。 A. ある・1 回 B. ある・2～10 回 C. ある・11～30 回 D. ある・31 回以上 E. ない
	7. (「ある」を選んだ人だけ) 参加した杭州図書館の高齢者に関するプログラムは以下の何(複数選択できる) A. 時光之旅 B. 先生のお話聞こう C. 生活偶々得た知恵 D. 癒される読書 E. 中国国学と民俗の講座 F. 料理教室 G. 歴史の講習会 H. 音楽鑑賞 I. 健康の講習会 J. 生け花の体験教室 K. 中国芝居と映画鑑賞 L. 中国の伝統芸能の展示会 M. 中国書道・水墨画に関する展示会 N. 写真の展示会 O. 篆刻の展示会 P. その他()

	<p>8. 杭州図書館の高齢者に関するプログラムの利用に満足できるか。 A. 非常に満足 B. やや満足 C. どちらともいえない D. やや不満 E. 非常に不満</p> <p>9. 杭州図書館に来る理由を自由に述べてください。</p>
二. 生涯学習について(6 項目)	<p>1. 「生涯学習」という言葉がわかるか。(生涯学習とは、家庭教育や学校教育、社会教育、個人の自学自習など、人々が生涯にわたって取り組む学習のことを指します。) A. わかる B. わからない</p> <p>2. 普段はどの場所で生涯学習を実践するか。(複数選択できる) A. 家 B. コミュニティ C. 図書館・博物館・美術館 D. 老年大学 E. その他() F. 実践したことない</p> <p>3. 公共図書館で生涯学習をしたことの経験があるか。A. ある B. ない</p> <p>4. (前問に「ある」を選んだ人だけ) 公共図書館にどのような形式で生涯学習を実践するか。(複数選択できる) A. 書籍と資料の閲覧 B. 公共図書館プログラムに参加する C. 公共図書館と協働する D. その他()</p> <p>5. 公共図書館で生涯学習を実践することに満足できるか。 A. 非常に満足 B. やや満足 C. どちらともいえない D. やや不満 E. 非常に不満</p> <p>6. (第 3 問に「ない」を選んだ人だけ) 公共図書館で生涯学習をしない理由を教えてください。</p>
三. 杭州図書館との協働について(4 項目)	<p>1. 杭州図書館との協働の経験があるか。 A. ある B. ない</p> <p>2. (「ある」を選んだ人だけ) 杭州図書館と協働することに関わる理由とを自由に述べてください。</p> <p>3. 杭州図書館でボランティアをする経験があるか。 A. ある B. ない</p> <p>4. (「ある」を選んだ人だけ) 杭州図書館でボランティアをした理由を自由に述べてください。</p>
四. 回答者について(3 項目)	<p>1. 性別を聞かしてください。 A. 男性 B. 女性</p> <p>2. 年齢を聞かしてください。()</p> <p>3. 最終学歴を聞かしてください A. 大学院(中退・卒業) B. 大学(中退・卒業)</p>

	C.高等学校(中退・卒業) D.専門学校(中退・卒業) E.中学校(中退・卒業) F.小学校(中退・卒業) G.その他()
--	--

付録 2: インタビュー調査に用いた質問項目

インタビュー調査項目(主任)

一.生涯学習について (2 項目)	1.生涯学習に関するサービスへの意識についての考えは何か
	2.生涯学習に関するサービスに関する杭州図書館の方針の展望は何か
二.高齢者サービスについて (2 項目)	1.今ある高齢者サービスに関する考えは何か
	2.今後高齢者サービスへの展望は何か
三.利用者として的高齢者との協働について(2 項目)	1.利用者として的高齢者との協働への考えは何か
	2.利用者として的高齢者との協働への展望は何か
四.杭州図書館の毎月に行っているプログラムについて (3 項目)	1.杭州図書館の毎月に行っているプログラムの方針への考えは何か
	2.高齢者に関するプログラムについての考えは何か
	3.今後高齢者に関するプログラムへの展望は何か

インタビュー調査項目（杭州図書館の図書館員）

一.生涯学習について (4 項目)	1.生涯学習の意識について
	2.生涯学習に関する考えは何か
	3.図書館が生涯学習に関するサービスを行う目的は何か
	4.高齢利用者の生涯学習に関する活動への参加状況
二.高齢者にサービスを 提供する状況 (3 項目)	1.資料の提供状況
	2.施設・設備の提供状況
	3.高齢者サービスの提供状況
三.高齢者の杭州図書 館の利用状況について (3 項目)	1.資料の利用状況
	2.施設・設備の利用状況は
	3.高齢者サービスの利用状況
四.今後の課題 (2 項目)	1.今後高齢者サービスへの展望は何か
	2.今後生涯学習に関するサービスへの展望は何か

インタビュー調査項目（高齢者による高齢者プログラムの担当講師）

一. 回答者について (7 項目)	1.年齢
	2.「時光之旅」プログラムと自分の職歴に関係があると思うか
	3.公共図書館の利用頻度と目的
	4.図書館の資料の利用について
	5.あなたにとって、図書館はどのような場所
	6 杭州図書館生活主題分館以外の活動について
	7.公共図書館で「時光之旅プログラム」以外の高齢者プログラムを行う予定について
二.「時光之旅プログラム」を 始まるきっかけと経緯(4 項目)	1.文化サービスシステムの施設から、公共図書館を選んだ理由
	2.公共図書館の中で杭州図書館生活主題分館を選んだ理由
	3.図書館で実施することの長所・短所について
	4.「時光之旅プログラム」のきっかけについて
三.「時光之旅プログラム」の 運営の事項および杭州図書館との交渉(5 項目)	1.「時光之旅プログラム」を実施する形式・内容について
	2.「時光之旅プログラム」の宣伝について
	3.いつまで「時光之旅プログラム」を続ける予定
	4.「時光之旅プログラム」を行うため工夫していること
	5.報酬について
四.生涯学習について (8 項目)	1.生涯学習に関する認識
	2.「時光之旅プログラム」をやっていることと、自分が生涯学習を実践することとの関係
	3.「時光之旅プログラム」を実施するために、学んだこと
	4.「時光之旅プログラム」を実施する間に、学んだことについて
	5.「時光之旅プログラム」を実施する間に、活用したことについて
	6.今は何をために、どのような感心か目的を持って、何を学んでいる？
	7.「時光之旅プログラム」を続ける意義
	8.「時光之旅プログラム」から得たものについて
五.協働について(2 項目)	1.「時光之旅プログラム」を行う目的について、杭州図書館生

	活主題分館と一致しているか
	2.他の文化サービスシステムの施設と協働する予定について